科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
イギリス文学研究AI	遠藤　不比人	7
イギリス文学研究AII	遠藤　不比人	11
イギリス文学研究BI	正岡　和恵	15
イギリス文学研究B II	正岡　和恵	19
アメリカ文学研究AI	庄司　宏子	23
アメリカ文学研究AII	庄司　宏子	27
アメリカ文学研究BI	下河辺　美知子	31
アメリカ文学研究BII	下河辺　美知子	35
英語教育研究AI	小野　尚美	39
英語教育研究AII	小野　尚美	43
英語教育演習A	ロブソン　ゴードン　レーン	47
Thesis　Writing	ラルフ　ジェイムズ　バーナビー	53
アメリカ文学コア・カリキュラムB	権田　建二	59
英語学コア・カリキュラムA	平山　真奈美	63
英語教育コア・カリキュラムA	マティカイネン　ティーナ	67
論文演習I	小野　尚美	71
論文演習II	小野　尚美	73
論文演習I	下河辺　美知子	75
論文演習II	下河辺　美知子	77
論文演習I	遠藤　不比人	79
論文演習II	遠藤　不比人	81
論文演習I	正岡　和恵	83
論文演習II	正岡　和恵	85
論文演習I	平山　真奈美	87
論文演習II	平山　真奈美	89
論文演習I	日比野　啓	91
論文演習II	日比野　啓	93
論文演習I	庄司　宏子	95
論文演習II	庄司　宏子	97
論文演習I	権田　建二	99
論文演習II	権田　建二	101
チュートリアルI	小野　尚美	103
チュートリアルII	小野　尚美	105
チュートリアルI	下河辺　美知子	107
チュートリアルII	下河辺　美知子	109
チュートリアルI	遠藤　不比人	111
チュートリアルII	遠藤　不比人	113
チュートリアルI	正岡　和恵	115
チュートリアルII	正岡　和恵	117
チュートリアルI	平山　真奈美	119

チュートリアルII	平山　真奈美	121
チュートリアルI	日比野　啓	123
チュートリアルII	日比野　啓	125
チュートリアルI	庄司　宏子	127
チュートリアルII	庄司　宏子	129
チュートリアルI	権田　建二	131
チュートリアルII	権田　建二	133
イギリス文学特殊研究A	遠藤　不比人	135
イギリス文学特殊研究B	正岡　和恵	141
アメリカ文学特殊研究A	庄司　宏子	147
アメリカ文学特殊研究B	下河辺　美知子	153
英語教育特殊研究A	小野　尚美	159
英語教育特殊研究B	ロブソン　ゴードン　レーン	165
論文演習III	小野　尚美	171
論文演習IV	小野　尚美	173
論文演習V	小野　尚美	175
論文演習III	正岡　和恵	177
論文演習IV	正岡　和恵	179
論文演習V	正岡　和恵	181
論文演習III	下河辺　美知子	183
論文演習IV	下河辺　美知子	185
論文演習V	下河辺　美知子	187
論文演習III	遠藤　不比人	189
論文演習IV	遠藤　不比人	191
論文演習V	遠藤　不比人	193
論文演習III	庄司　宏子	195
論文演習IV	庄司　宏子	197
論文演習V	庄司　宏子	199
古典文学共通講義I	吉田　幹生	201
古典文学共通講義II	吉田　幹生	205
近代文学共通講義I	杉井　和子	209
近代文学共通講義II	杉井　和子	213
日本語学共通講義I	森　雄一	217
日本語学共通講義II	森　雄一	221
文献資料共通講義I	揖斐　高	225
文献資料共通講義II	揖斐　高	229
古代文学研究B	木谷　眞理子	233
近世文学研究	揖斐　高	239
近代文学研究A	林　廣親	245
近代文学演習B	浜田　雄介	251
論文演習I	林　廣親	257

論文演習II	林　廣親	・・・・・・・・	259
論文演習I	浜田　雄介	・・・・・・・・	261
論文演習II	浜田　雄介	・・・・・・・・	263
論文演習I	森　雄一	・・・・・・・・	265
論文演習II	森　雄一	・・・・・・・・	267
論文演習I	木谷　眞理子	・・・・・・・・	269
論文演習II	木谷　眞理子	・・・・・・・・	271
論文演習I	吉田　幹生	・・・・・・・・	273
論文演習II	吉田　幹生	・・・・・・・・	275
課題研究I	林　廣親	・・・・・・・・	277
課題研究II	林　廣親	・・・・・・・・	279
課題研究I	浜田　雄介	・・・・・・・・	281
課題研究II	浜田　雄介	・・・・・・・・	283
課題研究I	森　雄一	・・・・・・・・	285
課題研究II	森　雄一	・・・・・・・・	287
課題研究I	木谷　眞理子	・・・・・・・・	289
課題研究II	木谷　眞理子	・・・・・・・・	291
課題研究I	吉田　幹生	・・・・・・・・	293
課題研究II	吉田　幹生	・・・・・・・・	295
古典文学特殊講義I	吉田　幹生	・・・・・・・・	297
古典文学特殊講義II	吉田　幹生	・・・・・・・・	301
近代文学特殊講義I	杉井　和子	・・・・・・・・	305
近代文学特殊講義II	杉井　和子	・・・・・・・・	309
日本語学特殊講義I	森　雄一	・・・・・・・・	313
日本語学特殊講義II	森　雄一	・・・・・・・・	317
文献資料特殊講義I	揖斐　高	・・・・・・・・	321
文献資料特殊講義II	揖斐　高	・・・・・・・・	325
古代文学特殊研究B	木谷　眞理子	・・・・・・・・	329
近世文学特殊研究	揖斐　高	・・・・・・・・	335
近代文学特殊研究A	林　廣親	・・・・・・・・	341
近代文学特殊研究B	浜田　雄介	・・・・・・・・	347
論文演習III	森　雄一	・・・・・・・・	353
論文演習IV	森　雄一	・・・・・・・・	355
論文演習V	森　雄一	・・・・・・・・	357
論文演習III	吉田　幹生	・・・・・・・・	359
論文演習IV	吉田　幹生	・・・・・・・・	361
論文演習V	吉田　幹生	・・・・・・・・	363
論文演習III	林　廣親	・・・・・・・・	365
論文演習IV	林　廣親	・・・・・・・・	367
論文演習V	林　廣親	・・・・・・・・	369
論文演習III	浜田　雄介	・・・・・・・・	371

論文演習IV	浜田　雄介	・・・・・・・・	373
論文演習V	浜田　雄介	・・・・・・・・	375
欧米文化研究I	中野　由美子	・・・・・・・・	377
欧米文化研究II	中野　由美子	・・・・・・・・	381
国際社会文化研究I	墓田　桂	・・・・・・・・	385
国際社会文化研究II	墓田　桂	・・・・・・・・	389
文化人類学研究I	細谷　広美	・・・・・・・・	393
文化人類学研究II	細谷　広美	・・・・・・・・	397
歴史研究BI	佐々木　紳	・・・・・・・・	401
歴史研究BII	佐々木　紳	・・・・・・・・	405
社会学研究AI	渡邉　大輔	・・・・・・・・	409
社会学研究AII	渡邉　大輔	・・・・・・・・	413
社会学研究BI	小林　盾	・・・・・・・・	417
社会学研究BII	小林　盾	・・・・・・・・	421
メディア・コミュニケーション研究AI	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	425
メディア・コミュニケーション研究AII	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	429
メディア・コミュニケーション研究BI	今田　絵里香	・・・・・・・・	433
メディア・コミュニケーション研究BII	今田　絵里香	・・・・・・・・	437
地域福祉・NPO研究I	澁谷　智子	・・・・・・・・	441
地域福祉・NPO研究II	澁谷　智子	・・・・・・・・	445
国際社会文化演習	川村　陶子	・・・・・・・・	449
文化人類学演習	堀内　正樹	・・・・・・・・	455
歴史演習A	有富　純也	・・・・・・・・	461
歴史演習B	松浦　義弘	・・・・・・・・	467
女性史・ジェンダー演習	竹内　敬子	・・・・・・・・	473
社会学演習A	中江　桂子	・・・・・・・・	479
社会学演習B	稲葉　佳奈子	・・・・・・・・	485
メディア・コミュニケーション演習A	見城　武秀	・・・・・・・・	491
メディア・コミュニケーション演習B	西　兼志	・・・・・・・・	497
地域福祉・NPO演習	高田　昭彦	・・・・・・・・	503
論文演習I	有富　純也	・・・・・・・・	509
論文演習II	有富　純也	・・・・・・・・	511
論文演習I	西　兼志	・・・・・・・・	513
論文演習II	西　兼志	・・・・・・・・	515
論文演習I	見城　武秀	・・・・・・・・	517
論文演習II	見城　武秀	・・・・・・・・	519
論文演習I	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	521
論文演習II	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	523
論文演習I	渡邉　大輔	・・・・・・・・	525
論文演習II	渡邉　大輔	・・・・・・・・	527
論文演習I	今田　絵里香	・・・・・・・・	529

論文演習II　今田　絵里香　……　531
論文演習I　竹内　敬子　……　533
論文演習II　竹内　敬子　……　535
論文演習I　中野　由美子　……　537
論文演習II　中野　由美子　……　539
論文演習I　堀内　正樹　……　541
論文演習II　堀内　正樹　……　543
論文演習I　松浦　義弘　……　545
論文演習II　松浦　義弘　……　547
論文演習I　細谷　広美　……　549
論文演習II　細谷　広美　……　551
論文演習I　墓田　桂　……　553
論文演習II　墓田　桂　……　555
論文演習I　川村　陶子　……　557
論文演習II　川村　陶子　……　559
論文演習I　小林　盾　……　561
論文演習II　小林　盾　……　563
課題研究I　有富　純也　……　565
課題研究II　有富　純也　……　567
課題研究I　西　兼志　……　569
課題研究II　西　兼志　……　571
課題研究I　見城　武秀　……　573
課題研究II　見城　武秀　……　575
課題研究I　伊藤　昌亮　……　577
課題研究II　伊藤　昌亮　……　579
課題研究I　渡邉　大輔　……　581
課題研究II　渡邉　大輔　……　583
課題研究I　今田　絵里香　……　585
課題研究II　今田　絵里香　……　587
課題研究I　竹内　敬子　……　589
課題研究II　竹内　敬子　……　591
課題研究I　中野　由美子　……　593
課題研究II　中野　由美子　……　595
課題研究I　堀内　正樹　……　597
課題研究II　堀内　正樹　……　599
課題研究I　松浦　義弘　……　601
課題研究II　松浦　義弘　……　603
課題研究I　細谷　広美　……　605
課題研究II　細谷　広美　……　607
課題研究I　墓田　桂　……　609
課題研究II　墓田　桂　……　611

課題研究I	川村　陶子	・・・・・・・・	613
課題研究II	川村　陶子	・・・・・・・・	615
課題研究I	小林　盾	・・・・・・・・	617
課題研究II	小林　盾	・・・・・・・・	619
欧米文化特殊研究B	中野　由美子	・・・・・・・・	621
国際社会文化特殊研究A	川村　陶子	・・・・・・・・	627
国際社会文化特殊研究B	墓田　桂	・・・・・・・・	633
文化人類学特殊研究A	堀内　正樹	・・・・・・・・	639
文化人類学特殊研究B	細谷　広美	・・・・・・・・	645
歴史特殊研究B	有富　純也	・・・・・・・・	651
歴史特殊研究C	竹内　敬子	・・・・・・・・	657
歴史特殊研究D	松浦　義弘	・・・・・・・・	663
社会学特殊研究A	小林　盾	・・・・・・・・	669
社会学特殊研究B	高田　昭彦	・・・・・・・・	675
社会学特殊研究C	中江　桂子	・・・・・・・・	681
メディア・コミュニケーション特殊研究A	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	687
論文演習III	竹内　敬子	・・・・・・・・	693
論文演習IV	竹内　敬子	・・・・・・・・	695
論文演習V	竹内　敬子	・・・・・・・・	697
論文演習III	松浦　義弘	・・・・・・・・	699
論文演習IV	松浦　義弘	・・・・・・・・	701
論文演習V	松浦　義弘	・・・・・・・・	703
論文演習III	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	705
論文演習IV	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	707
論文演習V	伊藤　昌亮	・・・・・・・・	709
論文演習III	小林　盾	・・・・・・・・	711
論文演習IV	小林　盾	・・・・・・・・	713
論文演習V	小林　盾	・・・・・・・・	715
論文演習III	細谷　広美	・・・・・・・・	717
論文演習IV	細谷　広美	・・・・・・・・	719
論文演習V	細谷　広美	・・・・・・・・	721
論文演習III	堀内　正樹	・・・・・・・・	723
論文演習IV	堀内　正樹	・・・・・・・・	725
論文演習V	堀内　正樹	・・・・・・・・	727
学際分野特殊研究（原子核のエネルギー）	富谷　光良	・・・・・・・・	729
学際分野特殊研究（知的財産と経営）	岡田　桂治	・・・・・・・・	733
学際分野特殊研究（力学系の理論と応用）	藤垣　芳文	・・・・・・・・	737
学際分野特殊研究（科学の考え方I）	瀬戸　一夫	・・・・・・・・	741
学際分野特殊研究（科学の考え方II）	瀬戸　一夫	・・・・・・・・	745

科目名	イギリス文学研究ＡＩ		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071311101	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

英語圏の文学研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。前期においてはその嚆矢ともいえる、Sigmund Freudの"The Uncanny" （「不気味なもの」）を精読する。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。
②この視点から文学テクストに自身の視点から問題を発見できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	テクストに関する導入。	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	９０分
第2回	テクストの読解１	
	指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第3回	テクストの読解２	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分

第4回	テクストの読解３	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第5回	テクストの読解４	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第6回	テクストの読解５	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第7回	テクストの読解６	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第8回	テクストの読解７	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第9回	テクストの読解８	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分

第10回	テクストの読解９	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第11回	テクストの読解１０	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第12回	テクストの読解１１	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第13回	テクストの読解１２	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第14回	テクストの読解１３	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	９０分
第15回	総括的議論	
	総括的議論のために	９０分

授業の方法
担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法
発表（３０％）とterm paperの質（７０％）。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
上記の批評理論について自習をされたい。

テキスト
担当者がコピーを用意する。

参考書
適宜複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学研究ＡII		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071311102	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

英語圏の文学／文化研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。Bill Brown, Nicholas Royle, Barbara Johnsonらの論文がテクストになる。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。
②この視点から文学テクストに自身の視点から問題を発見できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Thing Theoryの導入的な講義１	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	９０分
第2回	Thing Theoryの導入的な講義２	
	前回の問題点の確認	９０分
第3回	Brownの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分

第4回	Brownの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第5回	Brownの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第6回	Brownの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第7回	Royleの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第8回	Royleの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第9回	Royleの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分

第10回	Royleの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第11回	Johnsonの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第12回	Johnsonの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第13回	Johnsonの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第14回	Johnsonの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	１２０分
第15回	まとめ	
	学期を通じての議論の復習	１２０分

授業の方法
担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法
発表（30%）とterm paperの質(70%)。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
前期で獲得した知識。

テキスト
コピーで配布する。

参考書
適宜複数紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学研究ＢⅠ		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071311103	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

シェイクスピアの四大悲劇の一つである『ハムレット』を読む。テクストの精読および多様なメディアによる翻案をつうじて、解釈の多面性に触れる。また、代表的な論文を読むことによって批評理論のいくつかの型を修得し、実践へとつなげる。

到達目標

DP6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。
①テクストと作家を歴史的文脈の中に位置づけ、より精緻に分析できる。
②テクスト内外に関する知識を養い、さまざまな事象を説明できる。
③批評理論にのっとった解釈の型を習得し、みずからの論文に応用できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 『ハムレットに関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。	
	テキスト（翻訳）を読み、登場人物やあらすじについて理解しておくこと。	60
第2回	イントロダクション 材源、主題、批評史、復讐悲劇の伝統など、背景知識について学ぶ。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第3回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60

第4回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第6回	1幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第7回	２幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第8回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60

第10回	2幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第11回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第12回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第13回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第14回	３幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第15回	興味のある批評文献（短いもの）を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえ発表する。	
	指定された文献を読んでくること。	60

授業の方法
ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法
平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト
Shakespeare, William. Hamlet . Edited by Ann Thompson and Neil Taylor. The Arden Shakespeare Third Series.
The Arden Shakespeare

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	イギリス文学研究B II		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071311104	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

前期に引き続いて、『ハムレット』を読む。映画や上演のＤＶＤをつうじて、シェイクスピア作品ののアダプテーションや二次利用について考える。

到達目標

DP6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。
①テクストと作家を歴史的文脈の中に位置づけ、より精緻に分析できる。
②テクスト内外に関する知識を養い、さまざまな事象を説明できる。
③批評理論にのっとった解釈の型を習得し、みずからの論文に応用できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 前期を振り返り、『ハムレット』に関連するさまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	前期のポイントを復習しておくこと。	30
第2回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第3回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60

第4回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	4幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第6回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第7回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第8回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	5幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60

第10回	劇全体を振り返り、さまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60
第11回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第12回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第13回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第14回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第15回	興味のある二次利用のテクストや論文を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえて発表する。	
	指定された文献を読んでくること。	60

授業の方法
ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法
平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト
Shakespeare, William. Hamlet. Edited by Ann Thompson and Neil Taylor, The Arden Shakespeare Third Series, The Arden Shakespeare.

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	アメリカ文学研究ＡＩ		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071311201	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

Edward W. SaidのMoby-Dick論、Moby-Dickをグローバリゼーションの視点から捉えた文献を読みながら、グローバリゼーションの現代における文学研究、ポストコロニアリズムの批評の可能性、ポストコロニアリズム以降の問題系について考察する。そのほかディアスポラに関する最近のアメリカ文学作品を読む。

到達目標

DP6を実現するため、次の４点を到達目標とする。
・アメリカ文学のテクストとそれに関連する批評を丹念に読むことで、テクスト読解力や文学批評の視点を身につけ、研究論文を書く力を身につける。
・建国期アメリカ文学とアメリカ合衆国を取り巻く歴史的・政治的状況との関連の知識を習得する。
・文学研究の学問的意義や独創性について理解し、自らの研究テーマの設定に生かすことができるようになる。
・ポストコロニアル批評の理論やタームを取得し、自分の論文に展開することができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の内容、方法について説明する。取り上げる文学作品や批評文献を紹介し、テクストを配布する。	
	アメリカ文学に関する最近の研究動向について調べて来ること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えてくること。	60分
第2回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第3回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分

第4回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第5回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第6回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第7回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第8回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第9回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分

第10回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第11回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第12回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第13回	Brownの作品、およびそれに関連する批評文献を読む。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第14回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第15回	前期授業の統括をする。	
	授業内容を理解し、必要な文献を調べて来ること。	120分

授業の方法
テクストの読解とディスカッションからなる演習形式。

成績評価の方法
平常点（予習、授業への参加度、ディスカッション、発表など）50%や時折のレポート50%から評価する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
James Annesley, "Melville's No Logo: Moby-Dick and the Globalisation Debate" Third Text, Vol. 18, Issue 1, 2004, pp. 13-23 など。
批評文献はコピーで配布する。

参考書
Bill Ashcroft, Gareth Griffiths, Helen Tiffin (eds.), The Post-Colonial Studies Reader (Routledge, 2006) ISBN-10: 0415345650
その他、適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学研究ＡII		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071311202	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

前期に引き続きアメリカ文学の主要作品に関する批評文献を読みながら、その他Edward W. Said、Homi K. Bhabha、Edward Kamau Brathwaite、Simon Gikandi、George Lamming、Arjun Appaduraiなどの論文を読み、グローバリゼーションの現代におけるポストコロニアリズムの批評の可能性、ポストコロニアリズム以降の問題系について考察する。

到達目標

DP6を実現するため、次の４点を到達目標とする。
・アメリカ文学のテクストとそれに関連する批評を丹念に読むことで、テクスト読解力や文学批評の視点を身につけ、研究論文を書く力を身につける。
・建国期アメリカ文学とアメリカ合衆国を取り巻く歴史的・政治的状況との関連の知識を習得する。
・文学研究の学問的意義や独創性について理解し、自らの研究テーマの設定に生かすことができるようになる。
・ポストコロニアル批評の理論やタームを取得し、自分の論文に展開することができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の内容、方法について説明する。取り上げる文学作品や批評文献を紹介し、テクストを配布する。	
	アメリカ文学に関する最近の研究動向について調べて来ること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えてくること。	60分
第2回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第3回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分

第4回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第5回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第6回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第7回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第8回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第9回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分

第10回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第11回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第12回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第13回	Brownの作品、およびそれに関連する批評文献を読む。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第14回	上記の批評文献を読み、ディスカッションを行う。	
	授業で取り上げる文学テクスト、批評文献を丹念に読み、関連する分野について調べて来ること。	120分
第15回	前期授業の統括をする。	
	授業内容を理解し、必要な文献を調べて来ること。	120分

授業の方法
テクストの読解とディスカッションからなる演習形式。

成績評価の方法
平常点（予習、授業への参加度、ディスカッション、発表など）50%や時折のレポート50%から評価する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
批評文献はコピーで配布する。

参考書
Bill Ashcroft, Gareth Griffiths, Helen Tiffin (eds.), The Post-Colonial Studies Reader (Routledge, 2006) ISBN-10: 0415345650
その他、適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学研究ＢⅠ		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071311203	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

アメリカ文学のテクスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。

今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。

到達目標

DP7【問題発見能力および多面的な分析能力】を実現するため、次の点を到達目標とする。
①二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得する。
②あわせて、グローバリズム世界の中で日本人としてアメリカ社会の現実をみすえる視点を持つ。
③先行研究論文を読み、それをもとに自分の問題を設定して学術論文に仕立て上げる分析力を獲得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス　ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間
第2回	「バートルビー」読み１ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第3回	「バートルビー」 読み２ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第4回	「バートルビー」 読み3 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「バートルビー」読み４ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「バートルビー」読み5 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	映画鑑賞	
	これまでに作られた『白鯨』映画を調べておくこと。	1時間
第8回	「バートルビー」読み６ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「バートルビー」 読み７ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第10回	「バートルビー」読み８ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第11回	「バートルビー」読み９ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「バートルビー」読み１０ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テクストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備２ 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法
講義と演習

成績評価の方法
学年末レポート（60%）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし

テキスト
Herman Melville,"Pierre, Israel Potter, The Piazza Tales, The Confidence-Man, Uncollected Prose, Billy Budd" (The Library of America, 1984)
Gayatri C. Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)
Yunte Huang, "Transpacific Imaginations" (Harvard University Press, 2008)

参考書
Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings:The Monroe Doctrine and Narratives of U.S.Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continets:American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学研究ＢII		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071311204	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

アメリカ文学のテクスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。

今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。

到達目標

DP7【問題発見能力および多面的な分析能力】を実現するため、次の点を到達目標とする。
①二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得する。
②あわせて、グローバリズム世界の中で日本人としてアメリカ社会の現実をみすえる視点を持つ。
③先行研究論文を読み、それをもとに自分の問題を設定して学術論文に仕立て上げる分析力を獲得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス　ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間
第2回	「ジョン・マー」読み１ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第3回	「ジョン・マー」読み２ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第4回	「ジョン・マー」読み3 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「ジョン・マー」読み４ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「ジョン・マー」読み5 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	１９世紀の航海についてのドキュメント	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第8回	「ジョン・マー」読み１ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「ジョン・マー」読み２ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第10回	「ジョン・マー」読み３ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第11回	「ジョン・マー」読み４ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「ジョン・マー」読み５ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テクストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備２ 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法
講義と演習

成績評価の方法
学年末レポート（60%）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし

テキスト
Herman Melville, "The Poems of Herman Melville" (The Kent State UP 2000)
Gayatri Chakravorty Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)

参考書
Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings:The Monroe Doctrine and Narratives of U.S.Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continets:American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育研究ＡⅠ		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071311401	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業では、人の認知過程について考える。人はどのように読むのかについて考えていきながら、英語を外国語として学ぶ日本の学習者の英語習得法及び学習方法について模索していく。

到達目標

DP8を実現するために、以下の5点をこの授業の到達目標とする。

① 自分の研究テーマを決め、積極的にリサーチする。
② 英語で書かれた論文の読み方を学ぶ。
③ 英語による論文の書き方を学び、書けるようにする。
④ 授業で扱った内容に関連した本や論文を読み、知識を増やす。
⑤ リサーチのための統計処理の基本を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	自己紹介及び現在の研究や関心事について発表する。 授業運営についての説明を行う。 個人発表の割り当てを決める。	
	現在の研究における関心事、研究していることについて簡潔にまとめてくる。	60
第2回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Points of Departure and Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第3回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第4回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Cahpter 2)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第5回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 2)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第6回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 3)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第7回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 3)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第8回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第9回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第10回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第11回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 5)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第12回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 6)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第13回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 6)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第14回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 7)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第15回	課題発表会 前期の総括	
	課題発表の準備をする。	120

授業の方法

授業では、テキストを輪読し、内容理解を深める。さらに、扱っているそれぞれの話題について関係論文を読み、その内容について口頭発表し、レポートにまとめる。また、個人で興味のある話題についての研究発表を定期的に行い、小論文完成を目指す。

成績評価の方法

平常点（個人発表、ディスカッション等を含む）２０%、学期末プリゼンテーション及び期末論文を８０%とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部で、言語習得論、英語教育学の科目やゼミを履修していることが望ましいが、必修条件ではない。

テキスト

Wallace Catherine. (2003). Critical reading in Language Education. Palgrave Macmillan ISBN 14039 9339 4

この他の関係資料や論文は、授業内で配布、または指示する予定である。

参考書

Ellis, Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford University Press.
江藤裕之、前田樹海、田中建彦(訳). (2007). 『APA論文作成マニュアル』 医学書院.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』 研究社.
白畑知彦、若林茂則、村野井仁. (2010). 『詳説 第二言語習得研究 理論から研究方法まで』研究社.
鈴木良次（編集委員長）. (2006). 『言語科学の百科事典』 丸善株式会社.
寺内正典（編集代表）. (2012). 『英語教育学の実証的研究法入門』 研究社.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育研究ＡII		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071311402	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

前期に引き続きこの授業では、人の認知過程について考える。人はどのように読むのかについて考えていきながら、英語を外国語として学ぶ日本の学習者の英語習得法及び学習方法について模索していく。

到達目標

DP8を実現するために、以下の5点をこの授業の到達目標とする。
① 自分の研究テーマを決め、積極的にリサーチする。
② 英語で書かれた論文の読み方を学ぶ。
③ 英語による論文の書き方を学び、書けるようにする。
④ 授業で扱った内容に関連した本や論文を読み、知識を増やす。
⑤ リサーチのための統計処理の基本を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	テキストの輪読 & Discussion テキスト (Introduction)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第2回	テキストの輪読 & Discussion テキスト (Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第3回	テキストの輪読 & Discussion テキスト (Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第4回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter 1）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第5回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter 1）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第6回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第7回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第8回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第9回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120

第10回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第11回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第12回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第13回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第14回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第15回	課題発表会 後期の総括	
	課題発表の準備をする。	120

授業の方法

授業では、テキストを輪読し、内容理解を深める。さらに、扱っているそれぞれの話題について関係論文を読み、その内容について口頭発表し、レポートにまとめる。また、個人で興味のある話題についての研究発表を定期的に行い、小論文完成を目指す。

成績評価の方法

平常点（個人発表、ディスカッション等を含む）を２０%、学期末プリゼンテーション及び期末論文を８０%とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部で、言語習得論、英語教育学の科目を履修していることが望ましいが、必修条件ではない。前期の英語教育研究ＡIを履修済みでなければならない。

テキスト

Kintsch, Walter. (1998). Comprehension A paradigm for Cognition. Cambridege University Press.
ISBN 0 521 62986 1

この他の関係資料や論文は、授業内で配布、または指示する予定である。

参考書

Ellis, Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford University Press.
江藤裕之、前田樹海、田中建彦(訳). (2007). 『APA論文作成マニュアル』 医学書院.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』 研究社.
白畑知彦、若林茂則、村野井仁. (2010). 『詳説 第二言語習得研究 理論から研究方法まで』 研究社.
鈴木良次（編集委員長）. (2006). 『言語科学の百科事典』 丸善株式会社.
寺内正典（編集代表）. (2012). 『英語教育学の実証的研究法入門』 研究社.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育演習Ａ		
教員名	ロブソン　ゴードン　レーン		
科目ナンバー	2071312401	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

The theme of this class is research into individual learner differences. Based on the textbook, we will take a intensive look at the relationships between second language proficiency and personality, aptitude, motivation, learning styles, learning strategies, anxiety, creativity, the willingness to communicate, self-esteem and learner beliefs. We will begin with the history of research into individual learner differences, and the way in which such differences have been identified. We will then proceed through an intensive study of the previously listed variables. In addition to the textbook, key studies from each area of individual learner differences will be assigned for occasional student presentations.

到達目標

The goals of this coarse are to thoroughly familiarize students with the area of individual learner differences research, the type of instruments used, and the typical outcomes of such research. By providing students with this knowledge, it is hoped that it will contribute to their own areas of research interests.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction and Chapter 1, Individual Learner Differences -- Then and Now	
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14	90 min.
第2回	Chapter 1, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14.	90 min
第3回	Chapter 2, Personality	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34	90 min

第4回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34. Students will also read Dewaele & Furnham, Extraversion: The unloved variable in applied linguistic research with one student providing a summary.	90 min
第5回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34.	90 min
第6回	Chapter 3, Language Aptitude	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第7回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Nagata, Aline & Ellis, Modified input, language aptitude and the acquisition of word meanings with one student providing a summary.	90 min
第8回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第9回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Ross, Yoshinaga & Sasaki, Aptitude-exposure interaction effects on Wh-movement violation detection by pre- and post-critical period Japanese bilinguals with one student providing a summary.	90 min
第10回	Chapter 4, Motivation	

	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第11回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Noels, Clement & Pelletier, Intrinsic, extrinsic, and integrative orientations of French Canadian learners of English with one student providing a summary.	90 min
第12回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第13回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Ushioda, Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking with one student providing a summary.	90 min
第14回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第15回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the course. Students will announce their research areas.	90 min
第16回	Course introduction & Chapter 5, Learning Styles and Cognitive Styles	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第17回	Chapter 5, cont.	

	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139. Students will also read D?rnyei & Chan, Motivation and vision: An analysis of future L2 self images, sensory styles, and imagery capacity across two target languages with one student providing a summary	90 min
第18回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第19回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第20回	Chapter 6, Learning Strategies and Self-Regulation.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第21回	Chapter 6, cont.,	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169. Tseng, D?rnyei & Schmitt, A new approach to assessing strategic learning: The case of self-regulation in vocabulary acquisition with one student providing a summary.	90 min
第22回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第23回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第24回	Chapter 7, Other Learner Characteristics	

	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第25回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Horwitz, Language anxiety and achievement with one student providing a summary.	90 min
第26回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第27回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Yashima, Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context with one student providing a summary.	90 min
第28回	Chapter 8, Conclusion: Looking Back and Forward	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207.	90 min
第29回	Chapter 8, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207. Student research papers are due.	90 min
第30回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the courses.	90 min

授業の方法
This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented handouts and other materials. Students will be expected to actively participate during class time. Students will produce an individual learner differences study of between 10 and 20 pages in length. Students will also produce summaries of the assigned research studies.
成績評価の方法
The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 10% 2) summaries 20% and 3) research paper 70%.
成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目
N/A
テキスト
The Psychology of the Language Learner Revisited, Zoltan Dornyei and Stephen Ryan, Routledge, ISBN 978-1-138-01874-7
参考書
The Study of Second Language Acquisition, Second Edition, Rod Ellis.
質問・相談方法等(オフィス・アワー)
Questions will be taken before and after class.

科目名	Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ		
教員名	ラルフ　ジェイムズ　バーナビー、マティカイネン　ティ-ナ		
科目ナンバー	2071313001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

This course will cover research skills, structure, writing planning and style, plus other areas related to the production of a postgraduate-level dissertation in English. The course is designed to offer a flexible approach to study, and can be tailored to individual student needs. The classes will be conducted in English.

到達目標

This course will give students a deeper understanding of:

database usage
reading for content
annotation and literature reviews
writing in an appropriate style
presenting information concisely and cogently

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction and overview of course, plus evaluation of individual student needs.	
	Material review and project work ☐	1-2 hours
第2回	Writing/research skills: Developing a topic (1)	
	Sample topic derivation using in-class techniques	1-2 hours
第3回	Writing/research skills: Developing a topic (2)	
	Sample topic derivation using in-class techniques	1-2 hours

第4回	Writing/research skills: Structure and planning (1)	
	Sample plans on selected topics	1-2 hours
第5回	Writing/research skills: Structure and planning (2)	
	Expanded plans on selected topics, working towards first short paper	1-2 hours
第6回	Working with databases (1) - search terms	
	Material review and project work	1-2 hours
第7回	Working with databases (2) - reading for meaning	
	Material review and project work	1-2 hours
第8回	Annotation skills (1)	
	Short annotations following given format	1-2 hours
第9回	Annotation skills (2)	
	Short annotations following given format, working towards a full annotated bibliography	1-2 hours
第10回	Paper writing as a collaborative activity (1) - brainstorming and idea development	
	Material review and project work	1-2 hours

第11回	Paper writing as a collaborative activity (2) - peer reviewing skills	
	Material review and project work	1-2 hours
第12回	Written project workshop (a)	
	Developing longer research paper	1-2 hours
第13回	Written project workshop (b)	
	Developing longer research paper	1-2 hours
第14回	Written project workshop (c)	
	Developing longer research paper for submission	1-2 hours
第15回	Review of semester one and wrapup	
	Material review and self-evaluation	1-2 hours
第16回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins
第17回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins

第18回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins
第19回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第20回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第21回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第22回	Writing an introduction	
	Writing first draft of introduction	90 mins
第23回	Writing an introduction	
	Writing first draft of introduction	90 mins
第24回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins

第25回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins
第26回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins
第27回	Research Method	
	Writing first draft	90 mins
第28回	Research Method	
	Writing first draft	90 mins
第29回	Research Results/Discussion	
	Writing first draft	90 mins
第30回	Putting it all together and review	
	Write final draft of your paper	90 mins

授業の方法

The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade for semester one (Dr. Ralph) will be based on the following criteria:

1) classroom participation and activities 20%
2) short paper 20%
3) annotated bibliography 30%
4) longer paper 30%

The final grade for semester two (Dr. Matikainen) will be based on the following criteria:
Classroom participation and activities 30%
Writing drafts throughout the semester 30%
Final paper 40%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Other material will be sourced by students as required.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Office hour is shown on the the university portal site.

科目名	アメリカ文学コア・カリキュラムB		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	2071313022	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

アメリカ文学における人種、とりわけ “miscegenation” というテーマについて考える。このため、アフリカ系アメリカ人が書いたものとして初めて出版された小説であり、miscegenation の問題を扱ったものとして先駆的作品である William Wells Brown の Clotel; Or, the President's Daughterを読む。白人と黒人の混血に対する恐怖感は、南北戦争が終結し、奴隷制が廃止されてから、増していく。19, 20世紀を通してアメリカの特に南部社会は、miscegenation に対して、強迫的と言っても良い強いこだわりを見せる。そのこだわりについて考えることは、人種という概念をどのように合衆国の人々が捉えていたかについて考えることでもある。このような観点から William Wells Brown の Clotel; Otr, the President's Daughterを読んでいきたい。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。
1) アメリカ合衆国の人種問題に関する理解を深める。
2) 文学的テクスト・歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。
4) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（詳細な授業計画の説明） ・授業の内容, 進め方を説明。担当者を決める。	
	【予習】 次回分を熟読。	60
第2回	テクスト　Preface, Chapter 1 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第3回	テクスト Chapters 2, 3 & 4 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第4回	テクスト Chapters 5 & 6 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第5回	テクスト Chapters 7, 8, 9 & 10 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第6回	テクスト Chapters 11, 12 & 13 I精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第7回	テクスト Chapters 14, 15 & 16 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第8回	テクスト Chapters 17 & 18 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第9回	テクスト Chapter 19 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第10回	テクスト Chapters 20 & 21 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第11回	テクスト Chapter 22 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第12回	テクスト Chapters 23 & 24 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第13回	テクスト Chapters 25 & 26 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第14回	テクスト Chapters 27, 28 & 29 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 これまでの授業内容を思い出し、テクストを再読し、学んだことの定着につとめる。	60

授業の方法
テクストの精読を中心にした演習形式。

成績評価の方法
授業参加30%、発表30%、レポート40%。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
William Wells Brown, Clotel; Or, the President's Daughter (New York: Penguin, 2003). ISBN-10: 0142437727

参考書
適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	英語学コア・カリキュラムＡ		
教員名	平山　真奈美		
科目ナンバー	2071313041	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業では、英語を教えるという視点から英語の音声文法を言語学的に学び、エクササイズを通して実践的に英語の音声体系を学ぶ。学習者の第一言語への言及など、英語を教える時と学ぶ時の両方の場面を想定して取り組む。

到達目標

この授業では以下の３点を目標とし、DP１、DP2, DP6, DP7、DP8を実現する。
・英語の音声、音韻構造を、実践を通して言語学的に学ぶ。
・国際音声記号を使って音声を記述、分析できるようになる。
・言語学的な概念を用いて論理的に議論し、口頭発表およびレポートにて聴衆にわかりやすく伝えることができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	- Introduction	
	- Readings: Avery & Ehrlich: Introduction chapter	60
第2回	- Chapter 1: Spelling and pronunciation	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 1 - Review of class - Homework	90
第3回	- Chapter 2: Individual sounds of English I	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 2 - Review of class	90

第4回	- Chapter 2: Individual sounds of English II - Chapter 9 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 2 - Review of class - Homework	120
第5回	- Chapter 2: Individual sounds of English III - Chapter 10 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 2, 10 - Review of class	90
第6回	- Chapter 3: English sounds in context I - Chapter 11 (presented by students) - Students project proposals	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 3, 11 Review of class - Preparation for project proposals - Homework	120
第7回	- Chapter 3: English sounds in context II - Chapter 12 (presented by students) - Students project proposals	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 3, 12 - Review of class - Preparation for project proposals	120
第8回	- Chapter 4: The shape of English words I - Chapter 13 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 4, 13 - Review of class - Homework	120
第9回	- Chapter 4: The shape of English words II - Chapter 14 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 4, 14 - Review of class	90

第10回	- Chapter 5: Word stress and vowel reduction - Chapter 15 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 5, 15 - Review of class - Homework	120
第11回	- Chapter 6: Connected speech I - Chapter 16 (presented by students)	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 6, 16 - Review of class	90
第12回	- Chapter 6: Connected speech II	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 6 - Review of class - Homework	120
第13回	- Chapter 7: Common pronunciation problems - Chapter 8: Problems of selected language groups	
	- Readings: Avery & Ehrlich Ch. 7, 8 - Review of class	90
第14回	- Student oral presentations	
	- Preparation for presentations	120
第15回	- Review of course	
	- Review of course	90

授業の方法

テキストのpart oneおよびpart twoは、講義および議論、内容についての練習問題を行いながら授業を進める。Part threeは各自が自分の興味に応じて担当し発表する。これに加えて自らの興味および研究内容に応じたプロジェクトを計画、遂行する。

成績評価の方法

Homework assignments: 40%
Project proposal: 15%
Project oral presentation: 20%
Project paper: 25%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

There are no prerequisites for this course.

テキスト

Avery, Peter and Susan Ehrlich. (1992). Teaching American English Pronunciation. (Oxford Handbooks for Language Teachers). Oxford: Oxford University Press.

参考書

- Carr, Philip. (2013). English Phonetics and Phonology: An Introduction. (2nd ed.). Malden, MA; Oxford: Wiley-Blackwell.
- Johnson, Keith. (2011). Acoustic and Auditory Phonetics. (3rd ed.). Wiley-Blackwell.
- Ladefoged, Peter and Keith Johnson. (2015). A Course in Phonetics. (7th ed.). Wadsworth Publishing.
- Odden, David. (2013). Introducing Phonology. (2nd ed.) Cambridge: Cambridge University Press.
- Rogers, Henry. (2000). The Sounds of Language. Harlow: Pearson Education Limited.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育コア・カリキュラムＡ		
教員名	マティカイネン　ティ-ナ		
科目ナンバー	2071313051	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will provide a broad overview of theoretical and practical issues in second language vocabulary acquisition. Students will read relevant literature and research and explore various approaches to the learning and teaching of second language vocabulary.

This course will be conducted entirely in English.

到達目標

1. Students will develop a definition of vocabulary and vocabulary knowledge.
2. Students will familiarize themselves with research into how vocabulary is acquired and stored.
3. Students will familiarize themselves with a research-informed approach to language instruction of vocabulary.
4. Students will explore techniques for teaching and testing vocabulary.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Class Introduction The goals of vocabulary learning	
	Reading	120
第2回	The goals of vocabulary learning	
	Reading	120
第3回	Knowing a word: What it means to know a word	
	Reading and Preparation for Presentation	120

第4回	Knowing a word: What it means to know a word	
	Reading	120
第5回	Collocations and multi-word units	
	Reading	120
第6回	Strategies and techniques of vocabulary teaching and learning	
	Reading and Preparation for Presentation	120
第7回	Strategies and techniques of vocabulary teaching and learning	
	Reading	120
第8回	Testing vocabulary	
	Reading	120
第9回	Incidental learning and explicit teaching of vocabulary	
	Reading and Preparation for Presentation	120

第10回	Incidental learning and explicit teaching of vocabulary	
	Reading	120
第11回	Current issues in second language vocabulary learning	
	Reading and Writing a Report	120
第12回	Current issues in second language vocabulary learning	
	Reading and Writing a Report	120
第13回	Current issues in second language vocabulary learning	
	Reading and Writing a Report	120
第14回	Current issues in second language vocabulary learning	
	Reading and Writing a Report	120
第15回	Class review and final presentations	
	Writing a Report	120

授業の方法

Interactive lectures, individual presentations, group and peer work

成績評価の方法

Students are required to complete the following: 1) weekly reading assignments and informal presentations based on these readings, 2) short writing assignments on the readings, and 3) a final written paper and a presentation on a research paper of their choice.

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
Students' final grades will be based on:
Participation and homework 30%
Final paper 50%
Final presentation 20%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

Learning Vocabulary in Another Language by I.S.P. Nation (Cambridge Applied Linguistics series) ISBN: 0-521-80498-1

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Teacher is available for questions and consultation before and after each class.

科目名	論文演習 I		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	平山　真奈美		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	平山　真奈美		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	日比野　啓		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	日比野　啓		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
授業時に説明する。

成績評価の方法
定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	平山　真奈美		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	平山　真奈美		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	日比野　啓		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	日比野　啓		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
適宜授業中に紹介する。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルⅠ		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。
①　文献のリサーチの方法を学ぶ。
②　文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学特殊研究Ａ		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071350001	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

英語圏の文学／文学研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。前期においては、その嚆矢ともいえる、Sigmund Freudの"The Uncanny" （「不気味なもの」）を精読する。
後期においては、Bill Brown, Nicholas Royle, Barbara Johnsonらの論文がテクストになる。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。
②この視点から文学テクストに自身の視点から問題を発見できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	テクストに関する導入。	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	90
第2回	テクストの読解１	
	指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第3回	テクストの読解２	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90

第4回	テクストの読解３	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第5回	テクストの読解４	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第6回	テクストの読解５	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第7回	テクストの読解６	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第8回	テクストの読解７	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第9回	テクストの読解８	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第10回	テクストの読解９	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90

第11回	テクストの読解１０	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第12回	テクストの読解１１	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第13回	テクストの読解１２	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第14回	テクストの読解１３	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第15回	総括的議論	
	総括的議論のために	90
第16回	Thing Theoryの導入的な講義１	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	90
第17回	Thing Theoryの導入的な講義２	
	前回の問題点の確認	90

第18回	Brownの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第19回	Brownの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第20回	Brownの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第21回	Brownの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第22回	Royleの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第23回	Royleの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第24回	Royleの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120

第25回	Royleの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第26回	Johnsonの論文を読む１	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第27回	Johnsonの論文を読む２	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第28回	Johnsonの論文を読む３	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第29回	Johnsonの論文を読む４	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第30回	まとめ	
	学期を通じての議論の復習	120

授業の方法
担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法
発表(30%)とterm paperの質(70%)。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
（前期）上記の批評理論について自習をされたい。

（後期）前期で獲得した知識。

テキスト
（前期）担当者がコピーを用意する。

（後期）コピーで配布する。

参考書
適宜複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学特殊研究Ｂ		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071350002	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

シェイクスピアの四大悲劇の一つである『ハムレット』を読む。テクストの精読および多様なメディアによる翻案をつうじて、解釈の多面性に触れる。また、代表的な論文を読むことによって批評理論のいくつかの型を修得し、実践へとつなげる。

到達目標

DP6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。
①テクストと作家を歴史的文脈の中に位置づけ、より精緻に分析できる。
②テクスト内外に関する知識を養い、さまざまな事象を説明できる。
③批評理論にのっとった解釈の型を習得し、みずからの論文に応用できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 『ハムレットに関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。	
	テキスト（翻訳）を読み、登場人物やあらすじについて理解しておくこと。	60
第2回	イントロダクション 『ハムレットに関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第3回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60

第4回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第6回	1幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第7回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第8回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第10回	２幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60

第11回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第12回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第13回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第14回	3幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第15回	興味のある批評文献（短いもの）を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえ発表する。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第16回	イントロダクション 前期を振り返り、『ハムレット』に関連するさまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	前期のポイントを復習しておくこと。	30
第17回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60

第18回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第19回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第20回	4幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第21回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第22回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第23回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第24回	5幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60

第25回	劇全体を振り返り、さまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60
第26回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第27回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第28回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第29回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第30回	興味のある二次利用のテクストや論文を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえて発表する。	
	指定された文献を読んでくること。	60

授業の方法
ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法
平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト
Shakespeare, William. Hamlet . Edited by Ann Thompson and Neil Taylor. The Arden Shakespeare Third Series. The Arden Shakespeare.

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学特殊研究Ａ		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071350011	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

Edward W. Said、Homi K. Bhabha、Edward Kamau Brathwaite、Simon Gikandi、George Lamming、Arjun Appaduraiなどの論文を読み、グローバリゼーションの現代におけるポストコロニアリズムの批評の可能性、ポストコロニアリズム以降の問題系について考察する。

到達目標

DP6およびDP7を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・建国期アメリカ文学とアメリカ合衆国を取り巻く歴史的・政治的状況との関連の知識を習得する。
・文学研究の学問的意義や独創性について理解し、自らの研究テーマの設定に生かすことができるようになる。
・小説言語の高度な解読と批評理論の取得を通じて、自分の研究論文の作成につなげる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の内容、方法について説明する。取り上げる文学作品や批評文献を紹介する。	
	最近のアメリカ文学の研究動向について考えること。	60分
第2回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第3回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分

第4回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第5回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第6回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第7回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第8回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第9回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第10回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分

第11回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第12回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第13回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第14回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第15回	前期授業の総括	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第16回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第17回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分

第18回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第19回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第20回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第21回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第22回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第23回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第24回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分

第25回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第26回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第27回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第28回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第29回	批評文献を読む。	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分
第30回	後期授業の総括	
	テクストを精読し、小説の言語と同時代の社会状況との関連について考察すること。また自分の研究関心がこの授業のテーマ・内容とどのように関わるのか、考えること。	120分

授業の方法
テクストの読解とディスカッションからなる演習形式。

成績評価の方法
平常点（予習、授業への参加度、ディスカッション、発表など）50%や時折のレポート50%から評価する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
批評文献はコピーで配布する。

参考書
Bill Ashcroft, Gareth Griffiths, Helen Tiffin (eds.), The Post-Colonial Studies Reader (Routledge, 2006) ISBN-10: 0415345650
その他、適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学特殊研究Ｂ		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071350012	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

　アメリカ文学のテクスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。
　今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。

到達目標

二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得し、あわせて、グローバリズム世界の中で日本人として現実をみすえる視点を獲得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス　ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間
第2回	「ジョン・マー」読み１ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第3回	「ジョン・マー」読み２ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第4回	「ジョン・マー」読み3 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「ジョン・マー」読み４ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「ジョン・マー」読み5 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	「ジョン・マー」の背景について図書館で検索	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第8回	「ジョン・マー」読み６ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「ジョン・マー」読み７ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第10回	「バートルビー」読み８ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第11回	「ジョン・マー」読み９ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「ジョン・マー」読み１０ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テクストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備２ 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第16回	ガイダンス　ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間
第17回	「バートルビー」読み１ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第18回	「バートルビー」読み２ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第19回	「バートルビー」読み3 ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第20回	「バートルビー」読み４ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第21回	「バートルビー」読み５ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第22回	１９世紀の航海についてのドキュメントDVD鑑賞	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第23回	「バートルビー」読み６ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第24回	「バートルビー」読み７ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第25回	「バートルビー」読み８ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第26回	「バートルビー」読み９ ・指定さされた範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第27回	「バートルビー」読み１０ ・指定された範囲のテクストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テクストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第28回	レポート準備のためのプレゼンテーション テクストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第29回	レポート準備２ 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第30回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法
講義と演習

成績評価の方法
学年末レポート（60%）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし

テキスト
Herman Melville,"Pierre, Israel Potter, The Piazza Tales, The Confidence-Man, Uncollected Prose, Billy Budd" (The Library of America, 1984)
Herman Melville, " The Poems of Herman Melville"(The Kent State UP,2000)

参考書
Gayatri Chakravorty Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)
Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings:The Monroe Doctrine and Narratives of U.S.Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continets:American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育特殊研究Ａ		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071350031	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

この授業では、人の認知過程について考える。人はどのように読むのかについて考えていきながら、英語を外国語として学ぶ日本の学習者の英語習得法及び学習方法について模索していく。

到達目標

DP8を実現するために、以下の5点をこの授業の到達目標とする。

① 自分の研究テーマを決め、積極的にリサーチする。
② 英語で書かれた論文の読み方を学ぶ。
③ 英語による論文の書き方を学び、書けるようにする。
④ 授業で扱った内容に関連した本や論文を読み、知識を増やす。
⑤ リサーチのための統計処理の基本を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	自己紹介及び現在の研究や関心事について発表する。 授業運営についての説明を行う。 個人発表の割り当てを決める。	
	現在の研究における関心事、研究していることについて簡潔にまとめてくる。	60
第2回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Points of Departure and Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第3回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第4回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Cahpter 2)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第5回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 2)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第6回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 3)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第7回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 3)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第8回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第9回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第10回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 4)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第11回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 5)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第12回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 6)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第13回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 6)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第14回	テキストの輪読 & Discussion テキスト(Chapter 7)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第15回	課題発表会 前期の総括	
	課題発表の準備をする。	120
第16回	テキストの輪読 & Discussion テキスト (Introduction)	
	テキストの予習をしてくる。	120
第17回	テキストの輪読 & Discussion テキスト (Chapter 1)	
	テキストの予習をしてくる。	120

第18回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter 1）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第19回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter 1）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第20回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter 1）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第21回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第22回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第23回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第24回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120

第25回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第26回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第27回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第28回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第29回	テキストの輪読 & Discussion テキスト（Chapter ２）	
	テキストの予習をしてくる。	120
第30回	課題発表会 後期の総括	
	課題発表の準備をする。	120

授業の方法

授業では、テキストを輪読し、内容理解を深める。さらに、扱っているそれぞれの話題について関係論文を読み、その内容について口頭発表し、レポートにまとめる。また、個人で興味のある話題についての研究発表を定期的に行い、小論文完成を目指す。

成績評価の方法

平常点（個人発表、ディスカッション等を含む）２０%、学期末プリゼンテーション及び期末論文を８０%とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部で、言語習得論、英語教育学の科目やゼミを履修していることが望ましいが、必修条件ではない。

テキスト

Wallace Catherine. (2003). Critical reading in Language Education. Palgrave Macmillan ISBN 14039 9339 4

Kintsch, Walter. (1998). Comprehension A paradigm for Cognition. Cambridege University Press.
ISBN 0 521 62986 1

この他の関係資料や論文は、授業内で配布、または指示する予定である。

参考書

Ellis, Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford University Press.
江藤裕之、前田樹海、田中建彦(訳). (2007). 『APA論文作成マニュアル』 医学書院.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』 研究社.
白畑知彦、若林茂則、村野井仁. (2010). 『詳説 第二言語習得研究 理論から研究方法まで』研究社.
鈴木良次（編集委員長）. (2006). 『言語科学の百科事典』 丸善株式会社.
寺内正典（編集代表）. (2012). 『英語教育学の実証的研究法入門』 研究社.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育特殊研究Ｂ		
教員名	ロブソン　ゴードン　レーン		
科目ナンバー	2071350032	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

The theme of this class is research into individual learner differences. Based on the textbook, we will take a intensive look at the relationships between second language proficiency and personality, aptitude, motivation, learning styles, learning strategies, anxiety, creativity, the willingness to communicate, self-esteem and learner beliefs. We will begin with the history of research into individual learner differences, and the way in which such differences have been identified. We will then proceed through an intensive study of the previously listed variables. In addition to the textbook, key studies from each area of individual learner differences will be assigned for occasional student presentations.

到達目標

The goals of this coarse are to thoroughly familiarize students with the area of individual learner differences research, the type of instruments used, and the typical outcomes of such research. By providing students with this knowledge, it is hoped that it will contribute to their own areas of research interests.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction and Chapter 1, Individual Learner Differences -- Then and Now	
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14	90 min.
第2回	Chapter 1, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14.	90 min
第3回	Chapter 2, Personality	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34	90 min

第4回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34. Students will also read Dewaele & Furnham, Extraversion: The unloved variable in applied linguistic research with one student providing a summary.	90 min
第5回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34.	90 min
第6回	Chapter 3, Language Aptitude	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第7回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Nagata, Aline & Ellis, Modified input, language aptitude and the acquisition of word meanings with one student providing a summary.	90 min
第8回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第9回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Ross, Yoshinaga & Sasaki, Aptitude-exposure interaction effects on Wh-movement violation detection by pre- and post-critical period Japanese bilinguals with one student providing a summary.	90 min
第10回	Chapter 4, Motivation	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min

第11回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Noels, Clement & Pelletier, Intrinsic, extrinsic, and integrative orientations of French Canadian learners of English with one student providing a summary.	90 min
第12回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第13回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Ushioda, Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking with one student providing a summary.	90 min
第14回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第15回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the course. Students will announce their research areas.	90 min
第16回	Course introduction & Chapter 5, Learning Styles and Cognitive Styles	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第17回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139. Students will also read D?rnyei & Chan, Motivation and vision: An analysis of future L2 self images, sensory styles, and imagery capacity across two target languages with one student providing a summary	90 min
第18回	Chapter 5, cont.	

	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第19回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第20回	Chapter 6, Learning Strategies and Self-Regulation.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第21回	Chapter 6, cont.,	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169. Tseng, D?rnyei & Schmitt, A new approach to assessing strategic learning: The case of self-regulation in vocabulary acquisition with one student providing a summary.	90 min
第22回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第23回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第24回	Chapter 7, Other Learner Characteristics	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第25回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Horwitz, Language anxiety and achievement with one student providing a summary.	90 min
第26回	Chapter 7, cont.	

	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第27回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Yashima, Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context with one student providing a summary.	90 min
第28回	Chapter 8, Conclusion: Looking Back and Forward	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207.	90 min
第29回	Chapter 8, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207. Student research papers are due.	90 min
第30回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the courses.	90 min

授業の方法
This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented handouts and other materials. Students will be expected to actively participate during class time. Students will produce an individual learner differences study of between 10 and 20 pages in length. Students will also produce summaries of the assigned research studies.
成績評価の方法
The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 10% 2) summaries 20% and 3) research paper 70%.
成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目
N/A
テキスト
The Psychology of the Language Learner Revisited, Zoltan Dornyei and Stephen Ryan, Routledge, ISBN 978-1-138-01874-7
参考書
The Study of Second Language Acquisition, Second Edition, Rod Ellis.
質問・相談方法等(オフィス・アワー)
Questions will be taken before and after class.

科目名	論文演習III		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	小野　尚美		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
博士前期課程を修了していること。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	正岡　和恵		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	下河辺　美知子		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	遠藤　不比人		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	庄司　宏子		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。
（１）　専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
（２）　専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
（３）　専門分野の学術論文の書き方を習得する。
（４）　日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	古典文学共通講義Ⅰ		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070421001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

古典恋愛文学史
日本古典文学の世界で恋愛はどのように捉えられていたのか、人々はどのような恋愛に心動かされていたのか、恋する人間は何を考えたのか。このような問いに対して、具体的な作品に即しながら考えていく。前期は、古代（７世紀～１１世紀）の文学作品を対象とする。

到達目標

DP８を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典文学史の展開について、具体的に説明ができる。
②個別の作品について、文学史上の意義が説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスを読んでおく。	６０
第2回	『古事記』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第3回	『万葉集』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第4回	『万葉集』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第5回	『古今和歌集』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第6回	『竹取物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第7回	『伊勢物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第8回	『蜻蛉日記』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第9回	『蜻蛉日記』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第10回	『源氏物語』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第11回	『源氏物語』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第12回	『源氏物語』３	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第13回	『和泉式部日記』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第14回	『狭衣物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第15回	まとめ	
	古代の恋愛文学史について自分なりにまとめる。	９０

授業の方法
講義形式による。

成績評価の方法
授業への参加度合（４０%）、期末レポート（６０%）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを使用する。

参考書
吉田幹生『日本古代恋愛文学史』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学共通講義II		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070421002	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

古典恋愛文学史
日本古典文学の世界で恋愛はどのように捉えられていたのか、人々はどのような恋愛に心動かされていたのか、恋する人間は何を考えたのか。このような問いに対して、具体的な作品に即しながら考えていく。後期は、中世および近世（１２世紀～１９世紀）の文学作品を対象とする。

到達目標

DP８を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典文学史の展開について、具体的に説明ができる。
②個別の作品について、文学史上の意義が説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスを読んでおく。	６０
第2回	『とりかへばや』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第3回	中世王朝物語	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第4回	『発心集』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第5回	『うたたね』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第6回	『とはずがたり』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第7回	『平家物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第8回	能・狂言	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第9回	近松門左衛門	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第10回	仮名草子	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第11回	井原西鶴	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第12回	浮世草子	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第13回	上田秋成	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第14回	人情本	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第15回	まとめ	
	中近世の恋愛文学史について自分なりにまとめる。	９０

授業の方法
講義形式による。

成績評価の方法
授業への参加度合（４０%）、期末レポート（６０%）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを使用する。

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学共通講義Ⅰ		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	2070421011	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本講義は、日本の近代文学史の流れの中での、特に私小説の問題に注目する。日本の昔話、西洋の童話、古い伝承などの広範な文学ジャンルを視野に入れ、そのことが近代作家のあらたなモチーフとどのようにつながるか、作家が私を語るために伝承に題材を求めたのは何故かを考察していく。語り手の位置について、特にこだわりながら、作家の意図、文体などを細かく分析し、原典とともに時代思潮をも理解していく。大正期の小説から、ポストモダンの小説へと飛びながら、その描かれた現代を、作家の意図とともに探る。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	第１回　イントロダクション 「浦島太郎」「赤頭巾」「不思議の国のアリス」「クマのプーさん」のお話をまずまとめてみる。	
	小さい頃に読んだ、４つの童話、昔話を思い出してまとめてみる。どんな教訓とともに読んだかもまとめる。	60
第2回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。	
	難解な小説を読解するため、どのような方法をとればいいかを考える。	60
第3回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 原典がどう作り変えられているか、特にあらたな小説のキーワードを細かく抽出して、現代小説の問題点をまず、探る。	
	作品成立の時代背景、作家の特質などの理解をしながら、理解を深めていく。	60

第4回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 この新小説のなかに存在する２つの対立図式をくみたてながら、問題に近づいていく。	
	話のモチーフを明確にし、風刺や社会批判の意識をできるだけ文中の語から読み取っていく。	60
第5回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 読解に有効な参考文献を読む。	
	原作との比較対照の上で、作家のモチーフに近づいていく。	60
第6回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 「私は誰？」という問いかけと、それを促す人間の共通体験について考える。	
	作家について。高橋の日本文学史のあらたな切り込みを参考にして、語り手の問題がどう焦点化されているかを理解する。	60
第7回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」をまとめる。この小説には現代がどんな問題として表象されているのかをまとめる。	
	文章を読み、「私小説」と昔話の接点を説明していく。	60
第8回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	独特な言い回し、着眼の面白さをまとめる。	60
第9回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	作家の語ろうとする内容をよりすっきりと説明していく。	60

第10回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	原作が提起する問題をまとめ、高橋の浦島物語との違いをまとめる。	60
第11回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	現実をどのような方法でそれらしく映し出しているか、作者が浦島を援用する目的は何かをまとめる。	60
第12回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	文中で作家自身の説明が述べられる所について考える。	60
第13回	宇野浩二の甘き世の話「新浦島太郎物語」を読む。	
	この題名がなにを意味しているか、原作のモチーフを明らかにしながら、比較対照をする。	60
第14回	「浦島太郎」の話のどんなパロデイかをまとめていく。 この小説のタイトルの意義を考察する。	
	客観描写、風景描写、心情描写と根本的に異なる小説のなかに、その意図を読み取っていく。	60
第15回	まとめ 伝承物語の受容によって、現代小説はなにを表現できるようになったか、「私」が置かれた現代とともに、「私」の表現についてまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、あらたに書き加えられた意義を、時代思潮とともにまとめてみる。	60

授業の方法
作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法
授業時の発表（５０%）レポート（５０%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト
授業はすべてプリント。
「さよならクリストファーロビン　」高橋源一郎　岩波書店
　「ペロー寓話集」　岩波文庫
「不思議の国のアリス」岩波文庫　「クマのプーさん」岩波書店　「宇野浩二集」

参考書
「いまファンタジーにできること」アーシュラ　K　ル・グイン　河出書房新社
「いま読むペロー」工藤庸子　羽鳥書店
「日本文学盛衰史」　高橋源一郎　講談社
「日本文学の表現機構」　安藤宏　岩波書店
「近代文体発生の史的研究」　山本正秀　岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近代文学共通講義II		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	2070421012	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

本講義は、共通講義Ⅰに引き続き、歴史小説をもとにして、日本の近代文学史に迫っていく。特に、小説が書かれた時代、どんな歴史的背景の中で成立したかを丹念に見ていく。日本の近代小説を、伝承物語などを原典として再創造されたものに注目し、その変化、ずらしを細かく読み取り、両者の表現および思潮を捉え考察していく。様々な観点から作品分析を行い、その作家の生きた時代の意味をも理解していく。翻案という考え、また、歴史小説としての視点を含め、作家の批評意識に触れる。作家の意図、文体、原作の改変などを細かく分析しながら、原典とともに近代小説を捉え返し、時代思潮をも理解していく。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。
戯作的なもの、怪奇小説的なものにも眼を向け、風刺へと発展していくプロセスをも見ていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　イントロダクション 近代小説における翻案小説、再話の意義を解説し、さまざまな翻案や翻訳小説の紹介を行う。これから取り組む小説と評論についてのガイダンスをおこなう。	
	これまで自分の取り組んだ翻案について、また、初めて扱う翻案について理解を深める。	６０
第2回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。 織田の西鶴の現代語訳なども合わせて読んでいく。	
	異文化と、その語りの違いを確認しながら、枠組み小説に対する問題意識をもつ。この小説のモチーフを明らかにする。	６０
第3回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。歴史的な人物の自在な表現方法をまとめる。	
	この話が日本人にどう受け止められていったのか。さらに続けて考察していく。	６０

第4回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作品の成立事情、内容を理解し、読後の印象をまとめる。どのような意図を表すか、その意図を探る。	60
第5回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作者のこだわりや、表現上の特異な点を見つけていく。	60
第6回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」」を読み込んでいく。昭和１８年の作品の背景とともに読んでいく。この中で語る「私」がどのような特徴をもっているかに拘っていく。	
	どのような意識で原典を用いたのか、小説中の重要な言葉とそこに意味されたものを自分で解釈する。	60
第7回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。作家が英国少佐の心理を風刺しているのはどんな点か、をまとめる。	
	真面目にどんなことを考えているのか、考えていく。戦争の問題意識のありようとともに考え合わせていく。	60
第8回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	改変の意義を、自らの作品論としてまとめる。	60
第9回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	内容に合わせて、文体や表現の特徴をつかむ。	60

第10回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。 作家が時代に抗っていく形を読み込む。	
	英国少佐に語らせた意味をまとめる。	60
第11回	半村良の「箪笥」を読む。この小説は、なにを恐怖として描いているか。	
	題名や、箪笥というものの持つ意味性を捉える。その意義を考える。	60
第12回	半村良の「箪笥」を読む。	
	この小説の面白さについて自分の考えをまとめる。	60
第13回	半村良の「箪笥」を読む。主語の自在な変化を意味化していく、	
	作家の独特な表現の可能性を考察する。	60
第14回	この時期のエンターテイナーによる、あらたな小説の可能性を絞っていく。外国の小説の何を取り入れて自らの創作の樹立をめざしたのか、同時期の小説に照らして考察する。	
	特に、ジャンルや表現方法によって小説を位置づける。具体的に小説の言葉を抽出しながら説明し、考察する。	60
第15回	まとめ 日本の近代文学の史的な発展をまとめる。特に戦後の戯作はの活動に通目し、作家の私の意識の自在な変転の面白さをまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、時代思潮もまとめてみる。	60

授業の方法
作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法
授業時の発表（５０%）レポート（５０%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト
授業はすべてプリント。
「織田作之助全集　２巻」文泉堂
「表現の冒険」講談社文庫

参考書
「織田作之助文藝事典」浦西和彦　和泉書店大空社
「大阪近代文学作品事典」　浦西和彦　　和泉書店
「日本の名随筆　謎」　半村良作品社
「近代小説の表現機構」　　安藤宏　　岩波書店
「近代文体発生の史的研究」　山本正秀　岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学共通講義Ⅰ		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070421021	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。
テキストは、日本語を題材としたメタファー論の概説として優れたものである。この書物及び関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の３点を到達目標とする。
・認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。
・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10
第2回	テキスト第1章～第2章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第3回	テキスト第３章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第4回	テキスト第４章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト第５章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト第６章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト第７章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト第８章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト第９章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト第10章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト第11章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト第12章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト第13章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	テキスト第14章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	テキスト第15章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法
演習形式

成績評価の方法
発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目しその到達度により評価を行う。
・認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
鍋島弘治朗『日本語のメタファー』（くろしお出版）

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学共通講義II		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070421022	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。
テキストは、日本語を題材としたメタファー論の概説として優れたものである。この書物を読み、十分に理解した後で関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の３点を到達目標とする。
・認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。
・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10
第2回	テキスト第16章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第3回	テキスト第17章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第4回	テキストの書評の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト全体の復習	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法
演習形式

成績評価の方法
発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目しその到達度により評価を行う。
・認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
鍋島弘治朗『日本語のメタファー』（くろしお出版）

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	文献資料共通講義Ⅰ		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070421031	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

日本古典文学研究の前提となる書誌学に関する基礎的な知識の修得と、くずし字で書かれた原資料翻読のための基礎的な力を身につける。

到達目標

活字本として出版される前の段階の日本古典文学の書物にはどのような様態のものがあり、それらの文献資料が活字本として出版されるためには、どのような過程を経て、どのような処理がなさるのかということを、実感的に理解できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方について	
	テキストを通読しておく。	120
第2回	書誌学的な基礎知識概説①	
	授業の復習	30
第3回	書誌学的な基礎知識概説②	
	授業の復習	30

第4回	書誌学的な基礎知識概説③	
	授業の復習	30
第5回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習①	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第6回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習②	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第7回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習③	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第8回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習④	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第9回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑤	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60

第10回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑥	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60
第11回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑦	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60
第12回	江戸時代の手紙・解読演習①	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第13回	江戸時代の手紙・解読演習②	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第14回	江戸時代の手紙・解読演習③	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第15回	江戸時代の手紙・解読演習④	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60

授業の方法
講義形式と演習形式とを適宜組み合わせて行なう。

成績評価の方法
授業時の発表内容や授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
『和本入門』橋口侯之介著、平凡社（平凡社ライブラリー）、2011年、1400円。
適宜プリントを配付する。

参考書
『書誌学入門』堀川貴司著、勉誠出版、2010年、1944円
『アプリで学ぶくずし字』飯倉洋一編、笠間書院、2017年、800円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	文献資料共通講義II		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070421032	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

江戸時代初期を代表する紀行文で、和文と漢詩文が混在する林羅山の板本『丙辰紀行』を取り上げ、その翻刻・注釈の方法を演習する。なお、参加者の習熟度や専門性によって、取り上げる作品その他を調整することがある。

到達目標

江戸時代の書物の原本をどう処理すれば、現代の人間としてその内容を享受できるようになるか、その方法と能力を涵養する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	『丙辰紀行』の概要の紹介。 授業の進め方の説明。 発表分担箇所の決定。	
	林羅山の伝記の概要を調べておくこと。	30
第2回	『丙辰紀行』の「武蔵野」～「増上寺」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第3回	同上の「隅田河」～「江嶋」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60

第4回	同上の「大礒」～「三嶋」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第5回	同上の「蛭小嶋」～「富士山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第6回	同上の「富士川」～「久能山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第7回	同上の「狐崎」～「八幡」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第8回	同上の「久佐奈岐」～「小夜中山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第9回	同上の「西坂」～「今切」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60

第10回	同上の「潮見坂」～「長沢」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第11回	同上の「矢矯」～「桑名」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第12回	同上の「石薬師」～「鈴鹿」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第13回	同上の「土山」～「草津」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第14回	同上の「勢田」～「大津」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第15回	まとめ。	
	これまで演習した箇所を確認し、問題点を考えておくこと。	60

授業の方法

ガイダンス的な講義を行なった後に、参加者に発表担当箇所を割り当て、演習形式で読解してゆく。担当者は資料を準備して発表し、その発表に基づいて参加者全員で質疑応答し、発表者の読解を補正してゆく。

成績評価の方法

発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

第一回の授業時に板本のコピーを配付する。

参考書

授業時に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受け付ける。

科目名	古代文学研究Ｂ		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070422012	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

『狭衣物語』を、深川本系・流布本系・異本系の各本文を比較しながら、精読する。併せて、『狭衣物語』に多大な影響を与えた『源氏物語』との比較も行いつつ、物語の技巧に注目して分析していく。

到達目標

DP8(創造性豊かな研究能力）を実現するために次の２点を到達目標とする。
①自らの力で調査・分析・考察を行い、作品の解釈を決めることができる。
②作品に用いられている物語の技巧について説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	『狭衣物語』について①	
	指定された課題を行う。	90
第2回	『狭衣物語』について②	
	指定された課題を行う。	90
第3回	『狭衣物語』について③	
	指定された課題を行う。	90

第4回	発表①	
	指定された課題を行う。	90
第5回	発表②	
	指定された課題を行う。	90
第6回	発表③	
	指定された課題を行う。	90
第7回	発表④	
	指定された課題を行う。	90
第8回	発表⑤	
	指定された課題を行う。	90
第9回	発表⑥	
	指定された課題を行う。	90
第10回	発表⑦	
	指定された課題を行う。	90

第11回	発表⑧	
	指定された課題を行う。	90
第12回	発表⑨	
	指定された課題を行う。	90
第13回	発表⑩	
	指定された課題を行う。	90
第14回	発表⑪	
	指定された課題を行う。	90
第15回	発表⑫	
	指定された課題を行う。	90
第16回	発表⑬	
	指定された課題を行う。	90
第17回	発表⑭	
	指定された課題を行う。	90

第18回	発表⑮	
	指定された課題を行う。	90
第19回	発表⑯	
	指定された課題を行う。	90
第20回	発表⑰	
	指定された課題を行う。	90
第21回	発表⑱	
	指定された課題を行う。	90
第22回	発表⑲	
	指定された課題を行う。	90
第23回	発表⑳	
	指定された課題を行う。	90
第24回	発表㉑	
	指定された課題を行う。	90

第25回	発表㉒	
	指定された課題を行う。	90
第26回	発表㉓	
	指定された課題を行う。	90
第27回	発表㉔	
	指定された課題を行う。	90
第28回	発表㉕	
	指定された課題を行う。	90
第29回	発表㉖	
	指定された課題を行う。	90
第30回	まとめ	
	指定された課題を行う。	90

授業の方法
演習形式による。

成績評価の方法
授業時の取り組み・発表・期末レポートをそれぞれ３０～３５％を目安に加味して総合的に判断する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①自らの力で調査・分析・考察を行い、作品の解釈を決めることができるか。
②作品に用いられている物語の技巧について説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを配布する。

参考書
授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	近世文学研究		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070422031	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

①前年度に引き続き、江戸時代中期の儒者で備中鴨方に住んだ西山拙斎が、見聞した街談巷説や学者・文人たちの逸事を漢文で記した随筆『間窓瑣言』を読解する。
②江戸時代前期を代表する漢詩人の作品を読解するための演習を行なう。

到達目標

①漢詩文の訓読と注釈、現代語訳の能力を涵養する。
②江戸時代の儒者・詩人の思考や表現法を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方などを説明する。 ・西山拙斎の伝記の概略および『間窓瑣言』の概略を説明する。	
	シラバスによく目を通しておくこと。	10
第2回	『間窓瑣言』の第50～53話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第3回	同じく第54～57話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第4回	同じく第58～61話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第5回	同じく第62～64話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第6回	同じく第65～66話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第7回	同じく第67話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第8回	同じく第68～69話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第9回	同じく第70話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第10回	同じく第71話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第11回	同じく第72話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第12回	同じく第73～76話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第13回	同じく第77～81話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第14回	同じく第82～83話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第15回	『間窓瑣言』読解演習のまとめと、「江戸前期の名作漢詩演習」の進め方の説明。	
	特になし。	0
第16回	石川丈山の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第17回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第18回	元政上人の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第19回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第20回	鳥山芝軒の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第21回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第22回	新井白石の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第23回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第24回	梁田蛻巌の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第25回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第26回	祇園南海の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第27回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第28回	服部南郭の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第29回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第30回	まとめ	
	これまで演習した作品の問題点を考えておくこと。	90

授業の方法

ガイダンス的な講義を行なった後に、授業参加者に担当箇所を割り当て、順次演習形式で読解してゆく。担当発表者は発表資料を準備し、それに基づいて発表することとし、その発表について、出席者全員で質疑応答し、発表担当者の読解を補正する。

成績評価の方法

分担発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜プリントを配付、あるいは準備するものを指示する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	近代文学研究Ａ		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070422041	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度　前期～後期

テーマ・概要

近代文学の歴史について古典的な研究書や評論を読みつつ考える。

到達目標

〈日本文学科〉ＤＰ６実現にむけ、次の三点を到達目標とする。
日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じている。
文学史の常識に通じている。
反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスを身につけている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス授業	
	【予習】シラバスを読み。日本近現代文学史に関する自分の知識や理解を顧み、また自分の研究テーマの文学史的意義付けについて考え、結果をメモをしておく。	６０分
第2回	ゼミの具体的な進め方について話し合う。	
	【予習】ガイダンスを踏まえて、テキストの内容を点検しておく。 【復習】話し合いの内容を反芻し、自分なりの演習スケジュールを確認する。	６０分
第3回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第4回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第5回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第6回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第7回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第8回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第9回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第10回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第11回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第12回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第13回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第14回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第15回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第16回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第17回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第18回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第19回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第20回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第21回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第22回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第23回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第24回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第25回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第26回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第27回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第28回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第29回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第30回	今期の演習につてその成果と反省点等を全員で振り返り話し合う。	
	【予習】各自自分の参加態度も含めて今期の演習の流れについて省みる。 【復習】話し合いを反芻し必要なメモをとる。	６０分

授業の方法
担当者による発表と、全員による議論からなる演習を重ねる。臨機に共同研究のような試みも入れる予定。

成績評価の方法
総合評価。授業への参加態度（４０％）、発表（４０％）、レポート等（２０％）。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
① 日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じているか。
② 文学史の常識に通じている。
３ 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスが身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
未定

参考書
適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学演習Ｂ		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070422142	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

近代日本文学の研究。
発表と討議、情報交換を通して、演習参加者各自の研究を深める。
原則的には統一テーマを設けないが、参加者の人数と意欲次第では特定のテキストを決めて共同研究を行う。
なお、研究科オリエンテーションおよび第一回の授業には必ず出席すること。

到達目標

DP6～8を実現するため、以下を到達目標とする。
近代文学についての理解を深め、自ら主体的に研究する力、研究成果を発表し、論文にまとめる力を身につける。
『人文研究』または『成蹊国文』ほかに論考を掲載する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	シラバスを読み、自分の研究テーマの意義や可能性などについて考え、メモをしておく。	60
第2回	発表と討議１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第3回	発表と討議２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第4回	発表と討議３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第5回	発表と討議４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第6回	発表と討議５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第7回	発表と討議６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第8回	発表と討議７	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第9回	発表と討議８	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第10回	発表と討議９	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第11回	発表と討議１０	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第12回	発表と討議１１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第13回	発表と討議１２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第14回	発表と討議１３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第15回	前期反省会	
	半期の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90
第16回	後期の演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	自らの発表の準備を進めておく。	90
第17回	発表と討議１４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第18回	発表と討議１５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第19回	発表と討議１６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第20回	発表と討議１７	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第21回	発表と討議１８	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第22回	発表と討議１９	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第23回	発表と討議２０	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第24回	発表と討議２１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第25回	発表と討議２２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第26回	発表と討議２３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第27回	発表と討議２４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第28回	発表と討議２５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第29回	発表と討議２６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第30回	反省会	
	1年間の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90

授業の方法

輪番による発表と討議を基本のスタイルとする。
発表時間数などは受講者との相談で決める。

成績評価の方法

発表と討議をそれぞれ約４０%、その他の自主研究の成果約２０%の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
・授業で学んだ近代文学についての理解が身についているか。
・自ら主体的に研究したか。
・口頭発表を行い、論文等の形にまとめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

発表者との相談にて決定する。

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学特殊講義Ⅰ		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070461001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

古典恋愛文学史
日本古典文学の世界で恋愛はどのように捉えられていたのか、人々はどのような恋愛に心動かされていたのか、恋する人間は何を考えたのか。このような問いに対して、具体的な作品に即しながら考えていく。前期は、古代（７世紀～１１世紀）の文学作品を対象とする。

到達目標

DP８を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典文学史の展開について、具体的に説明ができる。
②個別の作品について、文学史上の意義が説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスを読んでおく。	６０
第2回	『古事記』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第3回	『万葉集』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第4回	『万葉集』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第5回	『古今和歌集』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第6回	『竹取物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第7回	『伊勢物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第8回	『蜻蛉日記』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第9回	『蜻蛉日記』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第10回	『源氏物語』１	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第11回	『源氏物語』２	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第12回	『源氏物語』３	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第13回	『和泉式部日記』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第14回	『狭衣物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第15回	まとめ	
	古代の恋愛文学史について自分なりにまとめる。	９０

授業の方法
講義形式による。

成績評価の方法
授業への参加度合（４０%）、期末レポート（６０%）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを使用する。

参考書
吉田幹生『日本古代恋愛文学史』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学特殊講義II		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070461002	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

古典恋愛文学史
日本古典文学の世界で恋愛はどのように捉えられていたのか、人々はどのような恋愛に心動かされていたのか、恋する人間は何を考えたのか。このような問いに対して、具体的な作品に即しながら考えていく。後期は、中世および近世（１２世紀～１９世紀）の文学作品を対象とする。

到達目標

DP８を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典文学史の展開について、具体的に説明ができる。
②個別の作品について、文学史上の意義が説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスを読んでおく。	６０
第2回	『とりかへばや』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第3回	中世王朝物語	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第4回	『発心集』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第5回	『うたたね』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第6回	『とはずがたり』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第7回	『平家物語』	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第8回	能・狂言	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第9回	近松門左衛門	
	指定された作品を読んでおく。	６０

第10回	仮名草子	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第11回	井原西鶴	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第12回	浮世草子	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第13回	上田秋成	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第14回	人情本	
	指定された作品を読んでおく。	６０
第15回	まとめ	
	中近世の恋愛文学史について自分なりにまとめる。	９０

授業の方法
講義形式による。

成績評価の方法
授業への参加度合（４０%）、期末レポート（６０%）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを使用する。

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学特殊講義Ⅰ		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	2070461011	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本講義は、日本の近代文学史の流れの中での、特に私小説の問題に注目する。日本の昔話、西洋の童話、古い伝承などの広範な文学ジャンルを視野に入れ、そのことが近代作家のあらたなモチーフとどのようにつながるか、作家が私を語るために伝承に題材を求めたのは何故かを考察していく。語り手の位置について、特にこだわりながら、作家の意図、文体などを細かく分析し、原典とともに時代思潮をも理解していく。大正期の小説から、ポストモダンの小説へと飛びながら、その描かれた現代を、作家の意図とともに探る。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	第１回　イントロダクション 「浦島太郎」「赤頭巾」「不思議の国のアリス」「クマのプーさん」のお話をまずまとめてみる。	
	小さい頃に読んだ、４つの童話、昔話を思い出してまとめてみる。どんな教訓とともに読んだかもまとめる。	60
第2回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。	
	難解な小説を読解するため、どのような方法をとればいいかを考える。	60
第3回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 原典がどう作り変えられているか、特にあらたな小説のキーワードを細かく抽出して、現代小説の問題点をまず、探る。	
	作品成立の時代背景、作家の特質などの理解をしながら、理解を深めていく。	60

第4回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 この新小説のなかに存在する２つの対立図式をくみたてながら、問題に近づいていく。	
	話のモチーフを明確にし、風刺や社会批判の意識をできるだけ文中の語から読み取っていく。	60
第5回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 読解に有効な参考文献を読む。	
	原作との比較対照の上で、作家のモチーフに近づいていく。	60
第6回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 「私は誰？」という問いかけと、それを促す人間の共通体験について考える。	
	作家について。高橋の日本文学史のあらたな切り込みを参考にして、語り手の問題がどう焦点化されているかを理解する。	60
第7回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」をまとめる。この小説には現代がどんな問題として表象されているのかをまとめる。	
	文章を読み、「私小説」と昔話の接点を説明していく。	60
第8回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	独特な言い回し、着眼の面白さをまとめる。	60
第9回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	作家の語ろうとする内容をよりすっきりと説明していく。	60

第10回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	原作が提起する問題をまとめ、高橋の浦島物語との違いをまとめる。	60
第11回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	現実をどのような方法でそれらしく映し出しているか、作者が浦島を援用する目的は何かをまとめる。	60
第12回	宇野浩二の「甘き世の話　新浦島太郎物語」を読む。	
	文中で作家自身の説明が述べられる所について考える。	60
第13回	宇野浩二の甘き世の話「新浦島太郎物語」を読む。	
	この題名がなにを意味しているか、原作のモチーフを明らかにしながら、比較対照をする。	60
第14回	「浦島太郎」の話のどんなパロデイかをまとめていく。 この小説のタイトルの意義を考察する。	
	客観描写、風景描写、心情描写と根本的に異なる小説のなかに、その意図を読み取っていく。	60
第15回	まとめ 伝承物語の受容によって、現代小説はなにを表現できるようになったか、「私」が置かれた現代とともに、「私」の表現についてまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、あらたに書き加えられた意義を、時代思潮とともにまとめてみる。	60

授業の方法

作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法

授業時の発表（５０%）レポート（５０%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト

授業はすべてプリント。
「さよならクリストファーロビン　」高橋源一郎　岩波書店
　「ペロー寓話集」　岩波文庫
「不思議の国のアリス」岩波文庫　「クマのプーさん」岩波書店　「宇野浩二集」

参考書

「いまファンタジーにできること」アーシュラ　K　ル・グイン　河出書房新社
「いま読むペロー」工藤庸子　羽鳥書店
「日本文学盛衰史」　高橋源一郎　講談社
「日本文学の表現機構」　安藤宏　岩波書店
「近代文体発生の史的研究」　山本正秀　岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近代文学特殊講義II		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	2070461012	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

本講義は、共通講義Ⅰに引き続き、歴史小説をもとにして、日本の近代文学史に迫っていく。特に、小説が書かれた時代、どんな歴史的背景の中で成立したかを丹念に見ていく。日本の近代小説を、伝承物語などを原典として再創造されたものに注目し、その変化、ずらしを細かく読み取り、両者の表現および思潮を捉え考察していく。様々な観点から作品分析を行い、その作家の生きた時代の意味をも理解していく。翻案という考え、また、歴史小説としての視点を含め、作家の批評意識に触れる。作家の意図、文体、原作の改変などを細かく分析しながら、原典とともに近代小説を捉え返し、時代思潮をも理解していく。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。
戯作的なもの、怪奇小説的なものにも眼を向け、風刺へと発展していくプロセスをも見ていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　イントロダクション 近代小説における翻案小説、再話の意義を解説し、さまざまな翻案や翻訳小説の紹介を行う。これから取り組む小説と評論についてのガイダンスをおこなう。	
	これまで自分の取り組んだ翻案について、また、初めて扱う翻案について理解を深める。	６０
第2回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。 織田の西鶴の現代語訳なども合わせて読んでいく。	
	異文化と、その語りの違いを確認しながら、枠組み小説に対する問題意識をもつ。この小説のモチーフを明らかにする。	６０
第3回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。歴史的な人物の自在な表現方法をまとめる。	
	この話が日本人にどう受け止められていったのか。さらに続けて考察していく。	６０

第4回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作品の成立事情、内容を理解し、読後の印象をまとめる。どのような意図を表すか、その意図を探る。	60
第5回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作者のこだわりや、表現上の特異な点を見つけていく。	60
第6回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」」を読み込んでいく。昭和１８年の作品の背景とともに読んでいく。この中で語る「私」がどのような特徴をもっているかに拘っていく。	
	どのような意識で原典を用いたのか、小説中の重要な言葉とそこに意味されたものを自分で解釈する。	60
第7回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。作家が英国少佐の心理を風刺しているのはどんな点か、をまとめる。	
	真面目にどんなことを考えているのか、考えていく。戦争の問題意識のありようとともに考え合わせていく。	60
第8回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	改変の意義を、自らの作品論としてまとめる。	60
第9回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	内容に合わせて、文体や表現の特徴をつかむ。	60

第10回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。 作家が時代に抗っていく形を読み込む。	
	英国少佐に語らせた意味をまとめる。	60
第11回	半村良の「箪笥」を読む。この小説は、なにを恐怖として描いているか。	
	題名や、箪笥というものの持つ意味性を捉える。その意義を考える。	60
第12回	半村良の「箪笥」を読む。	
	この小説の面白さについて自分の考えをまとめる。	60
第13回	半村良の「箪笥」を読む。主語の自在な変化を意味化していく、	
	作家の独特な表現の可能性を考察する。	60
第14回	この時期のエンターテイナーによる、あらたな小説の可能性を絞っていく。外国の小説の何を取り入れて自らの創作の樹立をめざしたのか、同時期の小説に照らして考察する。	
	特に、ジャンルや表現方法によって小説を位置づける。具体的に小説の言葉を抽出しながら説明し、考察する。	60
第15回	まとめ 日本の近代文学の史的な発展をまとめる。特に戦後の戯作はの活動に通目し、作家の私の意識の自在な変転の面白さをまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、時代思潮もまとめてみる。	60

授業の方法
作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法
授業時の発表（５０%）レポート（５０%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト
授業はすべてプリント。
「織田作之助全集　２巻」文泉堂
「表現の冒険」講談社文庫

参考書
「織田作之助文藝事典」浦西和彦　和泉書店大空社
「大阪近代文学作品事典」　浦西和彦　　和泉書店
「日本の名随筆　謎」　半村良作品社
「近代小説の表現機構」　　安藤宏　　岩波書店
「近代文体発生の史的研究」　山本正秀　岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学特殊講義Ⅰ		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070461021	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。
テキストは、日本語を題材としたメタファー論の概説として優れたものである。この書物及び関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の３点を到達目標とする。
・認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。
・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10
第2回	テキスト第1章～第2章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第3回	テキスト第３章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第4回	テキスト第４章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト第５章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト第６章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト第７章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト第８章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト第９章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト第10章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト第11章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト第12章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト第13章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	テキスト第14章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	テキスト第15章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法
演習形式

成績評価の方法
発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目しその到達度により評価を行う。
・認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
鍋島弘治朗『日本語のメタファー』（くろしお出版）

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学特殊講義II		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070461022	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。
テキストは、日本語を題材としたメタファー論の概説として優れたものである。この書物を読み、十分に理解した後で関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の３点を到達目標とする。
・認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。
・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10
第2回	テキスト第16章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第3回	テキスト第17章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第4回	テキストの書評の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト全体の復習	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法
演習形式

成績評価の方法
発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目しその到達度により評価を行う。
・認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
鍋島弘治朗『日本語のメタファー』（くろしお出版）

参考書
授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	文献資料特殊講義Ⅰ		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070461031	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

日本古典文学研究の前提となる書誌学に関する基礎的な知識の修得と、くずし字で書かれた原資料翻読のための基礎的な力を身につける。

到達目標

活字本として出版される前の段階の日本古典文学の書物にはどのような様態のものがあり、それらの文献資料が活字本として出版されるためには、どのような過程を経て、どのような処理がなさるのかということを、実感的に理解できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方について	
	テキストを通読しておく。	120
第2回	書誌学的な基礎知識概説①	
	授業の復習	30
第3回	書誌学的な基礎知識概説②	
	授業の復習	30

第4回	書誌学的な基礎知識概説③	
	授業の復習	30
第5回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習①	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第6回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習②	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第7回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習③	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第8回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習④	
	各自この回で取り上げる板本のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第9回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑤	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60

第10回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑥	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60
第11回	近世文学における諸ジャンルの板本・解読演習⑦	
	各自この回で取り上げる板本のコピー各の翻読を前もって試みておく。	60
第12回	江戸時代の手紙・解読演習①	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第13回	江戸時代の手紙・解読演習②	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第14回	江戸時代の手紙・解読演習③	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60
第15回	江戸時代の手紙・解読演習④	
	各自この回で取り上げる手紙のコピーの翻読を前もって試みておく。	60

授業の方法
講義形式と演習形式とを適宜組み合わせて行なう。

成績評価の方法
授業時の発表内容や授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
『和本入門』橋口侯之介著、平凡社（平凡社ライブラリー）、2011年、1400円。
適宜プリントを配付する。

参考書
『書誌学入門』堀川貴司著、勉誠出版、2010年、1944円
『アプリで学ぶくずし字』飯倉洋一編、笠間書院、2017年、800円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	文献資料特殊講義II		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070461032	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

江戸時代初期を代表する紀行文で、和文と漢詩文が混在する林羅山の板本『丙辰紀行』を取り上げ、その翻刻・注釈の方法を演習する。なお、参加者の習熟度や専門性によって、取り上げる作品その他を調整することがある。

到達目標

江戸時代の書物の原本をどう処理すれば、現代の人間としてその内容を享受できるようになるか、その方法と能力を涵養する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	『丙辰紀行』の概要の紹介。 授業の進め方の説明。 発表分担箇所の決定。	
	林羅山の伝記の概要を調べておくこと。	30
第2回	『丙辰紀行』の「武蔵野」～「増上寺」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第3回	同上の「隅田河」～「江嶋」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60

第4回	同上の「大礒」～「三嶋」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第5回	同上の「蛭小嶋」～「富士山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第6回	同上の「富士川」～「久能山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第7回	同上の「狐崎」～「八幡」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第8回	同上の「久佐奈岐」～「小夜中山」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第9回	同上の「西坂」～「今切」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60

第10回	同上の「潮見坂」～「長沢」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第11回	同上の「矢矯」～「桑名」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第12回	同上の「石薬師」～「鈴鹿」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第13回	同上の「土山」～「草津」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第14回	同上の「勢田」～「大津」の読解演習。	
	この回の発表箇所を前もって読んでおき、不明な語句などを調べておくこと。	60
第15回	まとめ。	
	これまで演習した箇所を確認し、問題点を考えておくこと。	60

授業の方法

ガイダンス的な講義を行なった後に、参加者に発表担当箇所を割り当て、演習形式で読解してゆく。担当者は資料を準備して発表し、その発表に基づいて参加者全員で質疑応答し、発表者の読解を補正してゆく。

成績評価の方法

発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

第一回の授業時に板本のコピーを配付する。

参考書

授業時に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受け付ける。

科目名	古代文学特殊研究Ｂ		
教員名	木谷　眞理子		
科目ナンバー	2070460012	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

『狭衣物語』を、深川本系・流布本系・異本系の各本文を比較しながら、精読する。併せて、『狭衣物語』に多大な影響を与えた『源氏物語』との比較も行いつつ、物語の技巧に注目して分析していく。

到達目標

DP8(創造性豊かな研究能力）を実現するために次の２点を到達目標とする。
①自らの力で調査・分析・考察を行い、作品の解釈を決めることができる。
②作品に用いられている物語の技巧について説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	『狭衣物語』について①	
	指定された課題を行う。	90
第2回	『狭衣物語』について②	
	指定された課題を行う。	90
第3回	『狭衣物語』について③	
	指定された課題を行う。	90

第4回	発表①	
	指定された課題を行う。	90
第5回	発表②	
	指定された課題を行う。	90
第6回	発表③	
	指定された課題を行う。	90
第7回	発表④	
	指定された課題を行う。	90
第8回	発表⑤	
	指定された課題を行う。	90
第9回	発表⑥	
	指定された課題を行う。	90
第10回	発表⑦	
	指定された課題を行う。	90

第11回	発表⑧	
	指定された課題を行う。	90
第12回	発表⑨	
	指定された課題を行う。	90
第13回	発表⑩	
	指定された課題を行う。	90
第14回	発表⑪	
	指定された課題を行う。	90
第15回	発表⑫	
	指定された課題を行う。	90
第16回	発表⑬	
	指定された課題を行う。	90
第17回	発表⑭	
	指定された課題を行う。	90

第18回	発表⑮	
	指定された課題を行う。	90
第19回	発表⑯	
	指定された課題を行う。	90
第20回	発表⑰	
	指定された課題を行う。	90
第21回	発表⑱	
	指定された課題を行う。	90
第22回	発表⑲	
	指定された課題を行う。	90
第23回	発表⑳	
	指定された課題を行う。	90
第24回	発表㉑	
	指定された課題を行う。	90

第25回	発表㉒	
	指定された課題を行う。	90
第26回	発表㉓	
	指定された課題を行う。	90
第27回	発表㉔	
	指定された課題を行う。	90
第28回	発表㉕	
	指定された課題を行う。	90
第29回	発表㉖	
	指定された課題を行う。	90
第30回	まとめ	
	指定された課題を行う。	90

授業の方法
演習形式による。

成績評価の方法
授業時の取り組み・発表・期末レポートをそれぞれ３０～３５％を目安に加味して総合的に判断する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①自らの力で調査・分析・考察を行い、作品の解釈を決めることができるか。
②作品に用いられている物語の技巧について説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
プリントを配布する。

参考書
授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	近世文学特殊研究		
教員名	揖斐　高		
科目ナンバー	2070460031	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

①前年度に引き続き、江戸時代中期の儒者で備中鴨方に住んだ西山拙斎が、見聞した街談巷説や学者・文人たちの逸事を漢文で記した随筆『間窓瑣言』を読解する。
②江戸時代前期を代表する漢詩人の作品を読解するための演習を行なう。

到達目標

①漢詩文の訓読と注釈、現代語訳の能力を涵養する。
②江戸時代の儒者・詩人の思考や表現法を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方などを説明する。 ・西山拙斎の伝記の概略および『間窓瑣言』の概略を説明する。	
	シラバスによく目を通しておくこと。	10
第2回	『間窓瑣言』の第50～53話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第3回	同じく第54～57話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第4回	同じく第58～61話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第5回	同じく第62～64話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第6回	同じく第65～66話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第7回	同じく第67話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第8回	同じく第68～69話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第9回	同じく第70話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第10回	同じく第71話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第11回	同じく第72話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第12回	同じく第73～76話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第13回	同じく第77～81話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第14回	同じく第82～83話の読解演習。	
	今回演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第15回	『間窓瑣言』読解演習のまとめと、「江戸前期の名作漢詩演習」の進め方の説明。	
	特になし。	0
第16回	石川丈山の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第17回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第18回	元政上人の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第19回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第20回	鳥山芝軒の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第21回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第22回	新井白石の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第23回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第24回	梁田蛻巌の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第25回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第26回	祇園南海の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第27回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第28回	服部南郭の略伝と代表作の読解演習①	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第29回	上記の②	
	今回演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第30回	まとめ	
	これまで演習した作品の問題点を考えておくこと。	90

授業の方法

ガイダンス的な講義を行なった後に、授業参加者に担当箇所を割り当て、順次演習形式で読解してゆく。担当発表者は発表資料を準備し、それに基づいて発表することとし、その発表について、出席者全員で質疑応答し、発表担当者の読解を補正する。

成績評価の方法

分担発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜プリントを配付、あるいは準備するものを指示する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	近代文学特殊研究Ａ		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070460041	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度　前期～後期

テーマ・概要

近代文学の歴史について古典的な研究書や評論を読みつつ考える。

到達目標

〈日本文学科〉ＤＰ６実現にむけ、次の三点を到達目標とする。
日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じている。
文学史の常識に通じている。
反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスを身につけている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス授業	
	【予習】シラバスを読み。日本近現代文学史に関する自分の知識や理解を顧み、また自分の研究テーマの文学史的意義付けについて考え、結果をメモをしておく。	６０分
第2回	ゼミの具体的な進め方について話し合う。	
	【予習】ガイダンスを踏まえて、テキストの内容を点検しておく。 【復習】話し合いの内容を反芻し、自分なりの演習スケジュールを確認する。	６０分
第3回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第4回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第5回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第6回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第7回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第8回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第9回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第10回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第11回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第12回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第13回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第14回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第15回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第16回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第17回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第18回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第19回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第20回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第21回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第22回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第23回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第24回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分

第25回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第26回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第27回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第28回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第29回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	９０分
第30回	今期の演習につてその成果と反省点等を全員で振り返り話し合う。	
	【予習】各自自分の参加態度も含めて今期の演習の流れについて省みる。 【復習】話し合いを反芻し必要なメモをとる。	６０分

授業の方法

担当者による発表と、全員による議論からなる演習を重ねる。臨機に共同研究のような試みも入れる予定。

成績評価の方法

総合評価。授業への参加態度（４０%）、発表（４０%）、レポート等（２０%）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

① 日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じているか。
② 文学史の常識に通じている。
３ 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスが身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

未定

参考書

適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学特殊研究Ｂ		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070460042	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

近代日本文学の研究。
発表と討議、情報交換を通して、演習参加者各自の研究を深める。
原則的には統一テーマを設けないが、参加者の人数と意欲次第では特定のテキストを決めて共同研究を行う。
なお、研究科オリエンテーションおよび第一回の授業には必ず出席すること。

到達目標

DP6～8を実現するため、以下を到達目標とする。
近代文学についての理解を深め、自ら主体的に研究する力、研究成果を発表し、論文にまとめる力を身につける。
『人文研究』または『成蹊国文』ほかに論考を掲載する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	シラバスを読み、自分の研究テーマの意義や可能性などについて考え、メモをしておく。	60
第2回	発表と討議１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第3回	発表と討議２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第4回	発表と討議３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第5回	発表と討議４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第6回	発表と討議５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第7回	発表と討議６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第8回	発表と討議７	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第9回	発表と討議８	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第10回	発表と討議９	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第11回	発表と討議１０	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第12回	発表と討議１１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第13回	発表と討議１２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第14回	発表と討議１３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第15回	前期反省会	
	半期の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90
第16回	後期の演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	自らの発表の準備を進めておく。	90
第17回	発表と討議１４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第18回	発表と討議１５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第19回	発表と討議１６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第20回	発表と討議１７	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第21回	発表と討議１８	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第22回	発表と討議１９	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第23回	発表と討議２０	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第24回	発表と討議２１	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第25回	発表と討議２２	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第26回	発表と討議２３	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第27回	発表と討議２４	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第28回	発表と討議２５	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第29回	発表と討議２６	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第30回	反省会	
	1年間の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90

授業の方法

輪番による発表と討議を基本のスタイルとする。
発表時間数などは受講者との相談で決める。

成績評価の方法

発表と討議をそれぞれ約４０%、その他の自主研究の成果約２０%の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
・授業で学んだ近代文学についての理解が身についているか。
・自ら主体的に研究したか。
・口頭発表を行い、論文等の形にまとめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

発表者との相談にて決定する。

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	森　雄一		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	吉田　幹生		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	林　廣親		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	浜田　雄介		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
受講者に応じて適宜指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	欧米文化研究Ⅰ		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071331101	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

アメリカ社会史・文化史
　主にアメリカ合衆国の事例に即して、多民族・多文化社会における特定テーマの一次史料・二次史料の精読と分析を行う。

到達目標

DP７、DP８を実現するため、以下の４点を到達目標とする。
①史料批判とはなにかを理解し、実践することができる。
②事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションを行うことができる。
③特定のテーマに関する一次史料と二次史料に基づき、研究動向をまとめて文章化することができる。
④アメリカ社会史に関する基礎的な歴史知識を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 一次史料・二次史料の選定。 報告スケジュールの確定。	
	配布資料に基づく課題をこなす。	60
第2回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第3回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

第4回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第5回	一次史料（日本語あるいは英語文献）の分析方法について確認する。	
	事前に指定した一次史料の精読を行う。	60
第6回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第7回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第8回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第9回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

第10回	一次史料（日本語あるいは英語文献）の分析方法について確認する。	
	事前に指定した一次史料の精読を行う。	60
第11回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第12回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第13回	研究計画書について、形式や構成について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第14回	研究計画書について、文章や内容について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第15回	総括	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

授業の方法

①特定テーマに関する一次史料と、それに関連する二次史料の精読と分析を行う。
②受講者による研究報告と、それに関する質疑応答を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの貢献、プレゼンテーション、レジュメ等の課題に対する総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ社会史・文化史に関する概説書を、事前に読んでおくこと。
授業中にも、適宜、自習用の概説書を紹介する。

テキスト

指定テキストについては、受講者の希望を踏まえて、第一回目の授業時に決定する。
一次史料・二次史料については、プリントの形で配布する。
その他の参考書については、授業中に適宜紹介する。

参考書

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史　社会史史料集』岩波書店、2006年。
亀井俊介・鈴木健次監修『史料で読むアメリカ文化史』東京大学出版会、2005年。
Cynthia Rose, ed., American Decades: Primary Sources (Gale, Cengage Learning, 2004).

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	欧米文化研究II		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071331102	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

アメリカ社会史・文化史
　主にアメリカ合衆国の事例に即して、多民族・多文化社会における特定テーマの一次史料・二次史料の精読と分析を行う。

到達目標

DP７、DP８を実現するため、以下の４点を到達目標とする。
①史料批判とはなにかを理解し、実践することができる。
②事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションを行うことができる。
③特定のテーマに関する一次史料と二次史料に基づき、研究動向をまとめて文章化することができる。
④アメリカ社会史に関する基礎的な歴史知識を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 一次史料・二次史料の選定。 報告スケジュールの確定。	
	配布資料に基づく課題をこなす。	60
第2回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第3回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

第4回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第5回	一次史料（日本語あるいは英語文献）の分析方法について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第6回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第7回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第8回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第9回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

第10回	一次史料（日本語あるいは英語文献）の分析方法について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第11回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第12回	事前に指定したテーマに関する担当者による報告とディスカッション	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第13回	研究計画書について、形式や構成について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第14回	研究計画書について、形式や構成について確認する。	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60
第15回	総括	
	事前に指定した箇所の精読を行う。 報告担当者は、レジュメ等の資料を作成する。	60

授業の方法

①特定テーマに関する一次史料と、それに関連する二次史料の精読と分析を行う。
②受講者による研究報告と、それに関する質疑応答を行う。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの貢献、プレゼンテーション、レジュメ等の課題に対する総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ社会史・文化史に関する概説書を、事前に読んでおくこと。
授業中にも、適宜、自習用の概説書を紹介する。

テキスト

指定テキストについては、受講者の希望を踏まえて、第一回目の授業時に決定する。
一次史料・二次史料については、プリントの形で配布する。
その他の参考書については、授業中に適宜紹介する。

参考書

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史　社会史史料集』岩波書店、2006年。
亀井俊介・鈴木健次監修『史料で読むアメリカ文化史』東京大学出版会、2005年。
Cynthia Rose, ed., American Decades: Primary Sources (Gale, Cengage Learning, 2004).

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際社会文化研究Ⅰ		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071331103	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

「国内強制移動（internal displacement）」をめぐる諸問題を扱う。国内避難民の問題は1990年代に国際社会の関心事項として認識されるようになり、国連の対応においても一定の進展がみられた。この授業ではこれまでの取り組みの軌跡、現状、今後の課題を検証する。とくに、気候変動や自然災害による人の移動について考えてみたい。

到達目標

DP8（専門分野における研究能力）を実現するため、下記を到達目標とする。
・授業のテーマの中からさらに具体的な課題を発見できる。
・ゼミ発表や議論を通じて専門的な知見を習得する。
・授業で扱う課題について多面的な視点で意見を述べることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	（以下のような流れで進めることを考えている。詳しくは、履修者と相談の上決定する。） ガイダンス	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第2回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第3回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第4回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第10回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第11回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法
英語文献の講読を行う（英語で原書を読む習慣を身に着けておくこと）。

成績評価の方法
平常点（20%）、授業での発表内容（60%）、学修姿勢（20%）を踏まえた総合評価。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
国際系の科目を履修しているのが望ましい。英文の原書を講読するので、英語の読解力は必須。

テキスト
下記の文献を読む。ただし、履修者の関心に合わせて他の文献を読むことも可能。

-Elizabeth Ferris, The Politics of Protection: The limits of Humanitarian Action, Washington, D.C.: Brookings Institution, 2011
-墓田桂『国内避難民の国際的保護-越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015年）

参考書
授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	国際社会文化研究II		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071331104	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

「国内強制移動（internal displacement）」をめぐる諸問題を扱う。国内避難民の問題は1990年代に国際社会の関心事項として認識されるようになり、国連の対応においても一定の進展がみられた。この授業ではこれまでの取り組みの軌跡、現状、今後の課題を検証する。とくに、気候変動や自然災害による人の移動について考えてみたい。

到達目標

DP8（専門分野における研究能力）を実現するため、下記を到達目標とする。
・授業のテーマの中からさらに具体的な課題を発見できる。
・ゼミ発表や議論を通じて専門的な知見を習得する。
・授業で扱う課題について多面的な視点で意見を述べることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	（以下のような流れで進めることを考えている。詳しくは、履修者と相談の上決定する。） ガイダンス	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第2回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第3回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第4回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第10回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第11回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法
英語文献の講読を行う（英語で原書を読む習慣を身に着けておくこと）。

成績評価の方法
平常点（20%）、授業での発表内容（60%）、学修姿勢（20%）を踏まえた総合評価。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
国際系の科目を履修しているのが望ましい。英文の原書を講読するので、英語の読解力は必須。

テキスト
下記の文献を読む。ただし、履修者の関心に合わせて他の文献を読むことも可能。

-Elizabeth Ferris, The Politics of Protection: The limits of Humanitarian Action, Washington, D.C.: Brookings Institution, 2011
-墓田桂『国内避難民の国際的保護-越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015年）

参考書
授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学研究Ⅰ		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071331201	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

文化人類学はフィールドワークを基本的方法論とし、文化とは何かを実践的に考える学問です。本演習ではグローバル化と文化の関係について考察します。グローバル化が進展するなか、私たちは様々な情報を手に入れることができ、画一化が進んでいるようにみえます。しかし、これまで接触することがなかった異なる文化的背景をもつ人々が関係することで、互いの相違も顕在化してきています。グローバルな市民社会がイメージされ、そのなかでグローバルな課題（グローバル・イシュー）の解決に向けての取り組みがおこなわれる一方、地域や文化の多様性をいかに尊重するかという点も重要になっています。本演習では民族誌を読むことを通じて具体的な事例にあたり、考察を深めていきます。

到達目標

DP8を身につけるため、以下を到達目標とする
多様な文化、多様な価値観の存在に気づく。
自分で課題を発見し、取り組む力をつける。
メディア・リテラシーを高める。
クリティカル・シンキングの力をつける。
プレゼンテーション能力をつける。
ディスカッション能力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	導入部 授業の進め方についての説明 レジュメの書き方についての説明 発表担当のグループ分け。	
	自分の興味、関心を明確にしておく。	30分
第2回	映像	
	映像をもとに適宜文献を読む等、考察を深める。	90分
第3回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第4回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第5回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第6回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第7回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第8回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第9回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第10回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第11回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第12回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第13回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第14回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第15回	まとめ	
	学期末レポート作成。	90分

授業の方法
演習形式です。

成績評価の方法
ゼミへの貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加など）５０％
レポート　５０％

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
文化人類学の入門書を読んでおいて下さい。

テキスト
最初の授業で受講生の関心等を考慮して決めます。

参考書
授業中、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学研究II		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071331202	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

文化人類学は、「文化とは何か」、「人間とは何か」ということについて、実践的に学び考える学問です。グローバル化が進展するなかで、世界は画一化の方向へ進むようにみえますが、他方で文化の相違、価値観の相違も顕在化しています。このことは世界各地で様々なかたちで紛争を引き起こしています。文化の多様性について知るとともに、異なる文化的背景を持つ人々がどのように共存していくことが可能なのか、そもそも異文化を理解するとはどのようなことなのかということについて考察を深めていきます。

到達目標

DP8を身につけるため、以下を到達目標とする
多様な文化、多様な価値観の存在に気づく。
自分で課題を発見し、取り組む力をつける。
メディア・リティラシーを高める。
クリティカル・シンキングの力をつける。
プレゼンテーション能力をつける。
ディスカッション能力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入部 授業の進め方についての説明 レジュメの書き方についての説明 発表担当のグループ分け。	
	発表準備のためのスケジュールをたてる。	30分
第2回	映像	
	映像をもとに関連文献を読む。	90分
第3回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第4回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第5回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第6回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第7回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第8回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第9回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第10回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第11回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第12回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第13回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第14回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第15回	まとめ	
	学期末レポート作成。	90分

授業の方法
演習形式です。

成績評価の方法
ゼミへの貢献度（発表内容、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションへの参加など。なお、出席を前提とする。）５０％
レポート　５０％

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
文化人類学の入門書を読んでおいて下さい。文化人類学研究Ｉとの継続です。

テキスト
受講生の関心を考慮しながら最初の授業で決めます。

参考書
授業中、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史研究ＢⅠ		
教員名	佐々木　紳		
科目ナンバー	2071331303	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

【テーマ】中東近現代史研究
【概要】この授業では、中東近現代史に関連する日本語・外国語の研究文献を講読しながら、当該地域の近現代史に関する最新の研究動向を確認し、問題点を批判的に検討して、受講者各自の研究に還元する。必要に応じて、各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう回も設ける。

到達目標

DP1（教養の修得）、2（課題の発見と解決）、6、8を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・中東近現代史に関する日本語・外国語の研究文献を読み解く能力を身につける。
・中東近現代史研究の最新動向を確認し、各自の研究のアップデートとブラッシュアップを図る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。簡単な自己紹介、および各自の研究テーマの概要説明の準備をしておく。 【復習】 テキストを用意し、概要を確認する。	120
第2回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第3回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

第4回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第5回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第6回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第7回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第8回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第9回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

第10回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第11回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第12回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第13回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第14回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第15回	授業の総括と確認	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

授業の方法

・演習形式でおこなう。

成績評価の方法

・授業への取り組み（50%）、授業内報告（50%）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中東地域は、歴史学以外にもさまざまな角度からアプローチできる。したがって、他地域・他分野の学生の受講も歓迎する。

テキスト

受講者と相談のうえ選定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史研究ＢII		
教員名	佐々木　紳		
科目ナンバー	2071331304	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】中東近現代史研究
【概要】この授業では、中東近現代史に関連する日本語・外国語の研究文献を講読しながら、当該地域の近現代史に関する最新の研究動向を確認し、問題点を批判的に検討して、受講者各自の研究に還元する。必要に応じて、各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう回も設ける。

到達目標

DP1（教養の修得）、2（課題の発見と解決）、6、8を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・中東近現代史に関する日本語・外国語の研究文献を読み解く能力を身につける。
・中東近現代史研究の最新動向を確認し、各自の研究のアップデートとブラッシュアップを図る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。簡単な自己紹介、および各自の研究テーマの概要説明の準備をしておく。 【復習】 テキストを用意し、概要を確認する。	120
第2回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第3回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

第4回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第5回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第6回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第7回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第8回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第9回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

第10回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第11回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第12回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第13回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第14回	文献の講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120
第15回	授業の総括と確認	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	120

授業の方法

・演習形式でおこなう。

成績評価の方法

・授業への取り組み（50%）、授業内報告（50%）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中東地域は、歴史学以外にもさまざまな角度からアプローチできる。したがって、他地域・他分野の学生の受講も歓迎する。

テキスト

受講者と相談のうえ選定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究ＡＩ		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071331501	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

計量社会学による基礎的、応用的な研究手法および実践について学ぶ。計量社会学 quantitative sociology は現代社会の様々な現象を統計データやテキストデータなど多様なデータをもちいることで読み解く社会学の一分野であり、テーマではなく手法によって特徴づけられている。とくに数量的なデータをもちいることで、社会や人々の生活や意識の変化、同時代の人々の多様性、そして、様々な社会現象の因果メカニズムの分析をおこなうことを目指す。この手法を身につけることで、理論的かつ実証的な社会学的思考を身につけ、計量社会学的な手法をもちいた学術論文を読解する能力を身につけるとともに、各自の関心のある課題を計量社会学的に分析する能力を身につける。
なお、履修にあたっては社会統計学の基礎的な手法（記述統計、統計的検定の基礎、回帰分析の基礎など）を学習した経験があることを前提とする。また、統計ソフトはRをもちい、必要に応じて他のソフトも使用する。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP8の達成のため、計量社会学的な手法をもちいた論文を読解し、同手法をもちいた修士論文を執筆するための基礎的、応用的な能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第2回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第3回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

第4回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第5回	理論と方法③：批判的アプローチ	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第6回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第7回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第8回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第9回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

第10回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第11回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第12回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第13回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第14回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第15回	議論のまとめ	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

授業の方法

演習方式で行う。履修生は、毎週指定された文献（論文は1～3本程度／回）の精読と、関連文献の渉猟および読み込み、文献の短い書評の執筆、および指定したデータをもちいての統計分析の実践が課題となる。講義では、学生による文献や統計手法についてプレゼンとともに、そのテーマについてのディスカッションを行う。

成績評価の方法

事前準備および事前課題、講義での議論、レポート

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会調査入門」、「社会調査の方法」、「社会統計学」「社会統計学」（いずれも文学部現代社会学科）などが深く関連している。また、後継科目として「社会学研究A II」がある。

テキスト

基礎的な文献として以下を指定する。その他については適宜講義内で指示する。
筒井淳也ほか編『計量社会学入門』世界思想社、2015年。
グリム＆ヤーノルド『研究論文を読み解くための多変量解析入門』基礎編、応用編、北大路書房、2016年。

参考書

講義時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究ＡII		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071331502	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

計量社会学による基礎的、応用的な研究手法および実践について学ぶ。計量社会学 quantitative sociology は現代社会の様々な現象を統計データやテキストデータなど多様なデータをもちいることで読み解く社会学の一分野であり、テーマではなく手法によって特徴づけられている。とくに数量的なデータをもちいることで、社会や人々の生活や意識の変化、同時代の人々の多様性、そして、様々な社会現象の因果メカニズムの分析をおこなうことを目指す。この手法を身につけることで、理論的かつ実証的な社会学的思考を身につけ、計量社会学的な手法をもちいた学術論文を読解する能力を身につけるとともに、各自の関心のある課題を計量社会学的に分析する能力を身につける。
なお、履修にあたっては社会統計学の基礎的な手法（記述統計、統計的検定の基礎、回帰分析の基礎など）を学習した経験があることを前提とする。また、統計ソフトはRをもちい、必要に応じて他のソフトも使用する。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP8の達成のため、計量社会学的な手法をもちいた論文を読解し、同手法をもちいた修士論文を執筆するための基礎的、応用的な能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第2回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第3回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

第4回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第5回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第6回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第7回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第8回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第9回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

第10回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第11回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第12回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第13回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第14回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120
第15回	統計手法の学習と、関連文献の読解	
	指定された文献を精読するとともに、統計手法をもちいて実際に分析する	120

授業の方法

演習方式で行う。履修生は、毎週指定された文献（論文は1～3本程度／回）の精読と、関連文献の渉猟および読み込み、文献の短い書評の執筆、および指定したデータをもちいての統計分析の実践が課題となる。講義では、学生による文献や統計手法についてプレゼンとともに、そのテーマについてのディスカッションを行う。

成績評価の方法

事前準備および事前課題、講義での議論、レポート

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会調査入門」、「社会調査の方法」、「社会統計学」「社会統計学」（いずれも文学部現代社会学科）などが深く関連している。また、後継科目として「社会学研究A II」がある。

テキスト

基礎的な文献として以下を指定する。その他については適宜講義内で指示する。
筒井淳也ほか編『計量社会学入門』世界思想社、2015年。
グリム＆ヤーノルド『研究論文を読み解くための多変量解析入門』基礎編、応用編、北大路書房、2016年。

参考書

講義時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究ＢⅠ		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071331503	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

テーマ：社会心理学

概要：社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます.

前期のトピック：マクロ統計の検討，先行研究の検討，リサーチ・クエスチョン設定など
後期のトピック：データ収集，分析，執筆，プレゼンテーションなど

到達目標

DP8を実現するため，以下を目標とする.
(1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける.
(2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて，メカニズムを説明できる.
(3) データ分析を通じて，社会全体の動きを把握できる.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	トピック　1	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	トピック　2	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	トピック　３	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック　４	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック　５	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック　６	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック　７	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック　８	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック　９	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック　１０	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック　１１	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック　１２	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック　１３	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法
演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法
平常点（授業への参加状況）＝40%　授業中の発言など＝30%　提出課題＝30%

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし

テキスト
小林盾『ライフスタイルの社会学：データからみる日本社会の多様な格差』東京大学出版会

参考書
とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究ＢII		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071331504	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：社会心理学

概要：社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます.

前期のトピック：マクロ統計の検討，先行研究の検討，リサーチ・クエスチョン設定など
後期のトピック：データ収集，分析，執筆，プレゼンテーションなど

到達目標

DP8を実現するため，以下を目標とする.
(1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける.
(2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて，メカニズムを説明できる.
(3) データ分析を通じて，社会全体の動きを把握できる.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	トピック　1	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	トピック　2	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	トピック　３	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック　４	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック　５	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック　６	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック　７	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック　８	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック　９	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック　１０	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック　１１	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック　１２	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック　１３	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法
演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法
平常点（授業への参加状況）＝40%　授業中の発言など＝30%　提出課題＝30%

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし

テキスト
小林盾『ライフスタイルの社会学：データからみる日本社会の多様な格差』東京大学出版会

参考書
とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究ＡＩ		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071331601	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に集合行動という観点から考えます。デジタルメディアをめぐるさまざまな社会現象を固有の枠組みの中で分析・考察することを通じて、「デジタルメディア社会」の新たな可能性を展望するとともに、その問題の淵源を探ることを目指します。

到達目標

DP8を実現するため、次の2点を到達目標とする。
①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その詳細を説明できるようになる。
②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて分析し、考察できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前半は文献講読中心に進めます。後半は実際の社会現象を取り上げ、ケーススタディ中心に進めます。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究ＡII		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071331602	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に社会運動という観点から考えます。デジタルメディアをめぐるさまざまな社会現象を固有の枠組みの中で分析・考察することを通じて、「デジタルメディア社会」の新たな可能性を展望するとともに、その問題の淵源を探ることを目指します。

到達目標

DP8を実現するため、次の2点を到達目標とする。
①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その詳細を説明できるようになる。
②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて分析し、考察できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前半は文献講読中心に進めます。後半は実際の社会現象を取り上げ、ケーススタディ中心に進めます。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究ＢⅠ		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071331603	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

　このゼミでは、近現代日本の雑誌メディアに関する基本文献を読む。さらに、じっさいに雑誌メディアを分析する。
　たとえば、「夫は仕事、妻は家事・育児という性別役割分業」などのジェンダーに関するルールや、「母親は子どもをかわいがらなければならない」、「家族内構成員同士は強い絆で結ばれている」などの家族に関するルール、「子どもには教育を与えなければならない」という学校教育に関するルールは、近代社会が生み出したものだといわれている。逆にいうとそれ以前には存在しなかったルールだといえる。そしてこのような近代社会が生み出したルールを人びとにわかりやすく、かつ魅力的なかたちで広めたのが、雑誌メディアである。また人びともそのイメージを利用して他者と差異化し、あるいは、仲間同士で集団を形成してきたといえる。このようなメディアの機能を捉えてみたいと考えている。

到達目標

ＤＰ１（教養の修得）、２（課題の発見と解決）、３（他者との協働）、４（自発性、積極性）、５（表現力、発信力）、６、７、８、９を実現するため、次のような到達目標を設定する。
　近現代日本の雑誌メディアを分析する視点および方法を獲得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	メディア・コミュニケーションを学ぶために	
	初回授業時に説明します	90
第2回	基本的文献に関する報告（１）	
	初回授業時に説明します	90
第3回	基本的文献に関する報告（２）	
	初回授業時に説明します	90

第4回	基本的文献に関する報告（３）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	基本的文献に関する報告（４）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	基本的文献に関する報告（５）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	基本的文献に関する報告（６）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	基本的文献に関する報告（７）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	基本的文献に関する報告（８）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	基本的文献に関する報告（９）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	基本的文献に関する報告（１０）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	基本的文献に関する報告（１１）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	基本的文献に関する報告（１２）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	基本的文献に関する報告（１３）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	基本的文献に関する報告（１４）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法
演習形式。

成績評価の方法
提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし。

テキスト
とくに指定しない。

参考書
今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究ＢII		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071331604	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

　このゼミでは、近現代日本の雑誌メディアに関する基本文献を読む。さらに、じっさいに雑誌メディアを分析する。
　たとえば、「夫は仕事、妻は家事・育児という性別役割分業」などのジェンダーに関するルールや、「母親は子どもをかわいがらなければならない」、「家族内構成員同士は強い絆で結ばれている」などの家族に関するルール、「子どもには教育を与えなければならない」という学校教育に関するルールは、近代社会が生み出したものだといわれている。逆にいうとそれ以前には存在しなかったルールだといえる。そしてこのような近代社会が生み出したルールを人びとにわかりやすく、かつ魅力的なかたちで広めたのが、雑誌メディアである。また人びともそのイメージを利用して他者と差異化し、あるいは、仲間同士で集団を形成してきたといえる。このようなメディアの機能を捉えてみたいと考えている。

到達目標

ＤＰ１（教養の修得）、２（課題の発見と解決）、３（他者との協働）、４（自発性、積極性）、５（表現力、発信力）、６、７、８、９を実現するため、次のような到達目標を設定する。
　近現代日本の雑誌メディアを分析する視点および方法を獲得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	メディア・コミュニケーションを学ぶために	
	初回授業時に説明します	90
第2回	基本的文献に関する報告（１）	
	初回授業時に説明します	90
第3回	基本的文献に関する報告（２）	
	初回授業時に説明します	90

第4回	基本的文献に関する報告（３）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	基本的文献に関する報告（４）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	基本的文献に関する報告（５）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	基本的文献に関する報告（６）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	基本的文献に関する報告（７）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	基本的文献に関する報告（８）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	基本的文献に関する報告（９）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	基本的文献に関する報告（１０）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	基本的文献に関する報告（１１）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	基本的文献に関する報告（１２）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	基本的文献に関する報告（１３）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	基本的文献に関する報告（１４）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法
演習形式。

成績評価の方法
提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし。

テキスト
とくに指定しない。

参考書
今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	地域福祉・NPO研究Ⅰ		
教員名	澁谷　智子		
科目ナンバー	2071331701	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業では、福祉の理論を学びながら、社会におけるつながりやコミュニティがどのように作られ、維持されているのかを考えていく。議論の中では、外国人、子育て支援、高齢になるということ、障害を持つということなどについても勉強し、地域において、ケアや医療の提供、介護者支援がどのようになされているのかを理解する。

到達目標

ＤＰ２（課題の発見と解決）、ＤＰ３（他者との協働）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
①社会のつながり作りや福祉に関する文献を読み、必要な基礎知識を身につける。
②地域における具体的な取り組みがどのように行なわれているのかを知る。
③地域性や時間の経過がそうした取り組みにどのように現れているのかを理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション	
	課題論文を読み、レジュメをまとめる。	90
第2回	文献精読①	
	課題論文を読み、レジュメをまとめる。	90
第3回	文献精読②	
	課題論文を読み、レジュメをまとめる。	90

第4回	文献精読③	
	課題論文を読み、レジュメをまとめる。	90
第5回	フィールドワークとは	
	文献を読んでくる。	60
第6回	フィールドワーク	
	フィールドノーツをまとめる。	60
第7回	インタビュー	
	インタビューの質問を考え、内容を記録する。	60
第8回	データの整理	
	テープ起こしを行う。	90
第9回	分析①	
	コーディングを行う。	90

第10回	分析②	
	コーディングを行う。	90
第11回	発表準備①	
	発表の構成を決める。	90
第12回	発表準備②	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第13回	発表と検討①	
	論文執筆に向けて準備する。	120
第14回	発表と検討②	
	論文執筆に向けて準備する。	120
第15回	まとめ	
	論文執筆に向けて準備する。	120

授業の方法

前半は、テキストの精読とレジュメを用いた発表を行う。必要に応じて、映像や記事などを見たり、実際の現場の視察も行う。後半は各自の関心のあるテーマについて発表を行い、論文作成に向けて準備をする。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

履修生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

ピエール・ロザンヴァロン, 2006, 『連帯の新たなる哲学』勁草書房. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地域福祉・NPO研究II		
教員名	澁谷　智子		
科目ナンバー	2071331702	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この授業では、福祉の理論を学びながら、社会におけるつながりやコミュニティがどのように作られ、維持されているのかを考えていく。議論の中では、外国人、子育て支援、高齢になるということ、障害を持つということなどについても勉強し、地域において、ケアや医療の提供や介護者支援がどのようになされているのかを理解する。

到達目標

ＤＰ２（課題の発見と解決）、ＤＰ３（他者との協働）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
①社会のつながり作りや福祉に関する文献を読み、必要な基礎知識を身につける。
②地域における具体的な取り組みがどのように行なわれているのかを知る。
③地域性や時間の経過がそうした取り組みにどのように現れているのかを理解する。
④学んだ内容に基づいて論文をまとめる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	参考文献について	
	課題論文を読んでくる。	60
第2回	論文を読む①	
	課題論文の要約を作る。	60
第3回	引用や注について	
	課題論文を読んでくる。	60

第4回	論文を読む②	
	課題論文の要約を作る。	60
第5回	接続詞、査読について	
	課題論文を読んでくる。	60
第6回	論文を読む③	
	課題論文の要約を作る。	60
第7回	研究発表①	
	自らの関心のあるテーマについて、情報を集め、発表の構成を決める。	90
第8回	研究発表②	
	自らの関心のあるテーマについて、情報を集め、発表の構成を決める。	90
第9回	研究発表③	
	発表の配布資料、発表のための原稿などを作成する。	90

第10回	研究発表④	
	発表の配布資料、発表のための原稿などを作成する。	90
第11回	論文発表①	
	執筆した原稿に基づいて論文を発表する。	90
第12回	論文発表②	
	執筆した原稿に基づいて論文を発表する。	120
第13回	論文発表③	
	執筆した原稿に基づいて論文を発表する。	120
第14回	論文発表④	
	執筆した原稿に基づいて論文を発表する。	120
第15回	まとめ	
	これまでの授業を振り返り、学びの成果を確認する。	60

授業の方法

前半は論文の書き方を勉強し、後半は自らの関心のあるテーマについての研究を深め、論文執筆を進める。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

履修生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

ピエール・ロザンヴァロン, 2006, 『連帯の新たなる哲学』勁草書房. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際社会文化演習		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071332102	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

この授業では、「国際関係に文化の視点から取り組む」作業を、文献講読を中心に行う。
「文化でみる国際関係」「文化でつくる国際関係」「文化がつくる国際関係」の３つのテーマのいずれか、あるいは複数をとりあげ、受講者の関心もふまえて関連する文献を選定し、講読する。

到達目標

国際関係と文化にまつわる諸問題・諸議論について理解を深め、各人の研究に役立てることを目標とする。
全体を通して、「聞く」「課題を発見する」「情報を収集する」「情報を整理する」「読む」「書く」「分析する」「プレゼンする」といった、研究を遂行するための力を養うことをめざす。DP1（教養の修得）、２（課題の発見）、３（他者との協働）、４（自発性、積極性）、５（表現力、発信力）を総合的に実現したい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	〈具体的な授業の進め方は、受講者と相談の上決定する。〉 イントロダクション （授業の概要と問題意識を解説し、受講者の問題関心を聴取する。）	
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30
第2回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第3回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第4回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第5回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第6回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第7回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第8回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第9回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第10回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第11回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第12回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第13回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第14回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者に、授業での文献購読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第15回	授業前半のふり返りと今後の研究計画相談 （前半の授業を総括するとともに、後半の授業の方向性や、各人の研究の展望などについて意見を交換する。）	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60
第16回	後半のイントロダクション （後半の授業計画について協議する。）	
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30
第17回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120

第18回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第19回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第20回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第21回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第22回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第23回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第24回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第25回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第26回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第27回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第28回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第29回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者に、授業での文献購読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第30回	まとめ （授業全体を総括し、各人の研究の展望などについて意見を交換する。）	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60

授業の方法

主として外国語（英語またはドイツ語）の文献講読をベースにした対話型の授業を行う。受講者は課題となる文献を予習し、授業で文章の日本語訳あるいは主要な論点、内容に対する批判的考察を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法

授業への出席50%、毎回の課題の実施状況50%をめやすに、総合的に評価する。討論への積極的参加や、授業の成果を応用した研究の進展などがみられた場合は、加点を与える。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「国際関係論」「国際文化論」「平和学」「文化人類学」、およびまた、それらに関連した内容の授業を、少しでも履修していることが望ましい。

テキスト

開講時および開講後に受講者の問題関心や希望を聴取し、その上で決定する。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	文化人類学演習		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071332201	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

本演習は、文化人類学の一分野である音文化研究に関して学修する。具体的なテーマとして、アラブ芸術の中で最も理論化の進んだアラブ古典音楽を取り上げ、その歴史的発展過程と構造的特徴を研究する。音楽理論の知識は必ずしも要求しないが、フランス語の資料を輪読するので、受講者はフランス語の素養を身につけていることが望ましい。　もちろんアラビア語の知識があればそれに越したことはない。

到達目標

DP８を実現するため、以下を目標とする。
1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入 ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 ・使用する予定の資料群の概要を説明する。	
	[予習]シラバスをよく読んで、1年間の学修予定を理解しておく。	90
第2回	文化人類学と音文化研究 ・音文化研究が文化人類学の中に占める位置を学修する。	
	[予習]文化人類学の学説史を振り返っておく。 [復習]音文化研究の位置づけを確認する。	90
第3回	アラブ音楽の前夜 ・ジャーヒリーヤ時代のアラビア半島の音文化を学修する。	
	[予習]7世紀までのオリエント史を振り返っておく。	90

第4回	イスラームの音文化 ・イスラームの誕生とともに成立した音文化を学修する。	
	[予習]イスラームの基本である六信五行を確認しておく。	90
第5回	三つの音楽群 ・ウマイヤ朝時代からアッバース朝時代に成立した都市・地方・砂漠の歌の特徴を学修する。	
	[予習]初期イスラーム史を振り返っておく。	90
第6回	「歌の書」とアラブ音楽の隆盛 ・イスバハーニーの「歌の書」の情報内容を学修する。 ・バグダードの宮廷音楽の特徴を学修する。	
	[復習]アッバース朝文化の特徴を理解しておく。	90
第7回	むくどり革命 ・「むくどり」というあだ名で有名な大音楽家ズィルヤーブの生涯と、彼が残した革命的文化遺産を学修する。	
	[予習]北アフリカのイスラーム史を調べておく。	90
第8回	アンダルシアの春 ・9世紀から15世紀に花開いたアンダルシア地方のアラブ文化を、音楽を中心に学修する。	
	[予習]アンダルシア史と中世スペイン史を振り返っておく。	90
第9回	レコンキスタの残像 ・レコンキスタによってイベリア半島を追われたムスリムとユダヤ教徒の、その後の足跡を北アフリカ・地中海世界に追う。	
	[予習]中世ユダヤ史を調べておく。	90
第10回	ユダヤ音楽の足跡 ・中世スペイン文化の成立に不可欠な役割を果たしたユダヤ音楽（＝セファルディーム音楽）の特徴と、レコンキスタ以降のユダヤ音楽の命運を追う。	
	[予習]16世紀を中心とした地中海世界の歴史を調べておく。	90

第11回	アンダルシアの残照 ・アラブ音楽とユダヤ・セファルディーム音楽に託されたアンダルシア文化の栄華を学修する。	
	[予習]アンダルシア文化に含まれた思想や哲学の業績を調べておく。	90
第12回	アラブ＝アンダルシア音楽の継承 ・アラブ＝アンダルシア音楽がレコンキスタ以降、北アフリカ各地で継承されていったプロセスを学修する。	
	[予習]16世紀以降の北アフリカ史を調べておく。	90
第13回	三つのアンダルシア音楽 ・モロッコ、アルジェリア、チュニジアでそれぞれに展開したアンダルシア音楽の特徴を学修する。	
	[復習]3国の音楽の違いを理解する。	90
第14回	ヌーバの伝統の成立 ・モロッコで展開されたアンダルシア音楽の16世紀から19世紀までの歩みを学修する。	
	[復習]モロッコ中世史と音楽の関わりを理解する。	90
第15回	イスラーム教団と音楽 ・イスラーム教団で使用される音・声とアンダルシア音楽の結びつきを学修する。	
	[復習]イスラム教団で使用する声の技芸の特徴を整理する。	90
第16回	近代アラブ＝アンダルシア音楽の成立 ・20世紀のアラブ＝アンダルシア音楽の成立過程を、フランス植民地主義との関係で理解する。	
	[予習]北アフリカにおけるフランス植民地統治のプロセスの概要を調べておく。	90
第17回	旋法音楽 ・アラブ＝アンダルシア音楽の支柱となっている「旋法」のシステムについて学修する。	
	[復習]旋法という概念を理解する。	120

第18回	リズム ・アラブ＝アンダルシア音楽のもうひとつの支柱であるリズムのシステムについて学修する。	
	[復習]リズムの種類と特徴を整理する。	120
第19回	音楽のリズムと言葉のリズム ・アラビア語詩の韻律規則である「アルード」および「バハル」のシステムについて学修する。	
	[復習]アラビア語詩の韻律規則のシステムを整理する。	120
第20回	トルコ音楽の世界 ・16世紀以降アラブ世界に大きな影響を与えたトルコ音楽の特徴を理解する。	
	[予習]15世紀以来のオスマントルコ史の概要を調べておく。	90
第21回	マシュリク音楽の展開 ・オスマントルコの治下で展開したマシュリク（東アラブ）の音楽事情を、シリアとエジプトを軸に学修する。	
	[予習]中東の中世史・近代史の概要を調べておく。	90
第22回	ムワッシャハの世界 ・マシュリクで発展した「ムワッシャハ」という音楽ジャンルの特徴を学修する。	
	[復習]東アラブ世界における音楽ジャンルの特徴を整理する。	90
第23回	近代アラブ音楽の成立 ・1932年にカイロで開催されたアラブ音楽会議の内容を学修する。 ・この会議が近代アラブ音楽を誕生させた経緯を理解する。	
	[予習]20世紀のエジプト史と、同時代のヨーロッパの音楽事情を調べておく。	120
第24回	アラブ音楽会議とは何だったのか ・1932年会議のプロシーディングスを解読する。	
	[復習]1932年会議のプロシーディングスの概要を整理する。	120

第25回	現代アラブ音楽の成立 ・20世紀を代表する大歌手ウンム・クルスームの生涯を通じて、現代アラブ音楽の誕生プロセスを学修する。	
	[復習]ウンム・クルスームのライフヒストリーを見直す。	90
第26回	音楽とイスラーム ・イスラームの展開の中で「音楽」がどのように扱われてきたのかを学修する。	
	[予習]イスラム思想の中で生じた音楽論争の骨子を調べておく。	90
第27回	比較音楽学から音文化研究まで（1） ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[復習]比較音楽学と民族音楽学の目的と方法の違いを整理する。	90
第28回	比較音楽学から音文化研究まで（2） ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[予習]音楽人類学とはなにか、その概要を調べておく。	90
第29回	音文化研究とアラブ音楽 ・アラブ音楽の研究が音文化研究にいかなる貢献を果たせるのかを理解する。	
	[予習]音文化研究の目的と方法を調べておく。	90
第30回	総括 ・1年間の演習の成果を振り返り、残された課題を確認する。	
	[復習]一年間の授業で理解できたことと課題として残ったことを整理し、文章化の準備をする。	120

授業の方法
受講者は各回のテーマに応じてあらかじめ指定された資料をよく読んで、レジュメを作成し、発表する。授業では受講者全員によるディスカッションを通じてテーマの理解を深める。

成績評価の方法
発表（40%）、授業中の発言・コメント・討議（30%）、2回程度の課題レポート（30%）による総合評価。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
上記「達成目標」に掲げた以下の諸点の達成度により評価する。
1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
必要な予備知識：イスラーム史、文化（社会）人類学の基礎。

テキスト
各回ごとにあらかじめ指示する（フランス語によるテキストが主流になる）。

参考書
授業中、適宜指示する。
辞典類（文化人類学事典、音楽事典など）は各自調達することが望ましい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史演習Ａ		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071332301	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

日本・東アジア社会の歴史
日本・東アジア社会を歴史的に考察する。受講生の興味・関心にしたがって、さまざまな文献・資料を読み込んでいく。

到達目標

DP２（課題の発見と解決）、５（表現力、発信力）、６（専門分野の知識・理解）を実現するため、次のを到達目標とします。
・受講生個々人のテーマにそった論題を決め、その論題について考察していく。
・修士論文執筆のために建設的な準備をしていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	【予習】これまでの受講生の研究内容を再整理しておく。	60
第2回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第3回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第4回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第5回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第6回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第7回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第8回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第9回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第10回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第11回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第12回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第13回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第14回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第15回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読とレポートの準備	60
第16回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第17回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第18回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第19回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第20回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第21回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第22回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第23回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第24回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第25回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第26回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第27回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第28回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第29回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第30回	総まとめ	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読とレポートの準備	60

授業の方法
受講生の報告。

成績評価の方法
授業中の報告と夏休み・期末レポート。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特にありません。

テキスト
受講生と相談のうえ決定します。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史演習Ｂ		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071332302	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

【テーマ】フランス革命の諸問題
【概要】フランス革命にかかわるトピックを論じたフランス語テキストを読むことを通じて、フランス革命の意味を考える。

到達目標

ＤＰ８
優れた学識を備え、専門分野における研究能力と専門職業人として必要な知的素養の修得をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	導入	
	シラバスを読んでくる。	20
第2回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第3回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第4回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第5回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第6回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第7回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第8回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第9回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第10回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第11回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第12回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第13回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第14回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第15回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第16回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第17回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第18回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第19回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第20回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第21回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第22回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第23回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第24回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第25回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第26回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第27回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第28回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第29回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第30回	まとめ	
	テキストの復習	120

授業の方法

フランス語のテキストを読み、質疑応答しながら、授業をすすめる。

成績評価の方法

授業への積極的な参加（50%）と課題レポート（50%）によって成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

テキストは授業開始後、プリントして配布する。

参考書

授業開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	女性史・ジェンダー演習		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071332401	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

イギリスを中心にジェンダー史を学ぶ。

到達目標

ディプロマポリシーウ（優れた学識を備え、専門分野における創造性豊かな研究 能力や高度な専門職業人等として活動するのに必要な広い知的素養と能力の修得）以下の２点を到達目標とする。
①近代イギリスジェンダー史の概略を知る。
②ジェンダーの視点で歴史を分析する力をつける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション 授業計画の説明、報告者の割当	
	ジェンダー史に関する文献を2-3読んでみる。	60
第2回	テキストの第１章を読み、ジェンダー史の課題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第3回	第１章について、関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第4回	テキストの第２章を読み、ジェンダー史における身体、セクシュアリティの問題について考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第5回	第2章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第6回	テキストの第３章を読み、ジェンダー史における人種や階級の問題について考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第7回	第3章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第8回	テキストの第４章を読み、ジェンダー史における男性性の問題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第9回	第４章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第10回	テキストの第5章を読み、ジェンダー史における政治文化の問題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第11回	第5章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	３つの論文で学んだことを参考に、各自が自分のテーマをジェンダー視点から見直してみる。関連する文献も参照すること。	60. 報告者は120.
第12回	テキストの第６章を読み、ジェンダー史の最も最先端のテーマについて考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第13回	第6章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第14回	テキストで学んだことを自分自身の研究分野の中で考えてみる。	
	テキストを読み返し、自分自身の研究をジェンダー史の視点から考えてみる。	120
第15回	前期のまとめ。	
	前期の復習。	120
第16回	テキスト（今井他）の第１章を読み、フェミニズム論の発展について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第17回	テキスト（今井他）の第１章を読み、フェミニズム論の発展について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第18回	テキストの第２章を読み、イギリスジェンダー史における家庭と教育について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第19回	テキストの第２章を読み、イギリスジェンダー史における家庭と教育について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第20回	テキストの第３章を読み、イギリスにおける女性と政治の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	120
第21回	テキストの第３章を読み、イギリスにおける女性と政治の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第22回	テキストの第４章を読み、イギリスにおける女性と労働の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第23回	テキストの第４章を読み、イギリスにおける女性と労働の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第24回	テキストの第５章を読み、イギリスにおける慈善と福祉の歴史、それに女性がどう関わったか、について学ぶ。	
	これまで学んだ章を読み直し、関連文献を調査しつつ、自分のコメントを考えてくる。	120

第25回	テキストの第５章を読み、イギリスにおける慈善と福祉の歴史、それに女性がどう関わったか、について学ぶ。	
	これまで読んだ文献で学んだことを参考にして、各自が自分のテーマをジェンダー視点から見直してみる。関連する文献も参照すること。	120
第26回	テキストの第６章を読み、大英帝国と女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第27回	テキストの第６章を読み、大英帝国と女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第28回	テキストの第７章、第８章を読み、第二次世界大戦中およびその後の女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第29回	テキストの第７章、第８章を読み、第二次世界大戦中およびその後の女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	120
第30回	１年間のまとめ。 ジェンダーの視点の歴史学への導入が果たした役割について考える。	
	１年間の復習と、ジェンダー視点の歴史学への導入の意義についての自分の見解をまとめてくる。	120

授業の方法

テキストの輪読。
ソニア・O・ローズ『ジェンダー史とは何か』（法政大学出版局）
今井けい、河村貞枝『イギリス近現代女性史入門』（青木書店）

成績評価の方法

報告、レジュメの内容。65%
議論の中での発言内容。35%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

女性学、男性学、ジェンダー学についての入門的知識があることが望ましい。

テキスト

Ina Zweiniger-Bargielowska, Women in Twentieth-Century Britain, Longman.
June Purvis ed., Women's History: Britain, 1850-1945, Routlidge.
Hannah Barker ed., Women's History: Britain, 1700-1850, Routlidge.

上記３冊の該当する章。

参考書

上記３冊の授業では読まない章。

竹内敬子「 ジェンダー史の現在―「実り」の時を越えて」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望 -社会経済史学会創立80周年記念』有斐閣。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学演習Ａ		
教員名	中江　桂子		
科目ナンバー	2071332501	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

文化社会学演習
文化の生成と消滅についての理論的基礎を学び、実際の文化現象を読み解くトレーニングをおこなう。

到達目標

学生それぞれの研究テーマを、どのような研究の枠組みのなかで探求することがふさわしいのか、について、学生それぞれが理解し、研究の道筋を構築することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の進め方について。 授業参加の姿勢について。 毎回の授業から自分の研究への、結びつけ方について。	
	自分の研究テーマについての設計をもっていること。	６０分
第2回	文化社会学研究文献の精査。研究情報の集め方について。	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと。	60分
第3回	研究文献の精読（１）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第4回	研究文献の精読（２）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第5回	研究文献の精読（3）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第6回	研究文献の精読（4）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第7回	中間のまとめ――文献を研究のなかにどう活かすか。	
	自分の研究への振り返りをすること。研究の資料収集について確認しておくこと。	９０分
第8回	研究文献の精読（5）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第9回	研究文献の精読（6）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第10回	研究文献の精読（7）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第11回	研究文献の精読（8）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第12回	中間のまとめ――オリジナルデータとは何か	
	自分の研究について振り返りをすること。および、研究のオリジナリティについて考えること。	９０分
第13回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（１）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	９０分
第14回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（2）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	９０分
第15回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究計画について。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 それを夏休みの研究計画のなかに具体的にあらわすこと。	９０分
第16回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究成果についての報告。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 夏休みの研究成果をふまえ、今後の研究計画をたてること。	９０分
第17回	今後の研究の展望について。および研究文献の精読についてのガイダンス。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 今後の研究計画をたて、それに応じた研究の具体的方法について吟味すること。	９０分

第18回	研究文献の精読（９）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第19回	研究文献の精読（10）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第20回	研究文献の精読（11）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第21回	研究文献の精読（12）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第22回	中間のまとめ――学びをどのように応用するのか	
	いままでの研究を振り返り、それを論文という表現形式の中で形にするためには、何が必要かを考える。	９０分
第23回	研究文献の精読（13）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第24回	研究文献の精読（14）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第25回	研究文献の精読（15）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第26回	研究文献の精読（16）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第27回	論文執筆指導（１） 論理的筋道をたてることについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第28回	論文執筆指導（２） 資料を有効に使うことについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第29回	論文執筆指導（３） 文章表現についての注意	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第30回	論文執筆の全体の確認。および今後の課題の確認。	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。　論文の成果と課題について、客観的に考えること。	120分

授業の方法
ゼミ形式。

成績評価の方法
出席（およそ20%程度）。研究文献の精読の達成度（40%程度）。研究文献への批判的精査あり方（20%程度）。研究論文の達成度（20%程度）。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
基本的に、学部レベルの社会学・文化社会学などの知識が必要である。

テキスト
学生の研究テーマをふまえて、ゼミの最初に決める。

参考書
ゼミのなかで指導する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学演習Ｂ		
教員名	稲葉　佳奈子		
科目ナンバー	2071332502	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

本演習の学修において主に対象とするのは、社会的文化的現象としてのスポーツ・身体文化・「からだ」にかかわる多様なふるまいである。スポーツや身体をめぐる諸現象は、わたしたちの社会で多くの人びとが共有する価値観や認識のあり方を反映する一方で、新たな価値観や認識の形成にもかかわっている。現代社会の諸問題がスポーツや身体をめぐる具体的現象において、どのように立ちあらわれるのか。スポーツあるいは「からだ」がもつ社会的文化的意味とは何か。こうした問いを共有しながら、多様な事例をとりあげて考察・議論する。

到達目標

①現代社会の諸問題とスポーツとのかかわりや、スポーツや身体に付与された社会・文化的意味について理解することができる。
②諸現象について学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができる。
以上を到達目標とし、とくにDP３（他者との協働）、DP６（文化現象の総合的理解）DP７（問題発見能力および多面的な分析能力）の実現を目指す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：スポーツ社会学の射程	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第2回	社会過程とスポーツ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第3回	フィクションとしてのスポーツ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60

第4回	身体論とスポーツ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第5回	スポーツと公共性	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第6回	障害者スポーツ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第7回	スポーツと開発	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第8回	スポーツと地域社会	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第9回	スポーツとジェンダー	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第10回	スポーツと人種	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60

第11回	スポーツと社会階層	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第12回	スポーツとメディア	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第13回	スポーツと経済	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第14回	スポーツと政治	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第15回	前期の議論のまとめ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第16回	トピック１	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第17回	トピック２	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60

第18回	トピック３	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第19回	トピック４	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第20回	トピック５	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第21回	トピック６	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第22回	トピック７	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第23回	トピック８	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第24回	トピック９	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60

第25回	トピック10	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第26回	トピック11	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第27回	トピック12	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第28回	トピック13	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第29回	トピック14	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60
第30回	議論のまとめ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	60

授業の方法
演習方式でおこなう。指定された文献の精読など事前学修した成果をプレゼンし、当該テーマについてディスカッションする。

成績評価の方法
プレゼンの内容30%、議論への参加状況40%、提出課題30%をもとに、総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし。

テキスト
とくに指定しない。

参考書
授業時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション演習Ａ		
教員名	見城　武秀		
科目ナンバー	2071332601	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

近年、メディアやコミュニケーションのあり方を社会や文化の説明項と見なすのではなく、社会や文化によって構成される被説明項と考える立場が主流となりつつあります。このような動きは、いわゆる技術決定論に対する批判として1980年代以降「社会構成主義的技術論」が注目を浴びるようになったことと密接に関連しています。一体こうした動きの中で何が問題とされ、どんな提案がおこなわれてきたのか。メディアとコミュニケーションをめぐる問いを立てる上でも参考になるこれらの基礎知識を、基本的文献を購読しながら身につけることを目指します。

到達目標

DP６およびＤＰ８を達成するため、以下を到達目標とします。
・「技術決定論」と対比させることで、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期イントロダクション	
	次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第2回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（１）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第3回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（２）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第4回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（３）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第5回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（４）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第6回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（１）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第7回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（２）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第8回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（３）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第9回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（４）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第10回	"Does Technology Drive History?"の購読（１）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第11回	"Does Technology Drive History?"の購読（２）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第12回	"Does Technology Drive History?"の購読（３）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第13回	"Does Technology Drive History?"の購読（４）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第14回	"Does Technology Drive History?"の購読（５）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第15回	前期のまとめ	
	半年間の授業内容を振り返り、理解したことを自分なりに整理する。	60
第16回	後期イントロダクション	
	次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第17回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（１）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第18回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（２）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第19回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（３）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第20回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（４）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第21回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（５）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第22回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（６）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第23回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（７）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第24回	”Shaping Technology/ Building Society”の講読（８）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第25回	”The Social Shaping of Technology”の講読（１）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第26回	”The Social Shaping of Technology”の講読（２）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第27回	”The Social Shaping of Technology”の講読（３）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第28回	”The Social Shaping of Technology”の講読（４）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第29回	”The Social Shaping of Technology”の講読（５）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第30回	１年間のまとめ	
	１年間の授業内容を振り返り、理解したことを自分なりに整理する。	60

授業の方法

英文テキストの購読と議論を中心とする演習形式。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）20%、議論への貢献度40%、発表資料の出来40%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（１）テキストの内容を的確に理解しているか。
（２）各テキストの内容を「技術決定論」と「社会構成主義的技術論」をめぐる一連の議論の中に位置づけることができるか。
（３）「技術決定論」との対比において、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Bijker, W. E., T. P. Hughes, and Trevor Pinch (Eds.), 1987, The Social Construction of Technological Systems. The MIT Press.
Bijker, W. E., 1995, Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs: Toward a Theory of Sociotechnical Change. The MIT Press.
Smith, M. R. and L. Marx, 1994, Does Technology Drive History?: The Dilemma of Technological Determinism. The MIT Press.
Bijker, W. E. and J.Law (Eds.), 1994, Shaping Technology/ Building Society: Studies in Sociotechnical Change. The MIT Press.
MacKenzie, D. and J. Wajcman (Eds.), 1987, The Social Shaping of Technology. Open University Press. （いずれもコピーを配布します）

参考書

授業中に随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション演習Ｂ		
教員名	西　兼志		
科目ナンバー	2071332602	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

メディア・コミュニケーションに関する、フランス語圏を中心とした文献の講読を行い、各自がメディア・コミュニケーションの具体的な現象を分析できるようにしていきます。講読文献については、参加者と相談して決めていきたいと思います。

到達目標

ＤＰ２（課題の発見と解決）を実現するために、メディア・コミュニケーションについての理論的分析をみずからの力でできるようになることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	文献講読のためのイントロダクション	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第2回	文献講読１	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第3回	文献講読２	
	講読文献および関連資料の理解	90分

第4回	文献講読３	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第5回	文献講読４	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第6回	文献講読５	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第7回	文献講読６	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第8回	文献講読７	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第9回	文献講読８	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第10回	文献講読９	
	講読文献および関連資料の理解	90分

第11回	文献講読１０	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第12回	文献講読１１	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第13回	文献講読１２	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第14回	文献講読１３	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第15回	文献講読のまとめ	
	講読文献および関連資料の理解	90分
第16回	コンテンツ分析のためのイントロダクション	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第17回	コンテンツ分析の実践１	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分

第18回	コンテンツ分析の実践２	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第19回	コンテンツ分析の実践３	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第20回	コンテンツ分析の実践４	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第21回	コンテンツ分析の実践５	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第22回	コンテンツ分析の実践６	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第23回	コンテンツ分析の実践７	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第24回	コンテンツ分析の実践８	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分

第25回	コンテンツ分析の実践９	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第26回	コンテンツ分析の実践１０	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第27回	コンテンツ分析の実践１１	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第28回	コンテンツ分析の実践１２	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第29回	コンテンツ分析の実践１３	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分
第30回	コンテンツ分析のまとめ	
	コンテンツ分析と同時に、分析に必要な資料の読解を進める	90分

授業の方法

ゼミ形式で、報告と討論を中心にして進めていきます。
（なお、授業内容は、展開に応じて変更されることがあります。）

成績評価の方法

ゼミへの貢献度＝50%、レポート＝50%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語文献を読めることが条件となります。

テキスト

参加者と相談して決めます。

参考書

随時、授業中に指示していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	地域福祉・NPO演習		
教員名	高田　昭彦		
科目ナンバー	2071332701	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

今回は、「地域」と「NPO」を、前期と後期に分けて、テーマとして取り上げる。

「地域」においては、先ず「コミュニティ」関連の文献を読み、次に地域全体の問題に取り組み地域を少しでも住みよいところにしようと取り組んでいる「町内会・自治会」と、その伝統的保守性を批判し近代的な「市民社会」の実現をめざしている「コミュニティセンター」的な団体を取り上げ、両者の研究文献を読むと同時に、実際に訪問し、その違いを肌で感じることができるようにしたい。

「NPO」においては、先ずNPOが市民運動の系譜として現れてきたこと、従って現在のNPOは、NPO段階の市民運動として（それは「市民活動」と言われる）捉えられることから始める。続いて、NPOの基本的文献を読み、NPO・ボランティアの規定を明らかにし、NPOと行政・企業との関係、つまりパートナーシップの理論と実際を把握することにする。

いずれにおいても、先ず関連する論文や書籍を読むことから始める。続いて、武蔵野市において、町内会とNPOを実際に訪問して、両者の違いを現場から把握する。その時に訪問する市民団体は、「武蔵野地域研究」（７冊）から学生たちに選んでもらうことにする。

到達目標

受講する学生には、基本的な文献を読んだ後、地域には様々な問題があること、その解決に自主的に取り組んでいる様々な人々がいること、行政はその活動を促進するような環境を整備しているという現実を実際に知ってもらいます。そして、地域で問題解決に取り組んでいる方々とボランティアとして実際の行動を共にすることによって、彼らが織りなす武蔵野市という街にとって、町内会・自治会とNPOのどちらがこれからの地域に取ってより必要なのかを、実感として理解することを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業全体のやり方の説明。参加学生の問題関心に応じて、以下の「コミュニティ」「町内会」「市民活動」関係の書籍・論文の中から適切なものを選んでコピーする、	
	各自、自分の周りにどのような地域の問題があり、それに住民や行政がどのように取り組んでいるのかを考えてきてください。	60分
第2回	「コミュニティ」の基本を把握する。	
	マッキーヴァー「コミュニティとアソシエーション」を読む。	60分
第3回	1970年代の日本の「コミュニティ」づくりの状況を理解する。	
	古屋野正吾「現代日本のコミュニティ――その実態と問題点」を読む。	70分

第4回	1980年代の住民運動の視点から「コミュニティ」づくりを捉える。	
	奥田道大『都市コミュニティの理論』を読む。	60分
第5回	戦前から戦後の「町内会」発達を歴史的に捉える。	
	岩崎信彦・上田惟一・広原盛明・鰺坂学・高木正朗・吉原直樹『町内会の研究』を読む。	60分
第6回	1990年代の「町内会・自治会」の状況を理解する。	
	中田実編『町内会・自治会の新展開』を読む。	60分
第7回	「コミュニティ」と「町内会・自治会」の関係を考える。	
	倉田和四生「コミュニティ活動と自治会の役割」を読む。	60分
第8回	「町内会」あるいは「コミュニティ協議会」による「コミュニティ」づくりの実例を見ていく。	
	山崎・谷口・牧田「自治省モデル・コミュニティ地区の事例検討」（新潟県柏崎市、滋賀県大津市、東京都武蔵野市）を読む。	60分
第9回	武蔵野市における「コミュニティ」づくりと比較するために、政策目標として設定された「コミュニティ」を検討する。	
	倉沢 進「社会目標としてのコミュニティ」を読む。	60分
第10回	武蔵野市における「コミュニティ」づくりの歴史をたどり、現在の武蔵野市の「コミュニティ政策」を考察する。	
	高田昭彦『政策としてのコミュニティ～武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ』を読む。	60分

第11回	武蔵野市で活発に地域づくりをしているコミュニティセンターとして「けやきコミュニティセンター」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第12回	吉祥寺の活性化に都市観光から取り組んでいる「武蔵野観光機構」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第13回	地域の元気な高齢者の居場所である「テンミリオンハウス月見路」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第14回	市民が武蔵野市と協働で地域の子育てに取り組んでいる「コラボノ・コミセン親子ひろば」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第15回	これまで検討してきた「コミュニティ」の理論と、実際に訪問したNPOとを比較し、前期のまとめとする。	
	ボランティア参加の報告のレポートの作成。	90分。
第16回	後期の授業の全体の説明。NPOの文献と、武蔵野市で活動しているNPOの紹介。	
	各自、自分の住んでいる地域でどんなNPOあるいは市民活動があるかを調べてくる。	60分
第17回	NPO（民間非営利組織）の歴史的な役割を把握する。	
	P・F・ドラッカー『非営利組織の経営――原理と実践』を読む。	70分

第18回	NPOの国際比較から、NPOが市民社会の構築にどのように貢献できるかを探る。	
	レスター・M・サラモン『NPO最前線――岐路に立つアメリカ市民社会』を読む。	70分
第19回	1970年代に現れた「新しい市民運動」の立場から、NPOが社会変革に向かう可能性について検討する。	
	本間正明・上野千鶴子『NPOの可能性――新しい市民運動』を読む。	70分
第20回	マッキーバーの「コミュニティ」と「アソシエーション」の理論を踏まえて、アソシエーションとしてのNPOがどのように市民社会を築いていけるのかを探る。	
	佐藤慶幸『NPOと市民社会――アソシエーション論の可能性』を読む。	70分
第21回	社会運動論の見地から、1990年代のNPO段階の「新しい市民運動」としての「市民活動」論を検討する。	
	後藤・福原編『市民活動論――持続可能で創造的な社会に向けて』を読む。	70分
第22回	日本におけるNPOの今までの歴史を検討し、NPOの将来を展望する。	
	今田 忠編『日本のNPO史――NPOの歴史を読む、現在・過去・未来』を読む。	70分
第23回	1996年に設立された「日本NPOセンター」の活動および設立の経緯から、日本独自のNPOの特質を検討する。	
	日本NPOセンター『市民社会創造の10年――支援組織の視点から』を読む。	70分
第24回	NPOについていろいろ見てきたことを踏まえて、ここでNPOとは何かを振り返って考えてみる。	
	山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』を読む。	70分

第25回	国のNPO施策の基本となるNPOの実態調査から、現在のNPOの状況を把握する。	
	内閣府『平成27年度 特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査 報告書』を読む。	70分
第26回	武蔵野市の武蔵境で里山保全の活動をしている「武蔵野の森を育てる会」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第27回	働くお母さんのための子育てを応援する「子育て応援スペース“とことこ”」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第28回	地域の居場所として、誰でも参加しておしゃべりと食事（無料）のできる「日比野さん家」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第29回	40年以上にわたって吉祥寺の情報を発信してきた『週刊きちじょうじ』と、誰でも講師になれる地域の自主的学習塾としての「吉祥寺村立雑学大学」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第30回	これまで検討してきたNPOの理論と事例をもとに、実際に訪問したNPOの知見も考慮して、もう一度日本におけるNPOの存在理由を考える。	
	本演習のレポートを提出する。	90分

授業の方法

指定した書籍・論文を読んでくること。演習では、読んだものの全体の感想と疑問点を尋ねる。それを他の参加者・教員と一緒に考え、全員が納得するまで議論する。
受講学生がボランティアを希望する市民団体に学生を紹介する。

成績評価の方法

ボランティア参加の報告のレポート（50%）、授業への参加度・積極性を（50%）で評価したい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は、NPOに関しては、文学部後期火曜３限に開講している「ボランティア・NPOの社会学」、
地域に関しては、成蹊教養科目「武蔵野地域研究」後期火曜４限を取っておくと、授業の理解がより深まる。

テキスト

『“吉祥寺人”が語る吉祥寺の魅力』（2010年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『コミセンによるコミュニティづくり』（2011年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（１）』（2012年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（２）』（2013年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（３）』（2014年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（４）』（2015年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（５）』（2016年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）

参考書

高田昭彦『政策としてのコミュニティ――武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ』風間書房、2016年3月。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に直接、あるいは電話やメールでアポイントメントを取ってから、質問や相談をしてください。歓迎します。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	西　兼志		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	西　兼志		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	見城　武秀		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
担当教員が指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	見城　武秀		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
担当教員が指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	西　兼志		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	西　兼志		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	見城　武秀		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	見城　武秀		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	渡邉　大輔		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	今田　絵里香		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法
開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法
授業時に説明する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
担当教員が指示する。

テキスト
授業時に指示する。

参考書
授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究 I		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

ＤＰ５・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	欧米文化特殊研究Ｂ		
教員名	中野　由美子		
科目ナンバー	2071370102	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

アメリカ社会史に関する一次史料と二次史料を組み合わせた文献を精読し、史料の読解についての基礎的なトレーニングを行うとともに、先行研究の動向を把握する。さらに、各自の研究テーマや学術的な関心に沿った形で、指定テキスト以外の一次史料や二次史料も用いて、史料・文献の批判的読解や史料に基づいた実証的分析のトレーニングを行う。また、先行研究のレヴューの方法、研究課題の設定などのアカデミックスキルの基本についても確認する。

到達目標

DP７、DP８を実現するため、以下の４点を到達目標とする。
①史料批判とはなにかを理解し、実践することができる。
②事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションを行うことができる。
③特定のテーマに関する一次史料と二次史料に基づき、研究動向をまとめて文章化することができる。
④アメリカ社会史に関する基礎的な歴史知識を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・演習の内容、進め方等を説明する。 ・使用するテキストを決め、各自で準備する。	
	【予習・復習】　シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。	60
第2回	アメリカ研究の現在　（その１） ・エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第3回	アメリカ研究の現在　（その２） ・エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

第4回	アメリカ研究の現在　（その３） ・エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	プレゼンテーション １ ・アメリカ合衆国に関して、各自で最も関心のある研究領域を選び、先行研究の動向と課題について発表する。	
	【予習・復習】　プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第6回	プレゼンテーションのレヴュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】　プレゼンテーションのレヴューを各自でしておく。	60
第7回	一次史料と二次史料の比較検討　（その１） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	一次史料と二次史料の比較検討　（その２） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	一次史料と二次史料の比較検討　（その３） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第10回	一次史料と二次史料の比較検討　（その４） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

第11回	プレゼンテーション 2 ・すでにテキストで取り上げられている一次史料を一つ選び、それについて二次文献を新たに追加しつつ、解説する。	
	【予習・復習】　プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第12回	プレゼンテーションのレヴュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】　プレゼンテーションのレヴューを各自でしておく。	60
第13回	一次史料と二次史料の比較検討　（その５） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第14回	一次史料と二次史料の比較検討　（その６） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第15回	一次史料と二次史料の比較検討　（その７） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第16回	一次史料と二次史料の比較検討　（その８） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第17回	プレゼンテーション 3 ・すでにテキストで取り上げられている二次史料（抜粋）を一つ選び、その著者による他の研究論文を口頭で紹介する。	
	【予習・復習】　プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60

第18回	プレゼンテーションのレヴュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】　プレゼンテーションのレヴューを各自でしておく。	60
第19回	映像史料分析　その１ ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第20回	映像史料分析　その２ ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第21回	映像史料分析　その３ ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第22回	映像史料分析　その４ ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第23回	図像史料分析　その１ ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　指定された課題の準備とレヴューを各自でしておく。	60
第24回	図像史料分析　その２ ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　指定された課題の準備とレヴューを各自でしておく。	60

第25回	オーラルヒストリー分析　その１ ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　指定された課題の準備とレヴューを各自でしておく。	60
第26回	オーラルヒストリー分析　その２ ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　指定された課題の準備とレヴューを各自でしておく。	60
第27回	オーラルヒストリー分析　その３ ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】　指定された課題の準備とレヴューを各自でしておく。	60
第28回	プレゼンテーション 4 ・各自のテーマに即して、可能な限り映像史料や図像史料を用いてプレゼンテーションを行う。	
	【予習・復習】　プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第29回	プレゼンテーションのレヴュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】　プレゼンテーションのレヴューを各自でしておく。	60
第30回	全体のまとめ ・理解度を確認する。	
	【予習】　プレゼンテーション全般のレヴューを各自でしておく。	60

授業の方法

演習形式で行う。各自で事前に史料・文献を読み、授業当日にはディスカッションと解説、質疑応答を行う。また、口頭発表の際には、事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションと質疑応答を行う。

成績評価の方法

毎回の演習時におけるディスカッションへの貢献、課題など＝平常点（50%）、レジュメ・書評、レポート等の課題（25%）、プレゼンテーション（25%）による総合評価とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本を含む世界各地域の文化、歴史に関する科目のほか、文化人類学・社会学等の隣接諸学に関する科目。

テキスト

開講時に受講者と相談のうえ、決定する。ただし、以下の文献については、一次史料と二次史料の比較検討を行う際に、受講者のテーマ・関心に近い巻（あるいは複数の巻のなかのいくつかの章）を選んで使用する。
・Thomas G. Paterson, ed. Major Problems in American History Series. Houghton Mifflin.

参考書

・ニール・キャンベル、アラスディア・キーン『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ　第2版』萌書房、2012年。
・アメリカ学会訳編『原典　アメリカ史』第1巻～第9巻、岩波書店、1950～2006年。
・五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門　第3版』東京大学出版会、2003年。
・有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化特殊研究Ａ		
教員名	川村　陶子		
科目ナンバー	2071370111	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

この授業では、「国際関係に文化の視点から取り組む」作業を、文献講読を中心に行う。
「文化でみる国際関係」「文化でつくる国際関係」「文化がつくる国際関係」の３つのテーマのいずれか、あるいは複数をとりあげ、受講者の関心もふまえて関連する文献を選定し、講読する。

到達目標

国際関係と文化にまつわる諸問題・諸議論について理解を深め、各人の研究に役立てることを目標とする。
全体を通して、「聞く」「課題を発見する」「情報を収集する」「情報を整理する」「読む」「書く」「分析する」「プレゼンする」といった、研究を遂行するための力を養うことをめざす。DP1（教養の修得）、２（課題の発見）、３（他者との協働）、４（自発性、積極性）、５（表現力、発信力）を総合的に実現したい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	〈具体的な授業の進め方は、受講者と相談の上決定する。〉 イントロダクション （授業の概要と問題意識を解説し、受講者の問題関心を聴取する。）	
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30
第2回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第3回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第4回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第5回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第6回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第7回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第8回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第9回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第10回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第11回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第12回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第13回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第14回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者に、授業での文献購読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第15回	授業前半のふり返りと今後の研究計画相談 （前半の授業を総括するとともに、後半の授業の方向性や、各人の研究の展望などについて意見を交換する。）	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60
第16回	後半のイントロダクション （後半の授業計画について協議する。）	
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30
第17回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120

第18回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第19回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第20回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第21回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第22回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第23回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第24回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第25回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第26回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第27回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第28回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第29回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者に、授業での文献購読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。）	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第30回	まとめ （授業全体を総括し、各人の研究の展望などについて意見を交換する。）	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60

授業の方法

主として外国語（英語またはドイツ語）の文献講読をベースにした対話型の授業を行う。受講者は課題となる文献を予習し、授業で文章の日本語訳あるいは主要な論点、内容に対する批判的考察を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法

授業への出席50%、毎回の課題の実施状況50%をめやすに、総合的に評価する。討論への積極的参加や、授業の成果を応用した研究の進展などがみられた場合は、加点を与える。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「国際関係論」「国際文化論」「平和学」「文化人類学」、およびまた、それらに関連した内容の授業を、少しでも履修していることが望ましい。

テキスト

開講時および開講後に受講者の問題関心や希望を聴取し、その上で決定する。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化特殊研究Ｂ		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	2071370112	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

「国内強制移動（internal displacement）」をめぐる諸問題を扱う。国内避難民の問題は1990年代に国際社会の関心事項として認識されるようになり、国連の対応においても一定の進展がみられた。この授業ではこれまでの取り組みの軌跡、現状、今後の課題を検証する。とくに、気候変動や自然災害による人の移動について考えてみたい。

到達目標

DP8（専門分野における研究能力）を実現するため、下記を到達目標とする。
・授業のテーマの中からさらに具体的な課題を発見できる。
・ゼミ発表や議論を通じて専門的な知見を習得する。
・授業で扱う課題について多面的な視点で意見を述べることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	（以下のような流れで進めることを考えている。詳しくは、履修者と相談の上決定する。） ガイダンス	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第2回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第3回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第4回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第10回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第11回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第15回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第16回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第17回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第18回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第19回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第20回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第21回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第22回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第23回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第24回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第25回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第26回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第27回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第28回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第29回	文献講読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第30回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法
英語文献の講読をベースにした対話型の授業を行う。履修者は課題として与えられた英文を予習し、授業で日本語訳を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法
平常点（20%）、授業での発表内容（60%）、学修姿勢（20%）を踏まえた総合評価。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
「国際政治学」「国際関係論」「国際機構論」などの授業をすでに履修していることが望ましい。

テキスト
下記の文献を読む。ただし、履修者の関心に合わせて他の文献を読むことも可能。

-Elizabeth Ferris, The Politics of Protection: The limits of Humanitarian Action, Washington, D.C.: Brookings Institution, 2011
-墓田桂『国内避難民の国際的保護-越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015年）

参考書
授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学特殊研究Ａ		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071370201	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

本演習は、文化人類学の一分野である音文化研究に関して学修する。具体的なテーマとして、アラブ芸術の中で最も理論化の進んだアラブ古典音楽を取り上げ、その歴史的発展過程と構造的特徴を研究する。音楽理論の知識は必ずしも要求しないが、フランス語の資料を輪読するので、受講者はフランス語の素養を身につけていることが望ましい。　もちろんアラビア語の知識があればそれに越したことはない。

到達目標

DP８を実現するため、以下を目標とする。
1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入 ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 ・使用する予定の資料群の概要を説明する。	
	[予習]シラバスをよく読んで、1年間の学修予定を理解しておく。	90
第2回	文化人類学と音文化研究 ・音文化研究が文化人類学の中に占める位置を学修する。	
	[予習]文化人類学の学説史を振り返っておく。 [復習]音文化研究の位置づけを確認する。	90
第3回	アラブ音楽の前夜 ・ジャーヒリーヤ時代のアラビア半島の音文化を学修する。	
	[予習]7世紀までのオリエント史を振り返っておく。	90

第4回	イスラームの音文化 ・イスラームの誕生とともに成立した音文化を学修する。	
	[予習]イスラームの基本である六信五行を確認しておく。	90
第5回	三つの音楽群 ・ウマイヤ朝時代からアッバース朝時代に成立した都市・地方・砂漠の歌の特徴を学修する。	
	[予習]初期イスラーム史を振り返っておく。	90
第6回	「歌の書」とアラブ音楽の隆盛 ・イスバハーニーの「歌の書」の情報内容を学修する。 ・バグダードの宮廷音楽の特徴を学修する。	
	[復習]アッバース朝文化の特徴を理解しておく。	90
第7回	むくどり革命 ・「むくどり」というあだ名で有名な大音楽家ズィルヤーブの生涯と、彼が残した革命的文化遺産を学修する。	
	[予習]北アフリカのイスラーム史を調べておく。	90
第8回	アンダルシアの春 ・9世紀から15世紀に花開いたアンダルシア地方のアラブ文化を、音楽を中心に学修する。	
	[予習]アンダルシア史と中世スペイン史を振り返っておく。	90
第9回	レコンキスタの残像 ・レコンキスタによってイベリア半島を追われたムスリムとユダヤ教徒の、その後の足跡を北アフリカ・地中海世界に追う。	
	[予習]中世ユダヤ史を調べておく。	90
第10回	ユダヤ音楽の足跡 ・中世スペイン文化の成立に不可欠な役割を果たしたユダヤ音楽（＝セファルディーム音楽）の特徴と、レコンキスタ以降のユダヤ音楽の命運を追う。	
	[予習]16世紀を中心とした地中海世界の歴史を調べておく。	90

第11回	アンダルシアの残照 ・アラブ音楽とユダヤ・セファルディーム音楽に託されたアンダルシア文化の栄華を学修する。	
	[予習]アンダルシア文化に含まれた思想や哲学の業績を調べておく。	90
第12回	アラブ＝アンダルシア音楽の継承 ・アラブ＝アンダルシア音楽がレコンキスタ以降、北アフリカ各地で継承されていったプロセスを学修する。	
	[予習]16世紀以降の北アフリカ史を調べておく。	90
第13回	三つのアンダルシア音楽 ・モロッコ、アルジェリア、チュニジアでそれぞれに展開したアンダルシア音楽の特徴を学修する。	
	[復習]3国の音楽の違いを理解する。	90
第14回	ヌーバの伝統の成立 ・モロッコで展開されたアンダルシア音楽の16世紀から19世紀までの歩みを学修する。	
	[復習]モロッコ中世史と音楽の関わりを理解する。	90
第15回	イスラーム教団と音楽 ・イスラーム教団で使用される音・声とアンダルシア音楽の結びつきを学修する。	
	[復習]イスラム教団で使用する声の技芸の特徴を整理する。	90
第16回	近代アラブ＝アンダルシア音楽の成立 ・20世紀のアラブ＝アンダルシア音楽の成立過程を、フランス植民地主義との関係で理解する。	
	[予習]北アフリカにおけるフランス植民地統治のプロセスの概要を調べておく。	90
第17回	旋法音楽 ・アラブ＝アンダルシア音楽の支柱となっている「旋法」のシステムについて学修する。	
	[復習]旋法という概念を理解する。	120

第18回	リズム ・アラブ＝アンダルシア音楽のもうひとつの支柱であるリズムのシステムについて学修する。	
	[復習]リズムの種類と特徴を整理する。	120
第19回	音楽のリズムと言葉のリズム ・アラビア語詩の韻律規則である「アルード」および「バハル」のシステムについて学修する。	
	[復習]アラビア語詩の韻律規則のシステムを整理する。	120
第20回	トルコ音楽の世界 ・16世紀以降アラブ世界に大きな影響を与えたトルコ音楽の特徴を理解する。	
	[予習]15世紀以来のオスマントルコ史の概要を調べておく。	90
第21回	マシュリク音楽の展開 ・オスマントルコの治下で展開したマシュリク（東アラブ）の音楽事情を、シリアとエジプトを軸に学修する。	
	[予習]中東の中世史・近代史の概要を調べておく。	90
第22回	ムワッシャハの世界 ・マシュリクで発展した「ムワッシャハ」という音楽ジャンルの特徴を学修する。	
	[復習]東アラブ世界における音楽ジャンルの特徴を整理する。	90
第23回	近代アラブ音楽の成立 ・1932年にカイロで開催されたアラブ音楽会議の内容を学修する。 ・この会議が近代アラブ音楽を誕生させた経緯を理解する。	
	[予習]20世紀のエジプト史と、同時代のヨーロッパの音楽事情を調べておく。	120
第24回	アラブ音楽会議とは何だったのか ・1932年会議のプロシーディングスを解読する。	
	[復習]1932年会議のプロシーディングスの概要を整理する。	120

第25回	現代アラブ音楽の成立 ・20世紀を代表する大歌手ウンム・クルスームの生涯を通じて、現代アラブ音楽の誕生プロセスを学修する。	
	[復習]ウンム・クルスームのライフヒストリーを見直す。	90
第26回	音楽とイスラーム ・イスラームの展開の中で「音楽」がどのように扱われてきたのかを学修する。	
	[予習]イスラム思想の中で生じた音楽論争の骨子を調べておく。	90
第27回	比較音楽学から音文化研究まで（1） ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[復習]比較音楽学と民族音楽学の目的と方法の違いを整理する。	90
第28回	比較音楽学から音文化研究まで（2） ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[予習]音楽人類学とはなにか、その概要を調べておく。	90
第29回	音文化研究とアラブ音楽 ・アラブ音楽の研究が音文化研究にいかなる貢献を果たせるのかを理解する。	
	[予習]音文化研究の目的と方法を調べておく。	90
第30回	総括 ・1年間の演習の成果を振り返り、残された課題を確認する。	
	[復習]一年間の授業で理解できたことと課題として残ったことを整理し、文章化の準備をする。	120

授業の方法

受講者は各回のテーマに応じてあらかじめ指定された資料をよく読んで、レジュメを作成し、発表する。授業では受講者全員によるディスカッションを通じてテーマの理解を深める。

成績評価の方法

発表（40%）、授業中の発言・コメント・討議（30%）、2回程度の課題レポート（30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
上記「達成目標」に掲げた以下の諸点の達成度により評価する。
1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：イスラーム史、文化（社会）人類学の基礎。

テキスト

各回ごとにあらかじめ指示する（フランス語によるテキストが主流になる）。

参考書

授業中、適宜指示する。
辞典類（文化人類学事典、音楽事典など）は各自調達することが望ましい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学特殊研究Ｂ		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071370202	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

文化人類学はフィールドワークを基本的方法論とし、文化とは何か、人間とは何かを実践的に考える学問です。
グローバル化が進展することで、関係性のあり方が大きく変貌し、新たなネットワークが生まれ、文化の意味も変容してきています。また、国際社会で価値や規範のスタンダード化が進む一方で、格差の拡大や排除が起こっています。本演習では、グローバル化の進展とローカリティの関係を、文化人類学の観点から考察します。

到達目標

DP8を身につけるため、以下を到達目標とする。
文化人類学とはどのような学問かということを知る。
グローバル化が進展するなかで、多様な人々、文化と柔軟な関係を築く基盤を培う。
多様な文化、価値観の存在に気づく。
文献を批判的に読む力を鍛える。
プレゼンテーション能力を高める。
データを収集し、分析的に読み取る力を鍛える。
論理的な思考力を鍛える。
自ら課題を見出す力をつける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	導入部 授業の進め方、レジュメの書き方についての説明 発表担当の割当	
	どのようなことに興味があり、どのようなテーマに取り組んでいくか明確にしておく。	0
第2回	映像	
	発表に向けての準備を進めておく。	90
第3回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第4回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第5回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第6回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第7回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第8回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第9回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第10回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第11回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第12回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第13回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第14回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第15回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第16回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第17回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第18回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第19回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第20回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第21回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第22回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第23回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第24回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第25回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第26回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第27回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第28回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第29回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第30回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

授業の方法

演習方式です。発表担当者がレジュメを作成して発表をし、それをもとに質疑応答、ディスカッションをします。
テクストは毎回受講生全員が適宜内容を調べながら丁寧に読んできて下さい。
また、必要に応じてテキストでとりあげられている参考文献にも目を通して下さい。

成績評価の方法

平常点１００%。（プレゼンテーション、ディスカッション、論理性、課題発見能力など）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学の基本的な考え方や方法論が理解できているか。
文献を批判的に読む力、データを収集し、分析的する力があるか。
論理的な思考力があるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の基本的知識を身につけておいて下さい。英語、スペイン語等の文献を読む語学力があると、読める文献の幅がひろがります。

テキスト

最初の授業で受講生の関心について話し合い決めます。

参考書

授業中適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	歴史特殊研究Ｂ		
教員名	有富　純也		
科目ナンバー	2071370302	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

日本・東アジア社会の歴史
日本・東アジア社会を歴史的に考察する。受講生の興味・関心にしたがって、さまざまな文献・資料を読み込んでいく。

到達目標

DP２（課題の発見と解決）、５（表現力、発信力）、６（専門分野の知識・理解）を実現するため、次のを到達目標とします。
・受講生個々人のテーマにそった論題を決め、その論題について考察していく。
・修士論文執筆のために建設的な準備をしていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	【予習】これまでの受講生の研究内容を再整理しておく。	60
第2回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第3回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第4回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第5回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第6回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第7回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第8回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第9回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第10回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第11回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第12回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第13回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第14回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第15回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読とレポートの準備	60
第16回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第17回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第18回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第19回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第20回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第21回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第22回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第23回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第24回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60

第25回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第26回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第27回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第28回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第29回	受講生報告	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読	60
第30回	総まとめ	
	【予習】担当箇所の予習 【復習】担当箇所の史料の再読とレポートの準備	60

授業の方法
受講生の報告。

成績評価の方法
授業中の報告と夏休み・期末レポート。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特にありません。

テキスト
受講生と相談のうえ決定します。

参考書
授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史特殊研究Ｃ		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071370303	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

イギリスを中心にジェンダー史を学ぶ。

到達目標

ディプロマポリシーウ（優れた学識を備え、専門分野における創造性豊かな研究 能力や高度な専門職業人等として活動するのに必要な広い知的素養と能力の修得）以下の２点を到達目標とする。
①近代イギリスジェンダー史の概略を知る。
②ジェンダーの視点で歴史を分析する力をつける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション 授業計画の説明、報告者の割当	
	ジェンダー史に関する文献を2-3読んでみる。	60
第2回	テキストの第１章を読み、ジェンダー史の課題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第3回	第１章について、関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第4回	テキストの第２章を読み、ジェンダー史における身体、セクシュアリティの問題について考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第5回	第2章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第6回	テキストの第３章を読み、ジェンダー史における人種や階級の問題について考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第7回	第3章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第8回	テキストの第４章を読み、ジェンダー史における男性性の問題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第9回	第４章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第10回	テキストの第5章を読み、ジェンダー史における政治文化の問題について考える	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第11回	第5章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	３つの論文で学んだことを参考に、各自が自分のテーマをジェンダー視点から見直してみる。関連する文献も参照すること。	60. 報告者は120.
第12回	テキストの第６章を読み、ジェンダー史の最も最先端のテーマについて考える。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第13回	第6章に関連する文献を読み、理解をさらに深める	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第14回	テキストで学んだことを自分自身の研究分野の中で考えてみる。	
	テキストを読み返し、自分自身の研究をジェンダー史の視点から考えてみる。	120
第15回	前期のまとめ。	
	前期の復習。	120
第16回	テキスト（今井他）の第１章を読み、フェミニズム論の発展について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第17回	テキスト（今井他）の第１章を読み、フェミニズム論の発展について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第18回	テキストの第２章を読み、イギリスジェンダー史における家庭と教育について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第19回	テキストの第２章を読み、イギリスジェンダー史における家庭と教育について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第20回	テキストの第３章を読み、イギリスにおける女性と政治の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	120
第21回	テキストの第３章を読み、イギリスにおける女性と政治の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第22回	テキストの第４章を読み、イギリスにおける女性と労働の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第23回	テキストの第４章を読み、イギリスにおける女性と労働の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第24回	テキストの第５章を読み、イギリスにおける慈善と福祉の歴史、それに女性がどう関わったか、について学ぶ。	
	これまで学んだ章を読み直し、関連文献を調査しつつ、自分のコメントを考えてくる。	120

第25回	テキストの第５章を読み、イギリスにおける慈善と福祉の歴史、それに女性がどう関わったか、について学ぶ。	
	これまで読んだ文献で学んだことを参考にして、各自が自分のテーマをジェンダー視点から見直してみる。関連する文献も参照すること。	120
第26回	テキストの第６章を読み、大英帝国と女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第27回	テキストの第６章を読み、大英帝国と女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第28回	テキストの第７章、第８章を読み、第二次世界大戦中およびその後の女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第29回	テキストの第７章、第８章を読み、第二次世界大戦中およびその後の女性の歴史について学ぶ。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	120
第30回	１年間のまとめ。 ジェンダーの視点の歴史学への導入が果たした役割について考える。	
	１年間の復習と、ジェンダー視点の歴史学への導入の意義についての自分の見解をまとめてくる。	120

授業の方法

テキストの輪読。
ソニア・O・ローズ『ジェンダー史とは何か』（法政大学出版局）
今井けい、河村貞枝『イギリス近現代女性史入門』（青木書店）

成績評価の方法

報告、レジュメの内容。65%
議論の中での発言内容。35%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

女性学、男性学、ジェンダー学についての入門的知識があることが望ましい。

テキスト

Ina Zweiniger-Bargielowska, Women in Twentieth-Century Britain, Longman.
June Purvis ed., Women's History: Britain, 1850-1945, Routlidge.
Hannah Barker ed., Women's History: Britain, 1700-1850, Routlidge.

上記３冊の該当する章。

参考書

上記３冊の授業では読まない章。

竹内敬子「 ジェンダー史の現在―「実り」の時を越えて」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望 -社会経済史学会創立80周年記念』有斐閣。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史特殊研究Ｄ		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071370304	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

【テーマ】フランス革命の諸問題
【概要】フランス革命にかかわるトピックを論じたフランス語テキストを読むことを通じて、フランス革命の意味を考える。

到達目標

ＤＰ８
優れた学識を備え、専門分野における研究能力と専門職業人として必要な知的素養の修得をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	導入	
	シラバスを読んでくる。	20
第2回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第3回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第4回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第5回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第6回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第7回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第8回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第9回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第10回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第11回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第12回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第13回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第14回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第15回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第16回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第17回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第18回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第19回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第20回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第21回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第22回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第23回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第24回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第25回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第26回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第27回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第28回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第29回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第30回	まとめ	
	テキストの復習	120

授業の方法

フランス語のテキストを読み、質疑応答しながら、授業をすすめる。

成績評価の方法

授業への積極的な参加（50%）と課題レポート（50%）によって成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

テキストは授業開始後、プリントして配布する。

参考書

授業開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学特殊研究Ａ		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071370501	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ：社会心理学

概要：社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます.

前期のトピック：マクロ統計の検討，先行研究の検討，リサーチ・クエスチョン設定など
後期のトピック：データ収集，分析，執筆，プレゼンテーションなど

到達目標

DP3（他者との協働），6（文化現象の総合的理解），7（問題発見能力および多面的な分析能力），8を実現するために，
(1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける.
(2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて，メカニズムを説明できる.
(3) データ分析を通じて，社会全体の動きを把握できる.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第2回	トピック　１	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第3回	トピック　２	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０

第4回	トピック　３	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第5回	トピック　４	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第6回	トピック　５	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第7回	トピック　６	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第8回	トピック　７	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第9回	トピック　８	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第10回	トピック　９	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０

第11回	トピック　１０	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第12回	トピック　１１	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第13回	トピック　１２	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第14回	トピック　１３	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第16回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第17回	トピック　１４	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０

第18回	トピック　１５	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第19回	トピック　１６	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第20回	トピック　１７	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第21回	トピック　１８	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第22回	トピック　１９	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第23回	トピック　２０	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第24回	トピック　２１	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０

第25回	トピック　２２	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第26回	トピック　２３	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第27回	トピック　２４	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第28回	トピック　２５	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第29回	トピック　２６	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０
第30回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	６０

授業の方法
演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法
平常点（授業への参加状況）＝40%　授業中の発言など＝30%　提出課題＝30%

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくになし

テキスト
小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会

参考書
とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学特殊研究Ｂ		
教員名	高田　昭彦		
科目ナンバー	2071370502	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

今回は、「地域」と「NPO」を、前期と後期に分けて、テーマとして取り上げる。
「地域」においては、先ず「コミュニティ」関連の文献を読み、次に地域全体の問題に取り組み地域を少しでも住みよいところにしようと取り組んでいる「町内会・自治会」と、その伝統的保守性を批判し近代的な「市民社会」の実現をめざしている「コミュニティセンター」的な団体を取り上げ、両者の研究文献を読むと同時に、実際に訪問し、その違いを肌で感じることができるようにしたい。
「NPO」においては、先ずNPOが市民運動の系譜として現れてきたこと、従って現在のNPOは、NPO段階の市民運動として（それは「市民活動」と言われる）捉えられることから始める。続いて、NPOの基本的文献を読み、NPO・ボランティアの規定を明らかにし、NPOと行政・企業との関係、つまりパートナーシップの理論と実際を把握することにする。
いずれにおいても、先ず関連する論文や書籍を読むことから始める。続いて、武蔵野市において、町内会とNPOを実際に訪問して、両者の違いを現場から把握する。その時に訪問する市民団体は、「武蔵野地域研究」（７冊）から学生たちに選んでもらうことにする。

到達目標

受講する学生には、基本的な文献を読んだ後、地域には様々な問題があること、その解決に自主的に取り組んでいる様々な人々がいること、行政はその活動を促進するような環境を整備しているという現実を実際に知ってもらいます。そして、地域で問題解決に取り組んでいる方々とボランティアとして実際の行動を共にすることによって、彼らが織りなす武蔵野市という街にとって、町内会・自治会とNPOのどちらがこれからの地域に取ってより必要なのかを、実感として理解することを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業全体のやり方の説明。参加学生の問題関心に応じて、以下の「コミュニティ」「町内会」「市民活動」関係の書籍・論文の中から適切なものを選んでコピーする、	
	各自、自分の周りにどのような地域の問題があり、それに住民や行政がどのように取り組んでいるのかを考えてきてください。	60分
第2回	「コミュニティ」の基本を把握する。	
	マッキーヴァー「コミュニティとアソシエーション」を読む。	60分
第3回	1970年代の日本の「コミュニティ」づくりの状況を理解する。	
	古屋野正吾「現代日本のコミュニティ――その実態と問題点」を読む。	70分

第4回	1980年代の住民運動の視点から「コミュニティ」づくりを捉える。	
	奥田道大『都市コミュニティの理論』を読む。	60分
第5回	戦前から戦後の「町内会」発達を歴史的に捉える。	
	岩崎信彦・上田惟一・広原盛明・鰺坂学・高木正朗・吉原直樹『町内会の研究』を読む。	60分
第6回	1990年代の「町内会・自治会」の状況を理解する。	
	中田実編『町内会・自治会の新展開』を読む。	60分
第7回	「コミュニティ」と「町内会・自治会」の関係を考える。	
	倉田和四生「コミュニティ活動と自治会の役割」を読む。	60分
第8回	「町内会」あるいは「コミュニティ協議会」による「コミュニティ」づくりの実例を見ていく。	
	山崎・谷口・牧田「自治省モデル・コミュニティ地区の事例検討」（新潟県柏崎市、滋賀県大津市、東京都武蔵野市）を読む。	60分
第9回	武蔵野市における「コミュニティ」づくりと比較するために、政策目標として設定された「コミュニティ」を検討する。	
	倉沢 進「社会目標としてのコミュニティ」を読む。	60分
第10回	武蔵野市における「コミュニティ」づくりの歴史をたどり、現在の武蔵野市の「コミュニティ政策」を考察する。	
	高田昭彦『政策としてのコミュニティ～武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ』を読む。	60分

第11回	武蔵野市で活発に地域づくりをしているコミュニティセンターとして「けやきコミュニティセンター」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第12回	吉祥寺の活性化に都市観光から取り組んでいる「武蔵野観光機構」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第13回	地域の元気な高齢者の居場所である「テンミリオンハウス月見路」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第14回	市民が武蔵野市と協働で地域の子育てに取り組んでいる「コラボノ・コミセン親子ひろば」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	60分
第15回	これまで検討してきた「コミュニティ」の理論と、実際に訪問したNPOとを比較し、前期のまとめとする。	
	ボランティア参加の報告のレポートの作成。	90分。
第16回	後期の授業の全体の説明。NPOの文献と、武蔵野市で活動しているNPOの紹介。	
	各自、自分の住んでいる地域でどんなNPOあるいは市民活動があるかを調べてくる。	60分
第17回	NPO（民間非営利組織）の歴史的な役割を把握する。	
	P・F・ドラッカー『非営利組織の経営――原理と実践』を読む。	70分

第18回	NPOの国際比較から、NPOが市民社会の構築にどのように貢献できるかを探る。	
	レスター・M・サラモン『NPO最前線――岐路に立つアメリカ市民社会』を読む。	70分
第19回	1970年代に現れた「新しい市民運動」の立場から、NPOが社会変革に向かう可能性について検討する。	
	本間正明・上野千鶴子『NPOの可能性――新しい市民運動』を読む。	70分
第20回	マッキーバーの「コミュニティ」と「アソシエーション」の理論を踏まえて、アソシエーションとしてのNPOがどのように市民社会を築いていけるのかを探る。	
	佐藤慶幸『NPOと市民社会――アソシエーション論の可能性』を読む。	70分
第21回	社会運動論の見地から、1990年代のNPO段階の「新しい市民運動」としての「市民活動」論を検討する。	
	後藤・福原編『市民活動論――持続可能で創造的な社会に向けて』を読む。	70分
第22回	日本におけるNPOの今までの歴史を検討し、NPOの将来を展望する。	
	今田 忠編『日本のNPO史――NPOの歴史を読む、現在・過去・未来』を読む。	70分
第23回	1996年に設立された「日本NPOセンター」の活動および設立の経緯から、日本独自のNPOの特質を検討する。	
	日本NPOセンター『市民社会創造の10年――支援組織の視点から』を読む。	70分
第24回	NPOについていろいろ見てきたことを踏まえて、ここでNPOとは何かを振り返って考えてみる。	
	山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』を読む。	70分

第25回	国のNPO施策の基本となるNPOの実態調査から、現在のNPOの状況を把握する。	
	内閣府『平成27年度 特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査 報告書』を読む。	70分
第26回	武蔵野市の武蔵境で里山保全の活動をしている「武蔵野の森を育てる会」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第27回	働くお母さんのための子育てを応援する「子育て応援スペース“とことこ”」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第28回	地域の居場所として、誰でも参加しておしゃべりと食事（無料）のできる「日比野さん家」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第29回	40年以上にわたって吉祥寺の情報を発信してきた『週刊きちじょうじ』と、誰でも講師になれる地域の自主的学習塾としての「吉祥寺村立雑学大学」	
	「武蔵野地域研究」の冊子に収録した講演を読んだ上で、質問を考え実際に訪問する。	70分
第30回	これまで検討してきたNPOの理論と事例をもとに、実際に訪問したNPOの知見も考慮して、もう一度日本におけるNPOの存在理由を考える。	
	本演習のレポートを提出する。	90分

授業の方法

指定した書籍・論文を読んでくること。演習では、読んだものの全体の感想と疑問点を尋ねる。それを他の参加者・教員と一緒に考え、全員が納得するまで議論する。
受講学生がボランティアを希望する市民団体に学生を紹介する。

成績評価の方法

ボランティア参加の報告のレポート（50%）、授業への参加度・積極性を（50%）で評価したい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は、NPOに関しては、文学部後期火曜３限に開講している「ボランティア・NPOの社会学」、
地域に関しては、成蹊教養科目「武蔵野地域研究」後期火曜４限を取っておくと、授業の理解がより深まる。

テキスト

『“吉祥寺人”が語る吉祥寺の魅力』（2010年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『コミセンによるコミュニティづくり』（2011年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（１）』（2012年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（２）』（2013年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（３）』（2014年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（４）』（2015年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（５）』（2016年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
以上は、大学ボランティアセンターに常備されています。配布も可能。

参考書

高田昭彦『政策としてのコミュニティ――武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ』風間書房、2016年3月。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に直接、あるいは電話やメールでアポイントメントを取ってから、質問や相談をしてください。歓迎します。

科目名	社会学特殊研究Ｃ		
教員名	中江　桂子		
科目ナンバー	2071370503	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

文化社会学演習
文化の生成と消滅についての理論的基礎を学び、実際の文化現象を読み解くトレーニングをおこなう。

到達目標

学生それぞれの研究テーマを、どのような研究の枠組みのなかで探求することがふさわしいのか、について、学生それぞれが理解し、研究の道筋を構築することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の進め方について。 授業参加の姿勢について。 毎回の授業から自分の研究への、結びつけ方について。	
	自分の研究テーマについての設計をもっていること。	６０分
第2回	文化社会学研究文献の精査。研究情報の集め方について。	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと。	60分
第3回	研究文献の精読（１）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第4回	研究文献の精読（２）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第5回	研究文献の精読（3）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第6回	研究文献の精読（4）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第7回	中間のまとめ――文献を研究のなかにどう活かすか。	
	自分の研究への振り返りをすること。研究の資料収集について確認しておくこと。	９０分
第8回	研究文献の精読（5）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第9回	研究文献の精読（6）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第10回	研究文献の精読（7）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第11回	研究文献の精読（8）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第12回	中間のまとめ――オリジナルデータとは何か	
	自分の研究について振り返りをすること。および、研究のオリジナリティについて考えること。	９０分
第13回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（１）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	９０分
第14回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（2）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	９０分
第15回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究計画について。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 それを夏休みの研究計画のなかに具体的にあらわすこと。	９０分
第16回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究成果についての報告。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 夏休みの研究成果をふまえ、今後の研究計画をたてること。	９０分
第17回	今後の研究の展望について。および研究文献の精読についてのガイダンス。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 今後の研究計画をたて、それに応じた研究の具体的方法について吟味すること。	９０分

第18回	研究文献の精読（９）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第19回	研究文献の精読（10）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第20回	研究文献の精読（11）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第21回	研究文献の精読（12）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第22回	中間のまとめ――学びをどのように応用するのか	
	いままでの研究を振り返り、それを論文という表現形式の中で形にするためには、何が必要かを考える。	９０分
第23回	研究文献の精読（13）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第24回	研究文献の精読（14）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分

第25回	研究文献の精読（15）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第26回	研究文献の精読（16）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	９０分
第27回	論文執筆指導（１） 論理的筋道をたてることについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第28回	論文執筆指導（２） 資料を有効に使うことについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第29回	論文執筆指導（３） 文章表現についての注意	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第30回	論文執筆の全体の確認。および今後の課題の確認。	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。　論文の成果と課題について、客観的に考えること。	120分

授業の方法
ゼミ形式。

成績評価の方法
出席（およそ20%程度）。研究文献の精読の達成度（40%程度）。研究文献への批判的精査あり方（20%程度）。研究論文の達成度（20%程度）。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
基本的に、学部レベルの社会学・文化社会学などの知識が必要である。

テキスト
学生の研究テーマをふまえて、ゼミの最初に決める。

参考書
ゼミのなかで指導する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション特殊研究Ａ		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071370601	単位数	4
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に大衆社会という観点から考えます。デジタルメディアをめぐるさまざまな社会現象を固有の枠組みの中で分析・考察することを通じて、「デジタルメディア社会」の新たな可能性を展望するとともに、その問題の淵源を探ることを目指します。

到達目標

DP8を実現するため、次の2点を到達目標とする。
①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その詳細を説明できるようになる。
②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて分析し、考察できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】　資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	文献購読	
	【復習】　資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	文献購読	
	【復習】　資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第10回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第11回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第16回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第17回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第18回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第19回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第20回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第21回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第22回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第23回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第24回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第25回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第26回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第27回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第28回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第29回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第30回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前後期とも、前半は文献講読中心に進めます。後半は実際の社会現象を取り上げ、ケーススタディ中心に進めます。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	松浦　義弘		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	伊藤　昌亮		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	小林　盾		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習IV		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	堀内　正樹		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究　（原子核のエネルギー）		
教員名	富谷　光良、鷹尾　康一朗、岩瀬　広、尾高　茂		
科目ナンバー	2110900113	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

現代では一般の人々が放射線について向き合い，正しい理解を求められる時代となった。言うまでもなく2011年3月11日に発生した東日本震災では，地震そのものの破壊力や直後の津波だけでなく，福島第一原子力発電所の事故とそれにともなう放射性物質の飛散による被害は7年を経過した今も深刻な事態が続いており，放射線の防護や除染なども日常的に意識しなければならないからである。
このような放射線とはいったいどのようなものなのか。体に害をおよぼすのはなぜか，放射線診療や構造物・材料の非破壊検査などで利用されるのはどういう理由によるのか，眼に見えない放射線の量はどのようにして測るのか，など基本的なことがらから応用まで正しい知識を身につける必要があろう。
そして，原子力発電である。エネルギー政策は私たちの生活を大きく左右する。したがって，原子力発電を将来のエネルギー政策の中にどう位置づけるのか，誰も無関心でいることはできない問題である。事故を含むリスクや安全管理などをふまえて検討するには，基礎となる知識や理解をもとに今後の日本を決める議論に参加することが望ましい。
また，事故にともなう被害の状況などについて実際に現地での調査活動の結果に基づいた議論をふまえ，人体への影響についても正しく理解することが必要であろう。
こうした観点から，本講義は関係するサイエンスやテクノロジーの分野で活躍されている研究者にオムニバス方式で登壇していただき，原子力発電を始め放射性物質と放射能に関する体系的な知識や情報を講義し，それをもとに自分たちの未来社会を決める議論に参加するための姿勢を醸成することを目指している。

到達目標

・放射線について市民として知っておくべき基本的でかつ正しい知識を身につける。
・原子力発電の仕組みを知り，原子力発電のリスクとメリットを理解して，原子力発電をめぐる様々な課題を正しく考えるための基盤を各個人の中に確立する。
・原子力災害にかかわる諸問題について学び，日本のエネルギー政策をめぐる議論に参加するための基本的な知識と姿勢を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション（富谷） 放射線科学，原子力発電，事故と放射線被害など，この講義で扱う内容を概観し，各人の予備知識の確認と扱う問題に対する意識あわせを行う。	
	予習：シラバスの内容を確認しておく。 復習：講義内容を整理して，授業中に与えられた参考資料を入手し，概要を把握する。	60
第2回	原子と原子核入門（富谷） 今後の授業内容に関係する予備知識を整理するために，原子，原子核などの基本的な事項を講義する。授業の最後に簡単なテストを行なって，知識の確認を行なう。	
	予習：前回の講義の内容を整理して，理解しておく。 復習：講義内容を整理しておく。	60
第3回	放射線と物質との相互作用（尾高） 電磁相互作用により，電子・光子は物質中で様々な現象を起こす。物質中での電離作用などは放射線検出器の原理になるし，また物質が生体分子であれば，生命への影響を考える上での基礎となる。それは，入射粒子の種類，物質の種類，入射エネルギーにより異なっている。物質と入射粒子の相互作用について理解する。また，放射線に関係する単位について理解する。	
	予習：電磁場中の荷電粒子の受ける力について，復習しておく。 復習：物質中の荷電粒子の振舞について，定性的に説明できるようにする。 。	60

第4回	加速器とその応用（尾高） 高エネルギー物理学，原子核物理学の研究に使われる，様々な加速器の原理と応用について説明する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：サイクロトロンの原理と実際の応用について説明できるようにする。	60
第5回	放射線測定器の原理（尾高） 様々な放射線測定器の原理と実際の使用例について説明する。測定器は、「放射線と物質との相互作用」の回で説明した素粒子の物質中での振る舞いに基づいて設計されている。放射線の種類とエネルギーの大きさ，測定量と要求される精度により，使用される測定器は決められる。基本的な放射線測定器の原理と実際の使用例について理解する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：代表的な放射線測定器について，説明できるようにする。	60
第6回	霧箱による放射線の観測（尾高） 霧箱を用いて微弱なアルファ線源からの放射線を観測する。放射性元素の崩壊の系列をもとに観測された現象を理解する。実験室での実習となる。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：霧箱による観測について，レポートにまとめる。	60
第7回	原子力発電の仕組み（鷹尾） 原子炉の中ではどのような反応が起きているのか，これを制御して運転する仕組みはどうなっているのか，どのような安全対策が取られているのか，などを総合的に解説する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第8回	核燃料サイクルその１（鷹尾） 核燃料製造について紹介する。ウラン鉱石の採石から化学的・物理的処理を経て原子炉で使用されるまでの過程について概説する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第9回	核燃料サイクルその２（鷹尾） 使用済み核燃料の処理・処分の方法と現状について紹介する。このテーマは原子力発電を考えるにあたって，避けて通ることのできない課題である。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60

第10回	核燃料サイクルその３（鷹尾） 使用済み核燃料および放射性廃棄物の処理・処分の方法と現状について紹介する。このテーマは原子力発電を考えるにあたって，避けて通ることのできない課題である。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：核燃料サイクルに関連する講義内容を整理した上で，課題として与えるテーマについて，レポートにまとめる。	60
第11回	環境放射線（岩瀬） 自然放射線・宇宙線の測定や観察を行いながらその種類と発生機構について学ぶ。またその観測頻度を比べ，人工放射線とあわせて，量に対する理解も深める。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第12回	放射線検出の実際（岩瀬） 線量検出に使用されるγ線測定器のスペクトルなど，測定結果の見方について実習や解説を行なう。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第13回	放射線量と人体への影響（岩瀬） 放射線量の考え方を，人体への影響を細胞やさらに細胞内の分子レベルに立ち返って理解する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第14回	放射線の防護（岩瀬） 放射線が物質とどのように関わるかを理解することで，その防護や考え方について模索する。物質透過実験などを行う。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第15回	震災後の現状について（岩瀬） 福島原発周辺のデータから汚染の実態や線量分布，動植物への移行などについて解説する。また汚染とは何か，汚染するものしないものについて理解する。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：線量の管理についての講義内容を整理した上で，課題として与えるテーマについて，レポートにまとめる。	60

授業の方法

主に教室での講義だが，実験・実習も取り入れてできるだけ話が具体的になるようにする。

成績評価の方法

レポート75%，授業への参加状況25%とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

専門知識は必要としないが，科学的な思考や論理的扱いなどに慣れていることを前提とする。

テキスト

なし

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究　（知的財産と経営）		
教員名	岡田　桂治		
科目ナンバー	2110900103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

産業技術への知的財産権の活用は日本経済発展のカギと言えよう。　しかし、知的財産権を保護する特許法、著作権法について一般の技術者がその内容を十分理解し、有効に活用しているとは言い難いのが現状であろう。　産業界においてはその重要性を認識し、知的財産担当役員(CIPO)を置く企業も散見されるようになってきた。　このような状況を踏まえ、知的財産関連法の習得と企業の知的財産戦略を理解することが本授業のテーマである。
特許の歴史、基本理念、特許法、著作権法の概要、企業間の特許紛争、米国における特許訴訟リスク等の具体例による検証、会社経営における知的財産の重要性、持続可能な会社経営、ESG投資等を概説する。

到達目標

①特許法、著作権法について、その基本理念を理解し、「知的財産検定２級」程度の知識を習得する。
②企業における特許権紛争の本質を理解し、課題への対処の仕方を理解する。
③貸借対照表等の財務諸表による企業価値評価と知的財産に基づく評価の違い、知的財産経営の重要性を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業概要、進め方、評価方法等について ・情報化社会における知的財産の位置づけ ・情報の意味、ディジタル技術の特長と知財政策	
	ネット検索等により最近の特許権紛争について調べ、問題意識を醸成する。	90
第2回	特許制度の歴史 ・近代特許制度の歴史概観 ・米国プロパテント（特許重視）政策 ・バイドール法、ヤングレポート等	
	ネット検索によりプロパテント政策の意義を認識する。	60
第3回	日本の知的財産政策 ・知的財産戦略本部（内閣府）の政策 ・知的財産権の種類と特徴（特許、実用新案、著作権、営業秘密等）	
	前回配布の講義資料を読み、理解を深めておく。	60

第4回	特許法詳細 ・特許法主要条項の意味理解 ・特許の要件、職務発明、特許権効力の範囲、共有に係わる権利の扱い、差し止め請求権等	
	配布資料により各条項の意味を確認しておく。	90
第5回	特許出願の流れ ・特許出願のフロー ・特許申請に必要な書類 ・特許法の歴史的変遷	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第6回	企業における特許管理 ・特許出願から消滅までの管理事項 ・論文と特許の違いについて ・大学発特許の課題	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第7回	特許を取るための要件 ・新規性の意味解釈 ・進歩性の評価尺度と特許庁の指針 （構成の困難性、目的・効果の予測困難性等）	
	進歩性の判断基準を復習しておくとともに、配布された特許公開公報を読んでおく。	90
第8回	具体例による特許性判断 ・特許公開公報の実例による特許性判断の議論 ・進歩性の有無、明細書記載要件の充足等の議論 ・ビジネスモデル特許の具体例と成立要件	
	配布資料によりビジネスモデル特許の成立要件を確認しておく。	60
第9回	米国における特許訴訟について ・米国における訴訟リスク ・具体例による訴訟リスクの分析	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60

第10回	特許関連紛争の分析 ・企業間特許訴訟例（NAND型フラッシュメモリー、インクカートリッジ訴訟等） ・職務発明訴訟（青色LED等）と条項改定の影響 ・強い特許の条件	
	ネットにより特許訴訟の実例を検索しておく。	60
第11回	中小企業における知財財トラブルの分析 ・経済産業省による実態調査報告 ・秘密保護法概要、秘密保護契約書の実例 ・不正競争防止法、独占禁止法の概要	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第12回	著作権法の概要 ・著作者の権利、著作物伝達者の権利 ・著作物の定義、著作者の推定 ・著作権の制限、職務著作権、保護期間の原則等	
	配布資料により著作権法の各条項に目を通しておく。	60
第13回	知的財産権の国際化 ・知的財産と技術標準 ・知的財産に関する国際条約	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第14回	企業におけるオープン化戦略 ・オープン化により期待される効果 ・米国IT企業におけるオープン化戦略例 ・企業情報システム・アプリケーション市場の変遷	
	オープン化戦略の実態をネット検索しておく。	90
第15回	企業経営と知的財産戦略 ・企業の価値評価の基準 （財務資本、人的資本、組織構造資本等） ・持続可能な会社経営の要件 （SRI,PRI,ESG等の投資原則） ・企業不祥事発生の要因と分析	
	最近の企業買収等の実例、責任投資原則（PRI)、ESG投資等ををネットで調べておく。	60

授業の方法

配布資料、黒板による講義と討論により進めます。
・授業内容の理解度を確認するため、随時小テストを行います。
・理解の状況を勘案して、授業の進行速度を調整するとともに、内容を一部変更することがあります。

成績評価の方法

随時行う小テスト（40%程度）、最終テスト（40%程度）、受講態度・発言等（20%程度）を基本とし、出席状況を加味して総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
・特許法の基本理念、各条項の内容理解度
・新規性、進歩性、職務発明等、用語の理解度
・著作権法の基本理念、各条項の内容理解度

必要な予備知識／先修科目／関連科目

技術開発、特許制度、会社経営等に興味を持ち、授業に積極的に参加する態度があれば特段の予備知識は不要です。
インターネットを有効に活用した情報収集能力を期待します。

テキスト

黒板、配付資料等により授業を進めるので特定のテキストは使用しません。

参考書

井上岳史著；「特許が世界を塗り変える」 NTT出版、
大嶋洋一著；「エンジニアのための知的財産権概説」 CQ出版社、
竹田和彦著；「特許がわかる１２章」 ダイヤモンド社、
柴田英寿・伊原智人著；「オフ・バランス経営革命」 東洋経済新報社、
中嶋隆・中嶋光著；「知的財産経営」 日本プラントメンテナンス協会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中の質問は歓迎します。　授業終了後にも教室で受け付けます。
更に深い議論を望む学生さんには、電子メールによりアクセスができる様にします。

科目名	学際分野特殊研究　（力学系の理論と応用）		
教員名	藤垣　芳文		
科目ナンバー	2230753010	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

微分方程式の「解」の求め方についての基礎知識を学び，その方法を社会現象や自然現象の分析に応用する力を養う。さらに，微分方程式の平衡点および解曲線の「分岐」に関する初歩の理論を学習し，それを複雑な社会経済問題に応用することを試みる。解析的方法によって厳密に解ける微分方程式は限定されるので，そうでないものを取り扱うための線型近似やコンピュータによる数値計算の方法にも，いろいろな例題を通して慣れ親しむ。

到達目標

DP６（専門分野の知識，理解），DP7(論理的思考力）を実現するため以下を到達目標とする。
（１）自然現象や社会現象を微分方程式を用いてモデル化する力を養うこと。
（２）モデル化によって立てた微分方程式を，厳密に，あるいは図形的，ないしは近似的に解く方法を身につけ，それから得た結果を分析することで問題解決につなぐための科学的な考え方や方法を習得すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	序論・現象のモデル化と微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習	90
第2回	状態の変化に関するいつくかの例題	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第3回	1階微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第4回	2階以上の微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第5回	連立線形定係数微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第6回	非線形微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第7回	平衡点の分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第8回	リミットサイクル	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第9回	ホップ分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第10回	応用のための準備・経済主体の最適化行動入門	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第11回	応用１・市場を介した企業間の相互作用	
	配布資料を用いての予習復習	90
第12回	応用２・経済過程における内生的循環	
	配布資料を用いての予習復習	90
第13回	応用３・環境問題と環境税政策	
	配布資料を用いての予習復習	90
第14回	応用４・国際貿易と一般均衡	
	配布資料を用いての予習復習	90
第15回	復習とまとめ	
	配布資料を用いての復習	120

授業の方法
講義を中心に授業を進める。毎回，プリントを配布し，それにもとづいて講義を行う。

成績評価の方法
授業中に不定期に実施する小テストと期末レポートを総合して評価する．評価の割合は，平常点50%，期末レポート50%を予定する。

成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の２）に準拠する。/Grades in the cource are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.
上記，達成目標の達成度にもとづいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
予備知識として「微分・積分」等の解析学の基本，「ベクトル・行列」等の線形数学の基本が必要。

テキスト
テキストは使用しない。毎回，担当者が作成した資料を配布する。

参考書
ローレンツ・H・W 著『非線形経済動学とカオス』，日本経済評論社，2000
桑村 雅隆 著『パターン形成と分岐理論』，共立出版，2015
新貝 寿明 著『徹底攻略 常微分方程式』，共立出版，2010
Strogatz, S. H., Nonlinear Dynamics and Chaos, 2nd ed., Westview Press, 2015
Wolfram, S., An Elementary Introduction to the Wolfram Language, 2nd ed., Wolfram 社のホームページからダウンロード可能

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究　（科学の考え方Ｉ）		
教員名	瀬戸　一夫		
科目ナンバー	2160310095	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

科学の考え方は、日常的なものの見方や考え方と、どこでどのように関係し、後者とどのように異なるのか。また、科学の客観性は、どのようにして成立するのか。これらの問題を、科学的な考え方が歴史のなかに登場した時代まで遡って検討し、その真相に迫る予定である。また、このことから得られた知見をもとに、現代科学が直面している諸問題を見直すために有効な視点を求める。

到達目標

科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討することで、現代科学が直面している諸問題を発見し(DP2)、自学自習的にそれらを検討する(DP1)ことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 科目の趣旨を説明する。また、授業の進め方と狙いについて､解説する。	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30 30
第2回	経験的な知識について考える。	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第3回	科学の客観性はどのように成り立つのか検討する。	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60

第4回	草創期の科学的思考について考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	科学的な説明の原型を追究する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	説明原理の役割を検討し直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第7回	古代の自然研究がもつ現代的な意義を考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第8回	近代科学の歴史的背景を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	近代科学の歴史的背景について検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60

第10回	古代の自然研究と現代の自然科学を対比する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第11回	自然科学の基本前提を見直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第12回	現代科学の問題点を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第13回	現代科学の問題を近代合理主義との関係で考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第14回	科学の方法を再検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第15回	現代科学が直面している諸問題を歴史的な観点から検討する。	
	(予習)今学期に学んだことを振り返り、質問したいことや、議論したいテーマを、各自で考えておく。	60

授業の方法

ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメ(スライド)を作成して他の出席者たちに配り、内容を解説し、質問に回答することが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第２回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合（各25パーセント）で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
特に次のことを重視して評価する。
・自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。
・科学の諸問題について議論する力量の有無。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』(ちくま新書)　７４０円
電子書籍版あり。

参考書

瀬戸一夫著『知識と時間』(勁草書房)　２，６００円
その他、必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究　(科学の考え方II)		
教員名	瀬戸　一夫		
科目ナンバー	2160310096	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

科学的な考え方は、日常的なものの見方や考え方と、どこでどのように関係し、後者とどのように異なるのか。これらの問題を、科学が革命的な理論転換を遂げた、過去の典型的な事例に沿って検討する。これにより、科学の今後に向けて、どのような見方や考え方が必要なのかを討議する。

到達目標

科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討するることで、現代科学が直面している諸問題を見直し、科学に関する問題を哲学的な観点からも捉えられる(DP1&DP2)。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 科目の趣旨説明	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30 30
第2回	専門的な知識と常識の関係	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第3回	運動の相対性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60

第4回	仮説演繹法	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	天動説の世界観	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	地動説の実像	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第7回	科学と宗教	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第8回	コペルニクス革命の真相	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	革命の死角	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60

第10回	ニュートンの根本的着想	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第11回	対称性と客観性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第12回	．コペルニクス革命再考	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第13回	ニュートンの三法則に秘められた意味	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60
第14回	科学の排他性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第15回	科学による生活世界の支配	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を､確認しておく。	60

授業の方法

ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメを作成して他の出席者たちに配り、内容の解説、質問への回答をすることが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第２回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合（各25パーセント）で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
特に次のことを重視して評価する。
・自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。
・科学の諸問題について議論する力量の有無。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』(ちくま新書) ７４０円
電子書籍版あり。
瀬戸一夫著『コペルニクス的転回の哲学』(勁草書房)この本は購入しなくてよい。

参考書

必要に応じて、そのつど紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。